

大村市

子どもの生活実態調査

集計結果報告書

平成30年3月

目次

1	調査概要	1
	(1) 調査の目的	1
	(2) 調査の対象と実施方法	1
	(3) 配布・回収状況	2
2	“生活困窮”の視点からの世帯の類型化	6
	(1) “生活困窮”の視点からの世帯の類型化に用いた設問	6
	(2) 等価世帯年収指標	7
	(3) 剥奪指標による判別	8
	(4) 困窮指標による判別	13
	(5) 3つの指標から捉えた判別を踏まえた類型化	15
3	保護者向け調査の集計・分析	17
	(1) お子さんの学年 (SA)	17
	(2) お子さんからみた回答者の続柄 (SA)	17
	(3) お住まいの地区 (SA)	18
	(4) 家族の人数 (NA=数量回答)	19
	(5) 単身赴任等の有無 (SA)	20
	(6) 家族構成 (MA)	20
	(7) お子さんの人数 (NA=数量回答)	21
	(8) 住居形態 (SA)	22
	(9) 親の年齢 (母親・父親) (SA)	23
	(10) 親の最終学歴 (母親・父親) (SA)	25
	(11) 親の就業状況 (母親・父親) (SA)	27
	(12) 親の健康状態 (母親・父親) (SA)	29
	(13) お子さんの性別 (SA)	30
	(14) お子さんの健康状態 (SA)	30
	(15) お子さんの身体状況等 (SA)	31
	(16) 受診が必要であるのに受診しなかった経験 (SA)	32
	(17) むし歯の有無 (SA) とむし歯の治療中の有無 (SA)	33
	(18) 生活・学習習慣の状況 (SA)	34
	(19) 習い事等の状況 (SA)	36
	(20) 将来の進学見通し (SA)	38
	(21) 子どもにとって必要な環境・モノ (SA)	40
	(22) お子さんに与えられている環境・モノ (SA)	41
	(23) 経済的理由による困窮経験 (SA)	42
	(24) 世帯の年間収入 (SA)	43
	(25) 1ヶ月に最低限必要と考えられる生活費 (SA)	44
	(26) 各種手当・援助の受給経験 (SA)	45
	(27) 現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)	46

(28)	子どものころの生活の経済的ゆとりの程度 (S A)	46
(29)	現在の幸福度 (S A)	47
(30)	子どものころの幸福度 (S A)	47
(31)	子育てについての心配や悩み事 (MA)	48
(32)	心配や悩み事の相談相手 (MA)	49
(33)	【小学校5年生の保護者】中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの (MA)	50
(34)	【中学校2年生の保護者】中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの (MA)	51
(35)	各種支援サービスの利用経験 (S A)	52
(36)	必要と思う支援 (MA)	54
(37)	自由意見 (F A)	55
4	子ども向け調査の集計・分析	56
(1)	性別 (S A)	56
(2)	将来の夢の有無 (S A)	57
(3)	将来なりたい職業 (S A)	58
(4)	将来の進学希望 (S A)	59
(5)	持っている物 (S A)	60
(6)	放課後を過ごす場所 (S A)	62
(7)	放課後を一緒に過ごす相手 (S A)	63
(8)	どのような友達がいるか (MA)	64
(9)	友達との関係 (S A)	65
(10)	食事を一緒にする相手 (S A)	66
(11)	平日の起床時間・就寝時間 (S A)	67
(12)	平日の時間の過ごし方 (S A)	70
(13)	悩み事の有無 (S A) と相談相手の有無 (S A)、相談相手 (MA)	71
(14)	ふだんの会話の状況 (S A)	73
(15)	学校生活での楽しみ (S A)	75
(16)	日常生活の中で感じていること (S A)	77
(17)	自由意見 (F A)	79
5	両親の学歴と「親の進学見通し」、「子どもの進学希望」について	80
(1)	分析に用いた設問と選択肢の読み替え・分類	80
(2)	両親の学歴と進学の見通し・希望	81
(3)	進学見通しと進学希望のマッチング状況	82
(4)	進学の見通しと見通し理由	84
(5)	進学の見通し理由と見通し・希望のマッチング状況	85
【参考】	全国学力・学習状況調査との比較	86

1 調査概要

(1) 調査の目的

少子化や子どもの貧困等の問題が全国的に深刻化・顕在化していく中、本調査は、大村市に暮らす市民が安心して子どもを育てるために必要となる取組について検討するにあたり、本市における子どものいる家庭の生活状況や子どもの様子、子育ての悩みや困りごと等の実態を把握することを目的に実施しました。

(2) 調査の対象と実施方法

調査は、平成 29 年 10 月に市内の小学校 5 年生 992 人、中学校 2 年生 965 人を対象として、“保護者向け調査”及び“子ども向け調査”の 2 種類で実施しました。

“保護者向け調査”については、学校・子どもを通じた配布・回収を行い、また、“子ども向け調査”については（自宅等への持ち帰りではなく）、学校で配布・実施・回収を行いました（平成 29 年 10 月実施）。

なお、“保護者向け調査”と“子ども向け調査”の各調査は、いずれも無記名式で実施したため、回収後に両調査票について世帯ごとの結び付けを行う観点から、それぞれの調査票に結び付けのための連番を振りました。連番は、保護者から回収した調査票とその子どもから回収した調査票を結び付けるためのものであり、個人を特定できるものではありません。

(3) 配布・回収状況

配布・回収の状況については次のとおりです。

	保護者向けのみ 回収	両調査票とも 回収	子ども向けのみ 回収	計
小学5年生	3	897	57	957
中学2年生	7	790	138	935
計	10	1,687	195	1,892

	保護者向けのみ 回収	両調査票とも 回収	子ども向けのみ 回収	計
小学5年生	0.2%	47.4%	3.0%	50.6%
中学2年生	0.4%	41.8%	7.3%	49.4%
計	0.5%	89.2%	10.3%	100.0%

回収した調査票は、保護者向けと子ども向けを併せて1,892件（世帯）で、回収率は保護者向けが86.7%、子ども向けが96.1%でした。

(4) 設問構成

両調査の設問構成は次のとおりです。

[保護者向け調査票]

保護者向け調査	小5	中2		
回答者と家族について				
お子さんからみた回答者の続柄	問1	問1		
お住まいの地区	問2	問2		
家族の人数と単身赴任等の有無	問3	問3	等価世帯 年収指標	
家族構成	問4	問4		
お子さんの人数	問5	問5		
住居形態	問6	問6		
親の年齢（母親・父親）	問7	問7		
親の最終学歴（母親・父親）	問8	問8		
親の就業状況（母親・父親）	問9	問9		
親の健康状態（母親・父親）	問10	問10		
お子さんについて				
お子さんの性別	問11	問11		
お子さんの健康状態	問12	問12		
お子さんの身体状況等	問13	問13		
受診が必要であるのに受診しなかった経験	問14	問14		
受診しなかった理由	問14-1	問14-1		
むし歯の有無	問15	問15		
むし歯の治療中の有無	問15-1	問15-1		
お子さんの生活・学習習慣について				
生活・学習習慣の状況（10項目）	問16	問16		
習い事等の状況	問17	問17		
習い事等をしていない理由	問17-1	問17-1		
将来の進学見通し	問18	問18		
進学見通しの理由	問19	問19		
お子さんについて				
子どもにとって必要な環境・モノ（18項目）	問20	問20	剥奪指標	
お子さんに与えられている環境・モノ（18項目）	問21	問21		
経済的理由による困窮経験（6項目）	問22	問22	困窮指標	

保護者向け調査	小5	中2
世帯の経済的状況について		
世帯の年間収入	問 23	問 23
1ヶ月に最低限必要と考えられる生活費	問 24	問 24
各種手当・援助の受給経験（8項目）	問 25	問 25
現在の生活の経済的ゆとりの程度	問 26	問 26
子どもころの生活の経済的ゆとりの程度	問 27	問 27
現在の幸福度	問 28	問 28
子どもころの幸福度	問 29	問 29
子育ての悩みや相談について		
子育てについての心配や悩み事	問 30	問 30
心配や悩み事の相談相手	問 31	問 31
中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの	問 32	
中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの		問 32
各種支援・サービスについて		
各種支援・サービスの利用経験（8項目）	問 33	問 33
必要と思う支援	問 34	問 34

等価世帯
年収指標

[子ども向け調査票]

子ども向け調査		小5	中2
性別		○	○
将来の夢について			
将来の夢の有無		問1	問1
将来の夢がない理由		問2	問2
将来なりたい職業		問3	問3
将来の進学希望		問4	問4
持っている物について			
持っている物（小学5年生：14項目、中学2年生：13項目）		問5	問5
日常生活の状況について			
放課後に過ごす場所		問6	問6
放課後を一緒に過ごす相手		問7	問7
どのような友達がいるか		問8	問8
友達との関係		問9	問9
食事を一緒にする相手（5項目）		問10	問10
平日の起床時間・就寝時間		問11	問11
平日の時間の過ごし方（5項目）		問12	問12
悩み事の有無		問13	問13
相談相手の有無		問14	問14
相談相手		問15	問15
ふだんの会話の状況（6項目）		問16	問16
学校生活での楽しみ（8項目）		問17	問17
日常生活の中で感じていることについて			
日常生活の中で感じていること（自己肯定感10項目）		問18	問18

2 “生活困窮”の視点からの世帯の類型化

(1) “生活困窮”の視点からの世帯の類型化に用いた設問

本調査の集計・分析にあたっては、子どもの貧困問題について大村市における実態を把握するため、アンケート結果に基づき、子どもの“生活困窮”という視点から世帯の判別・類型化を行いました。

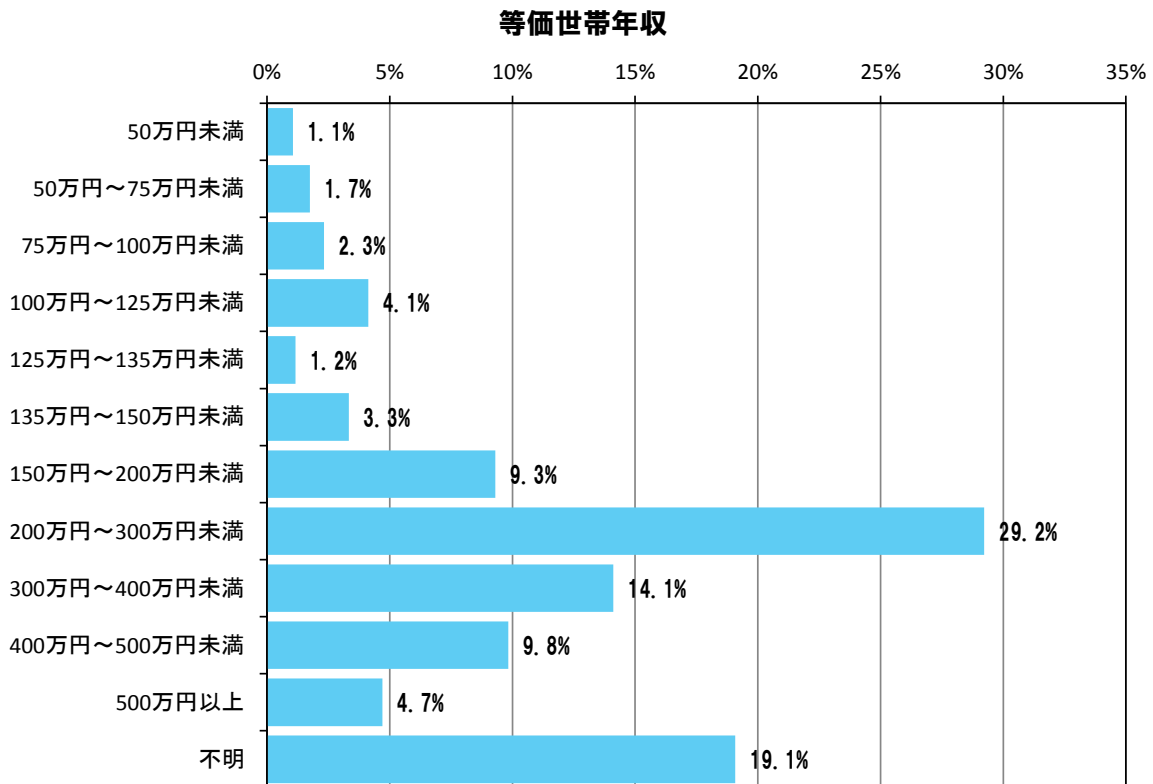
子どもの“生活困窮”について、本調査では“等価世帯年収”“剥奪指標”“困窮指標”の3つの視点から捉えることとし、具体的には次の5つの設問への回答データに基づく判定・類型化を行いました。

判定	判別・類型化に用いた設問
等価世帯年収	世帯の年間収入
	世帯人数
剥奪指標	子どもにとって必要な環境・モノ（14項目）
	お子さんに与えられている環境・モノ（14項目）
困窮指標	経済的理由による困窮指標（6項目）

(2) 等価世帯年収指標

世帯年収の情報に加え、当該世帯人数の情報を加味することで等価世帯年収（世帯年収を世帯人数の平方根で除した値）として捉えました。

等価世帯年収の状況についてみると、“200万円～300万円未満”が最も多く29.2%となっており、これを含む等価世帯年収200万円以上の世帯が全体の57.8%を占めています。



等価世帯年収指標は、「平成27年国民生活基礎調査」による貧困線である135万円未満の世帯を“生活困窮世帯”と判別することとしました。

◆等価世帯年収“135万円未満”の場合 ⇒ “生活困窮世帯”

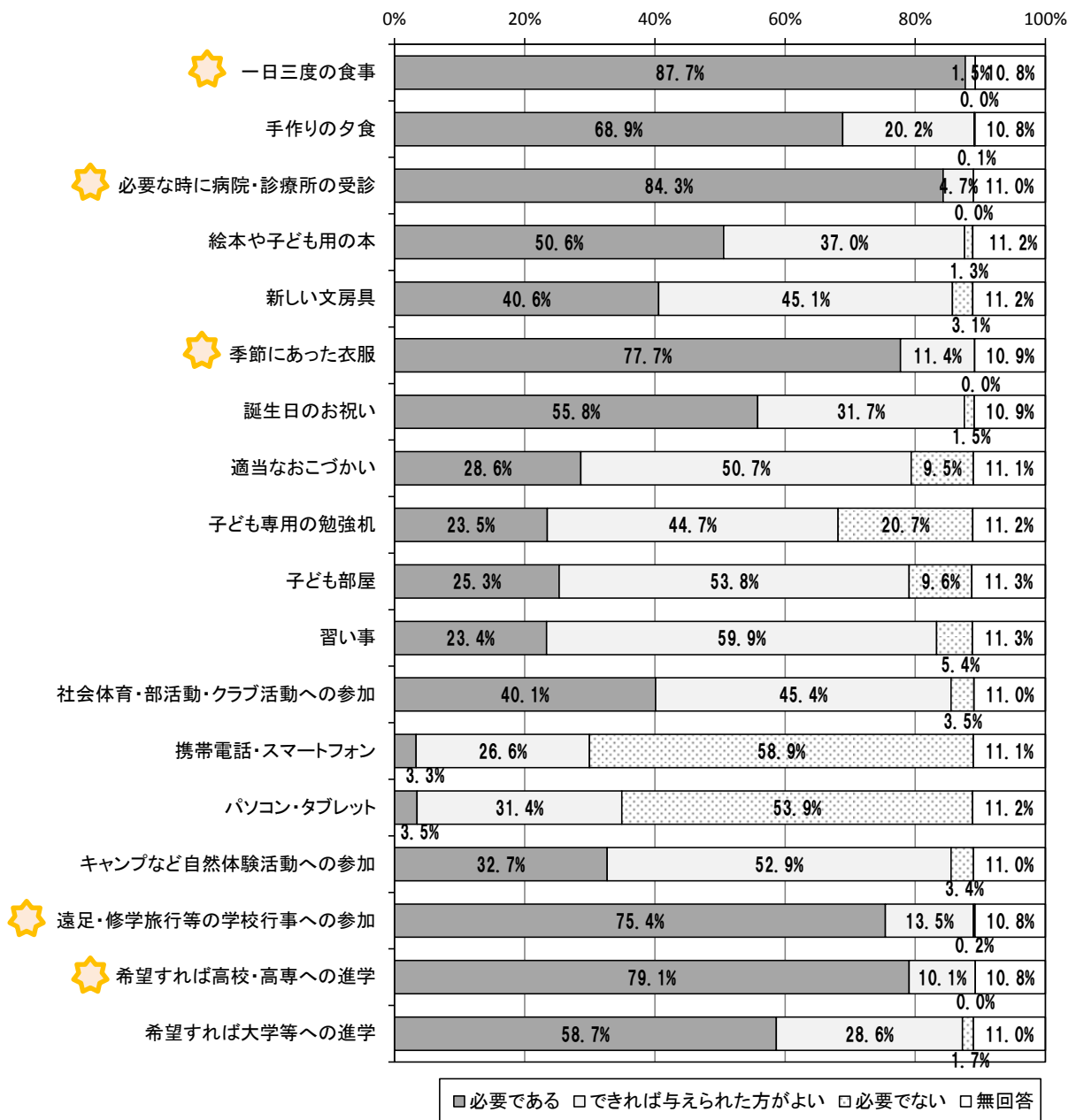
(3) 剥奪指標による判別

[剥奪指標の設定]

子どもにとって必要な環境・モノについて伺ったところ、次のような結果でした。

“必要である”との回答が多かったのは、“一日三度の食事” 87.7%、“必要なとき病院・診療所の受診” 84.3%、“高校・高専への進学” 79.1%等となっており、これらを含め75%以上の方が“必要である”と考える環境・モノが5項目あります。

子どもにとって必要な環境・モノ



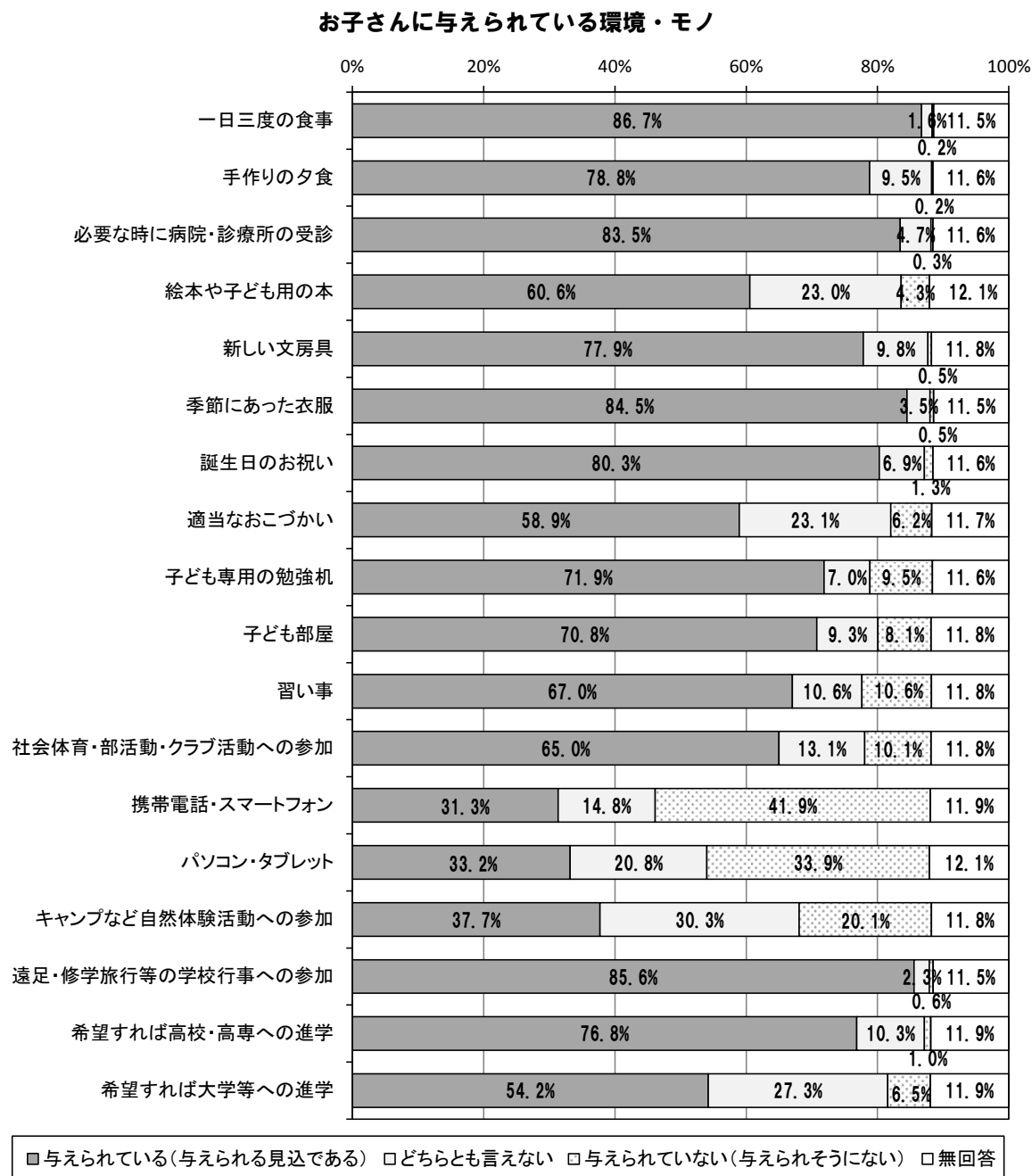
これらの5項目は、保護者の75%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして捉えており、言い方を換えると、大村市に暮らす子どもにとって不可欠である（子どもから剥奪されるべきではない）と考える環境・モノとして75%以上の方の合意があると考えられます。

こうした考え方にに基づき、本調査では、保護者の75%以上の方が子どもにとって必要な環境・モノとして挙げた5項目について、子どもに欠かすべきではない環境・モノとして“生活困窮世帯”の判別に用いることとしました。

剥奪指標5項目 (子どもにとって必要な環境・モノ)	“必要である”割合
一日三度の食事	87.7%
必要なときに病院・診療所に行く	84.3%
季節にあった衣服	77.7%
学校行事への参加	75.4%
高校・高専への進学	79.1%

[剥奪指標による判別]

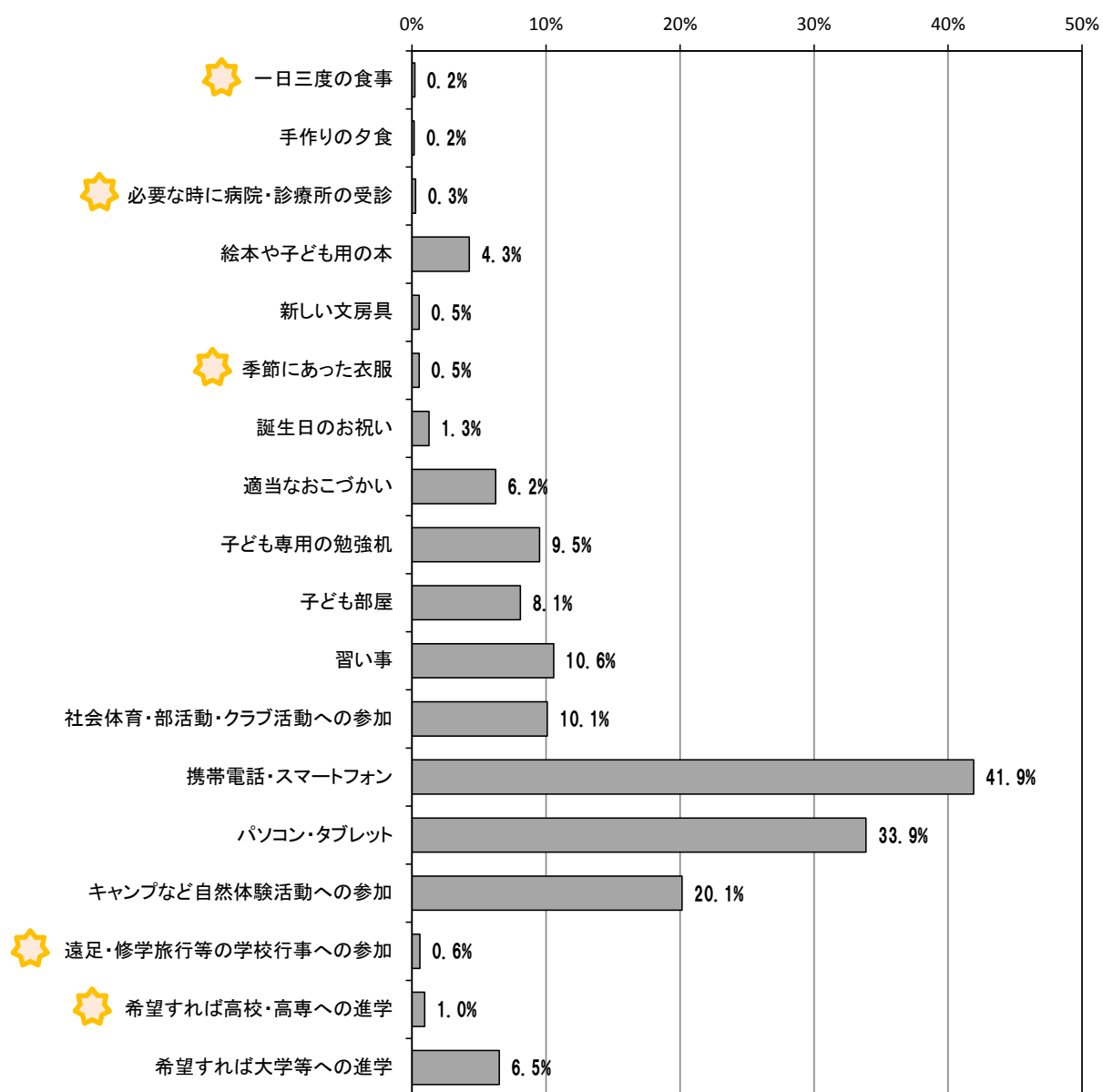
次に示すのは、お子さんに与えられている環境・モノの実態です。



“一日三度の食事”等が50%以上の世帯で“与えられている”一方で、“自然体験活動への参加”の37.7%等、与えられている世帯が50%未満の環境・モノが3項目あることがわかります。

こうした結果について、“与えられていない”に着目してみると次のようになっています。

お子さんに与えられていない（与えられそうにない）環境・モノの割合



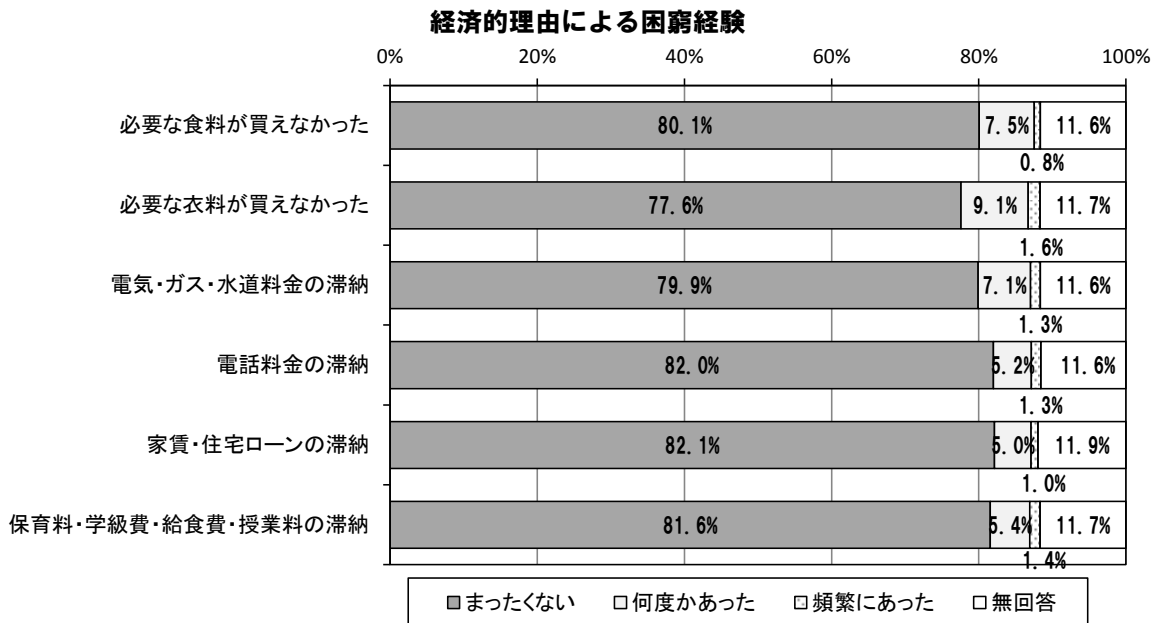
剥奪指標 5 項目 (子どもにとって必要な環境・モノ)	“与えられていない” 割合
一日三度の食事	0.2%
必要なときに病院・診療所に行く	0.3%
季節にあった衣服	0.5%
学校行事への参加	0.6%
高校・高専への進学	1.0%

剥奪指標による判別として、上記 5 項目のいずれかが“与えられていない”世帯について“生活困窮世帯”と判別することとしました。

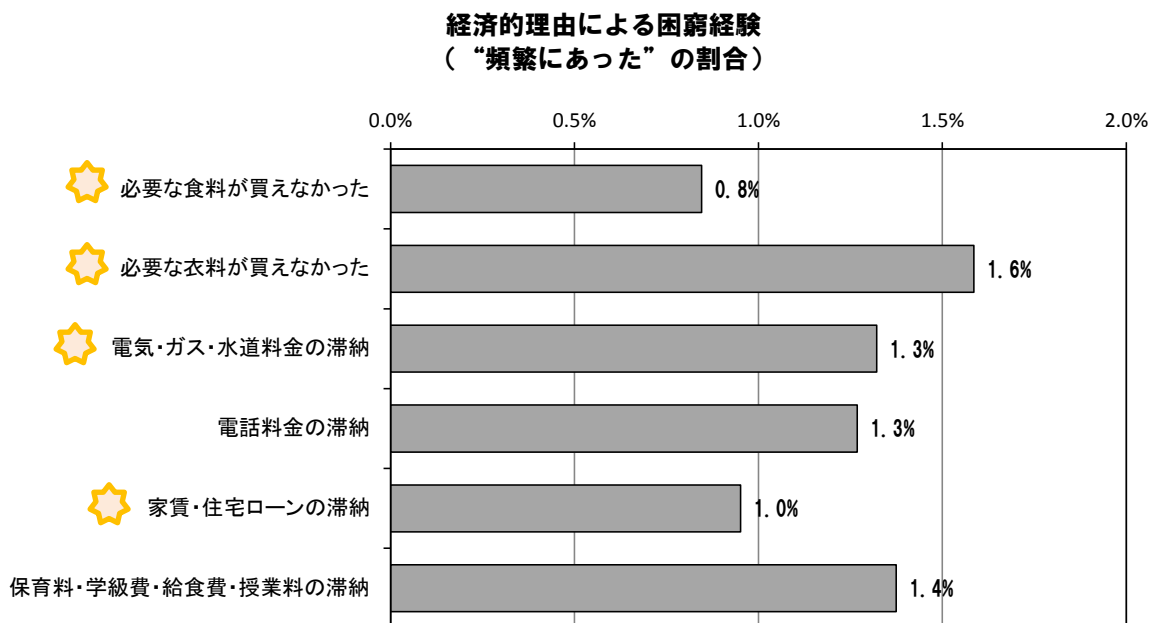
◆剥奪指標 5 項目のいずれかが“与えられていない”場合 ⇒ “生活困窮世帯”

(4) 困窮指標による判別

経済的理由による困窮経験について伺ったところ、“必要な食料が買えなかった”等の6項目について、次のような結果を得ることができました。



これら6項目の中で、衣・食・住に大きく関わる次の4項目を困窮指標による判別に用いることとし、“頻繁にあった”に着目してみると次のようになっています。



困窮指標による判別として、これら4項目のいずれかが“頻繁にあった”世帯について“生活困窮世帯”と判別することとしました。

判別に用いた困窮指標4項目
必要な食料が買えなかった
必要な衣料が買えなかった
電気・ガス・水道料金の滞納
家賃・住宅ローンの滞納

◆困窮経験4項目のいずれかが“頻繁にあった”場合 ⇒ “生活困窮世帯”

(5) 3つの指標から捉えた判別を踏まえた類型化

ここまでに示した3つの視点からの“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”といった類型化を行いました。

“生活困窮世帯” 指標	判別基準
等価世帯年収指標	<ul style="list-style-type: none"> ◆等価世帯年収“135万円未満”の場合、“生活困窮世帯”と判別する ◇世帯年収について無記入の場合、等価世帯年収による判別は不能とする
剥奪指標5項目	<ul style="list-style-type: none"> ◆5項目のいずれかが“与えられていない”場合、“生活困窮世帯”と判別する ◇5項目中に無記入の項目がある場合、剥奪指標5項目による判別は不能とする
困窮指標4項目	<ul style="list-style-type: none"> ◆4項目のいずれかが“頻繁にあった”場合、“生活困窮世帯”と判別する ◇4項目中に無記入の項目がある場合、困窮指標4項目による判別は不能とする



類型化	<ul style="list-style-type: none"> ◆“生活困窮世帯”指標のいずれかで“生活困窮世帯”と判別された場合、“生活困窮世帯”として扱う ◇“生活困窮世帯”指標の全てにおいて判別不能と判断された場合、“生活困窮世帯”の判別が不能であり、集計上は“不明”として扱う ◇上記の“生活困窮世帯”“不明”のいずれでもない場合は、“それ以外の世帯”として扱う
-----	---

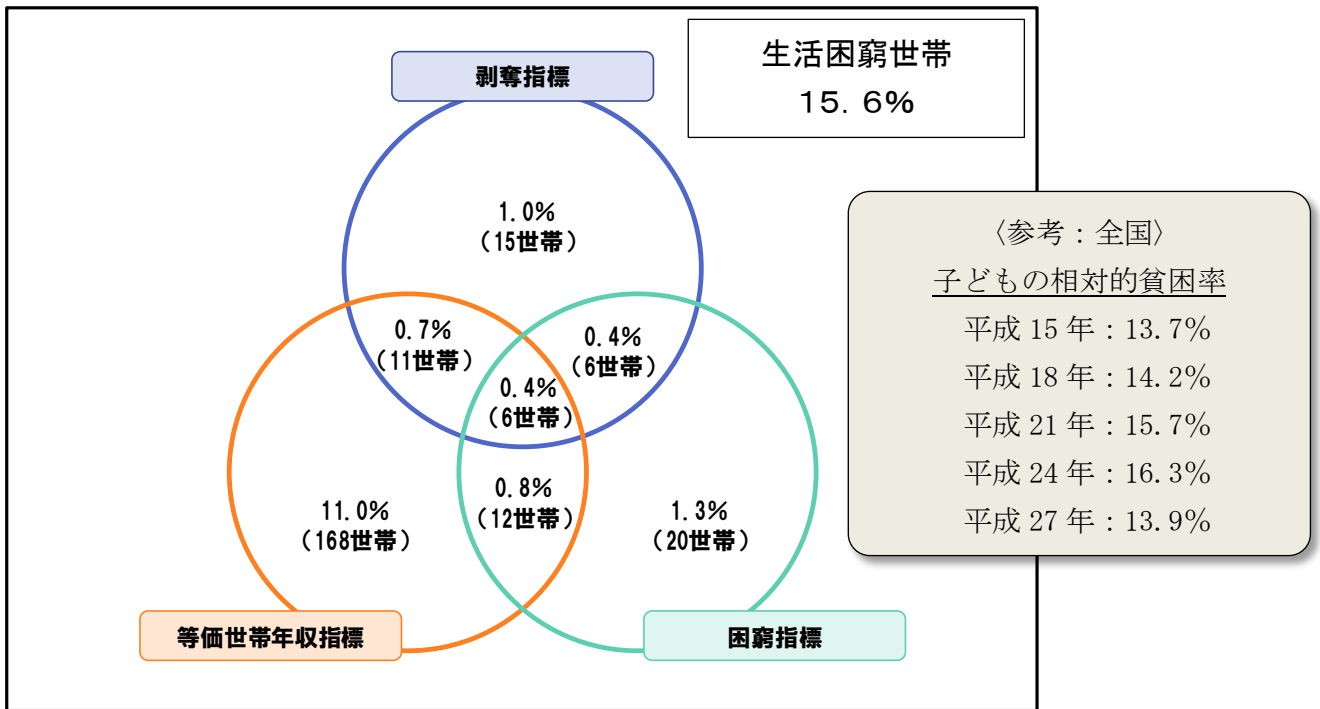


		件数	構成比	
			全データ対象	判別可能データ
集計	生活困窮世帯	238世帯	12.6%	15.6%
	それ以外の世帯	1,287世帯	68.0%	84.4%
	不明	367世帯	19.4%	
	計	1,892世帯	100.0%	100.0%

【生活困窮世帯の割合】

前掲の3つの指標による世帯の類型化判別を行った結果、小学5年生・中学2年生のいる世帯について、“生活困窮世帯”の割合が15.6%、それ以外の世帯が84.4%となりました。

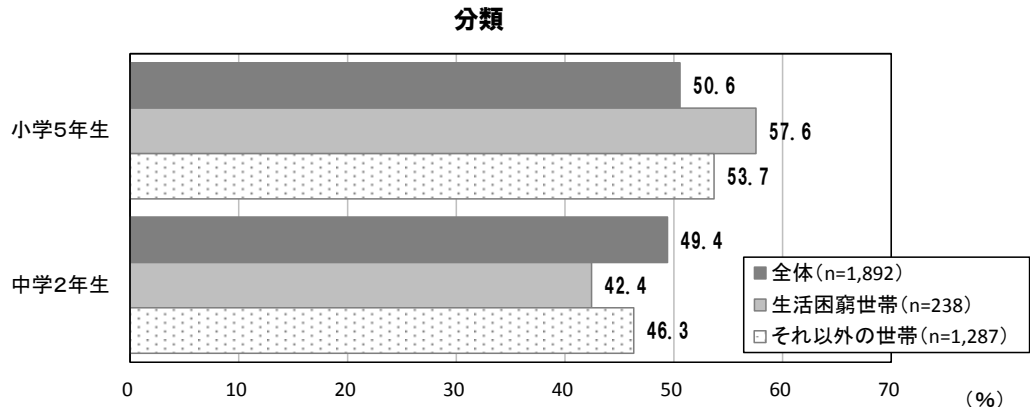
なお、類型化を行うための設問への回答がない世帯については類型化ができないため、ここでの割合はこうした類型化不能の世帯を除いて算出しています。



- 本レポートでは、次ページ以降、原則として類型化した“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”別の集計を基本とします。
- 集計結果を示すグラフには、“全体”“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”それぞれが示されており、“全体”には“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”の類型化ができなかった“不明”を含んでいます。
- 単数回答（SA）の設問で、各選択肢の合計が100.0%にならない場合があるのは四捨五入処理の関係によるものです。複数回答（MA）の設問については、基本的に各選択肢の合計は100.0%を超えます。
- グラフ中に“n=1,892”などとあるのは、その設問に回答すべき対象者数です。一部のの人に回答を求めている設問などがあるため、nの値は設問によって異なります。

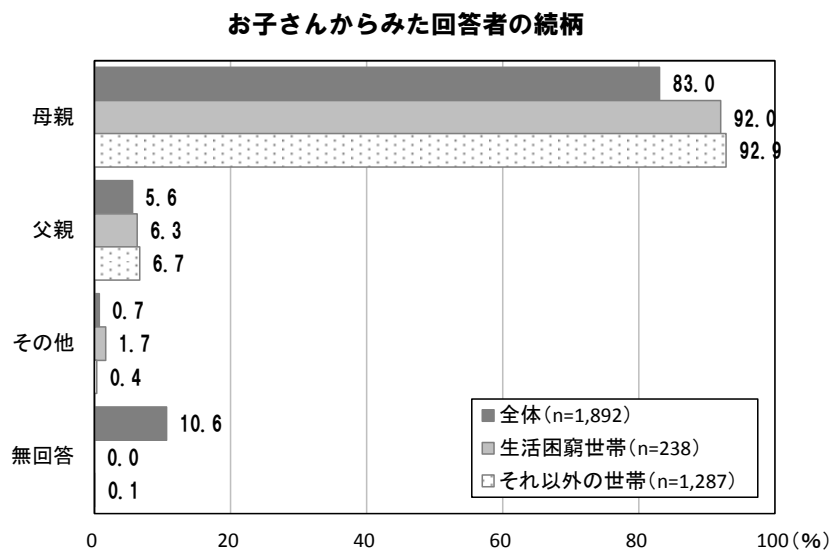
3 保護者向け調査の集計・分析

(1) お子さんの学年 (SA)



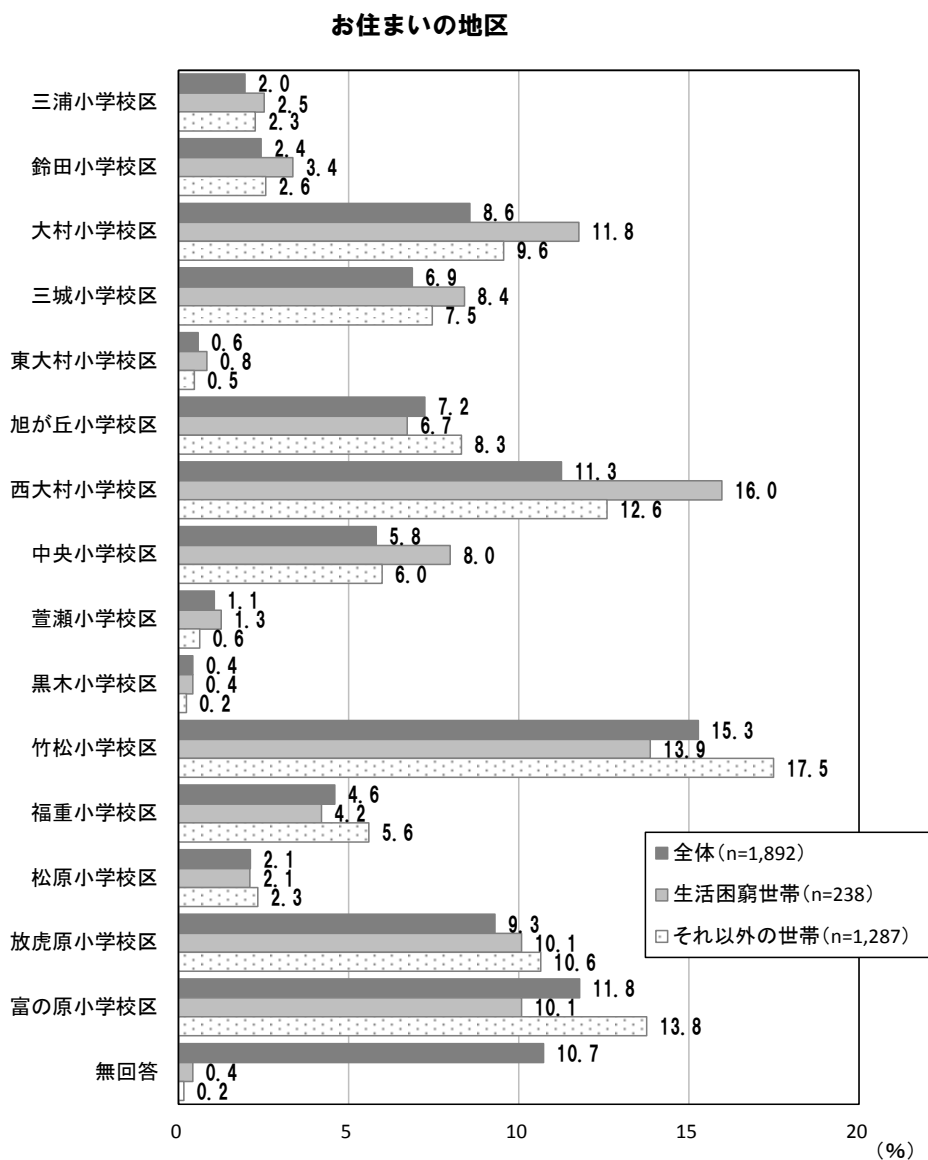
(2) お子さんからみた回答者の続柄 (SA)

お子さんからみた回答者の続柄については、“母親”が最も多く、全体では83.0%、“生活困窮世帯”では92.0%、“それ以外の世帯”では92.9%となっています。



(3) お住まいの地区 (SA)

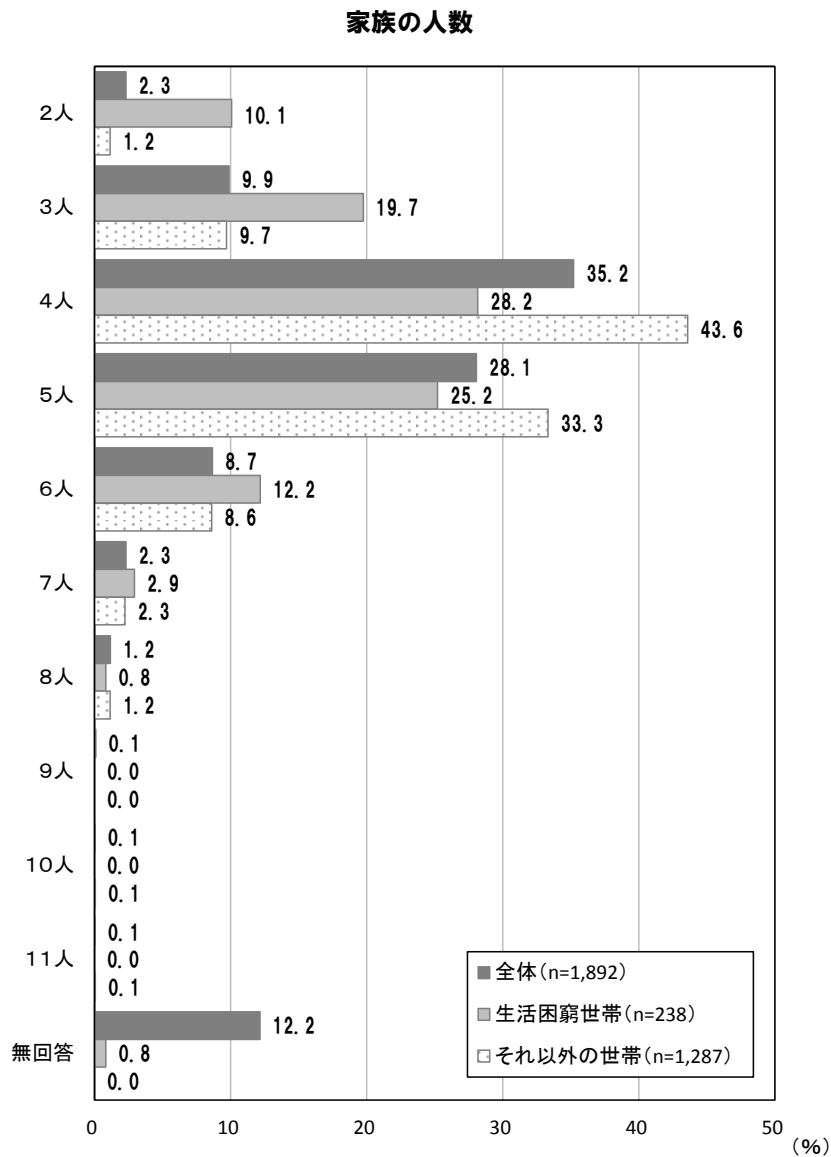
お住まいの地区については、“生活困窮世帯”では“西大村小学校区”が最も多く16.0%、“それ以外の世帯”では“竹松小学校区”が最も多く17.5%となっています。



(4) 家族の人数 (NA = 数量回答)

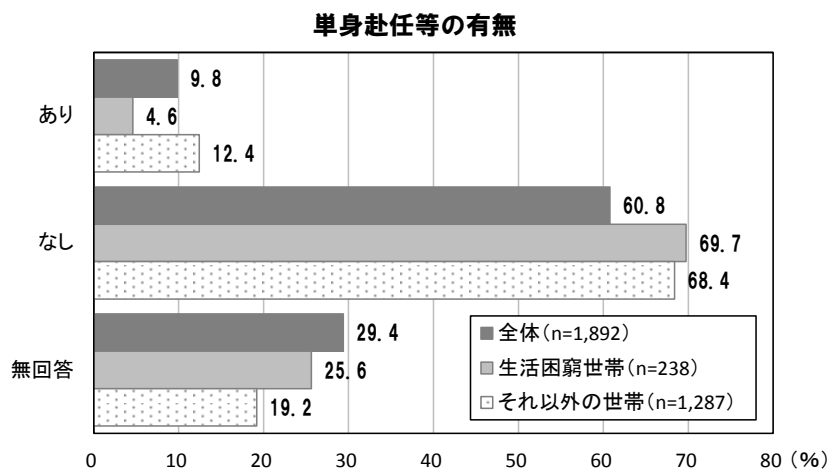
家族の人数（回答者本人の他、単身赴任等の別居の親も含む）については、“生活困窮世帯” “それ以外の世帯” とともに “4人” が最も多く、それぞれ 28.2%、43.6% となっています。

回答に基づき、家族の平均人数を算出してみると、“それ以外の世帯” の 4.5 人に対し “生活困窮世帯” では 4.2 人となります。



(5) 単身赴任等の有無 (SA)

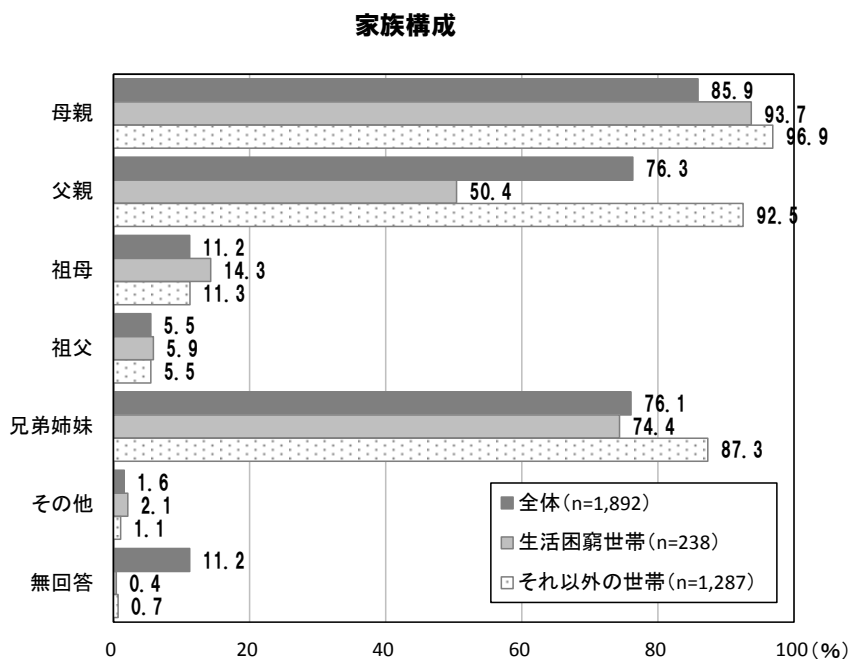
単身赴任等により別居している親の有無について、“あり”は全体で9.8%、“生活困窮世帯”では4.6%、“それ以外の世帯”では12.4%となっています。



(6) 家族構成 (MA)

家族構成についてみると、“子どもの父親”がいる世帯が“それ以外の世帯”では92.5%であるのに対し、“生活困窮世帯”では50.4%と約半数となっています。

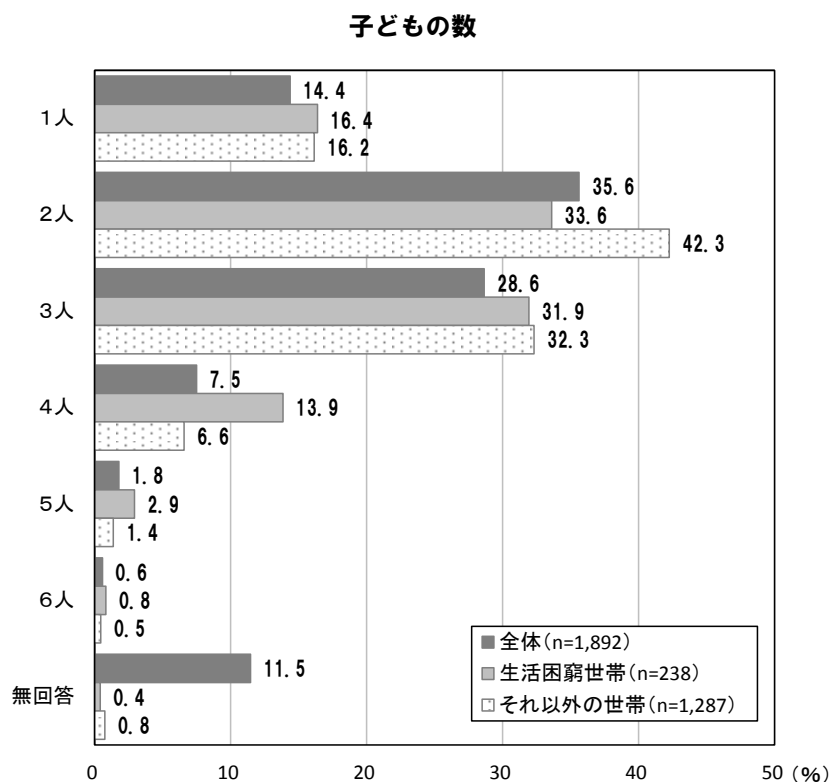
このほか、“子どもの兄弟姉妹”がいる世帯が“それ以外の世帯”では87.3%であるのに対し、“生活困窮世帯”では74.4%と少ない状況です。



(7) お子さんの人数 (NA = 数量回答)

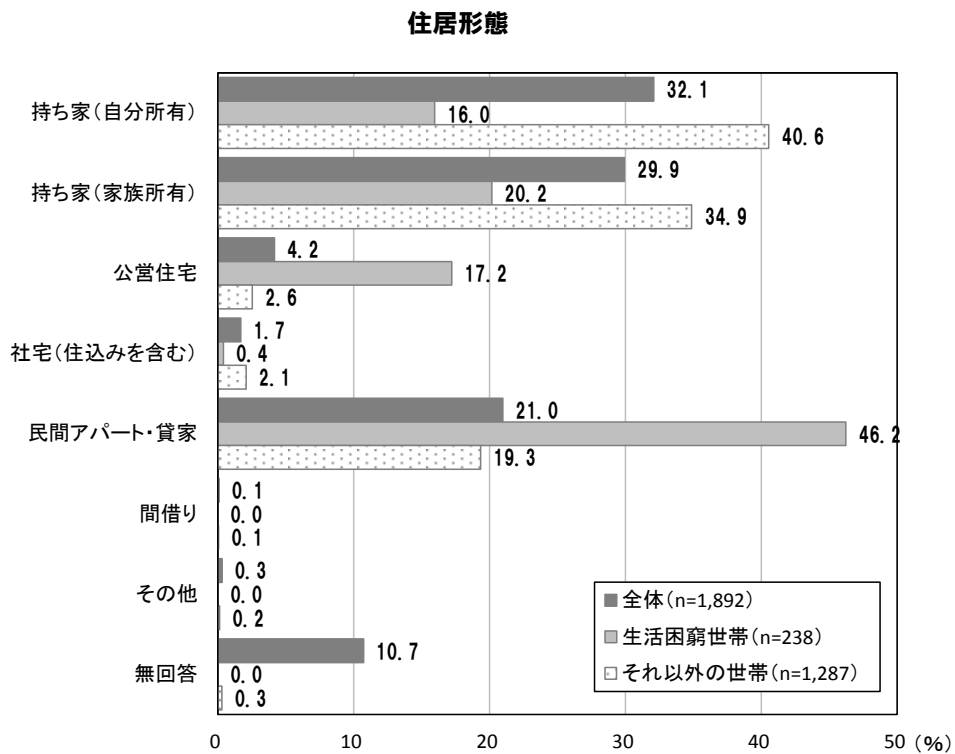
お子さんの人数については、“生活困窮世帯” “それ以外の世帯” とともに “2人” が最も多く、それぞれ 33.6%、42.3% となっています。次いで “生活困窮世帯” “それ以外の世帯” とともに “3人” が約3割となっています。

“無回答” を除き、お子さんの平均数を算出すると “生活困窮世帯” では 2.55 人、“それ以外の世帯” では 2.34 人となります。



(8) 住居形態 (SA)

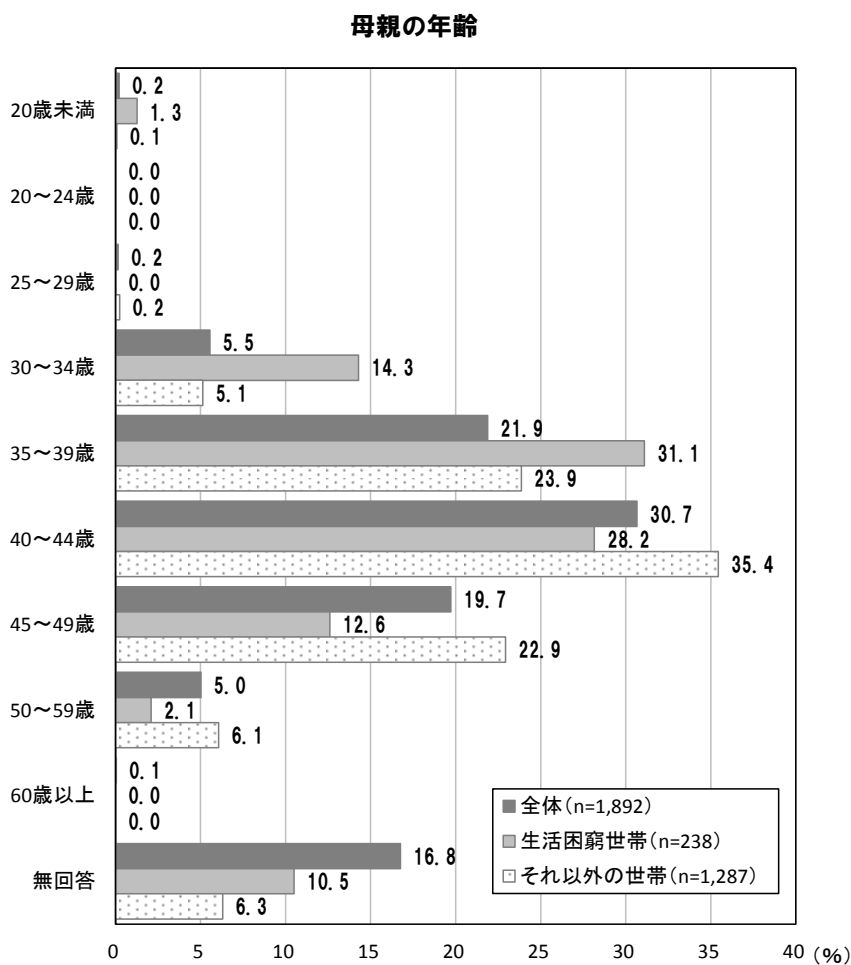
住居形態について、最も多いのは“それ以外の世帯”では“持ち家（自分所有）”40.6%であるのに対し“生活困窮世帯”では“民間アパート・貸家”46.2%となっています。



(9) 親の年齢(母親・父親)(SA)

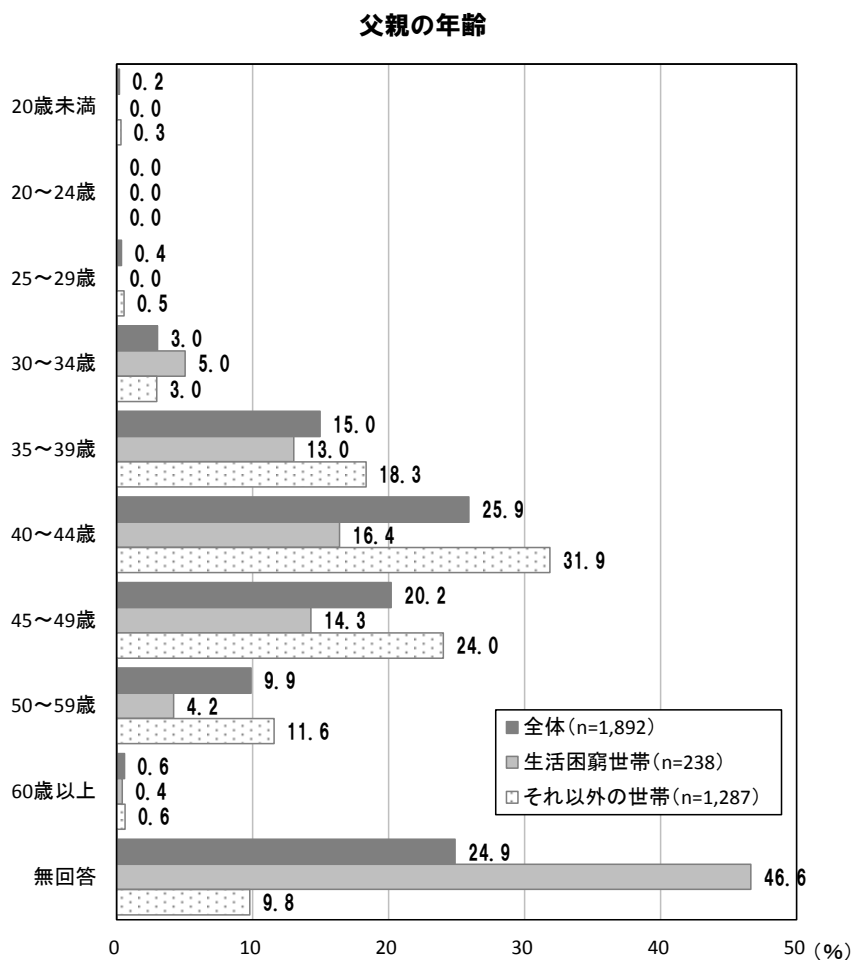
母親の年齢について、“生活困窮世帯”では“35～39歳”が最も多く31.1%であるのに対し、“それ以外の世帯”では“40～44歳”が最も多く35.4%となっています。

また、母親が“20歳未満”である世帯が、“それ以外の世帯”の0.1%に対し、“生活困窮世帯”では1.3%と多くなっています。



父親の年齢について生活困窮世帯” “それ以外の世帯” とともに “40～44 歳” が最も多く、それぞれ 16.4%、31.9%となっています。

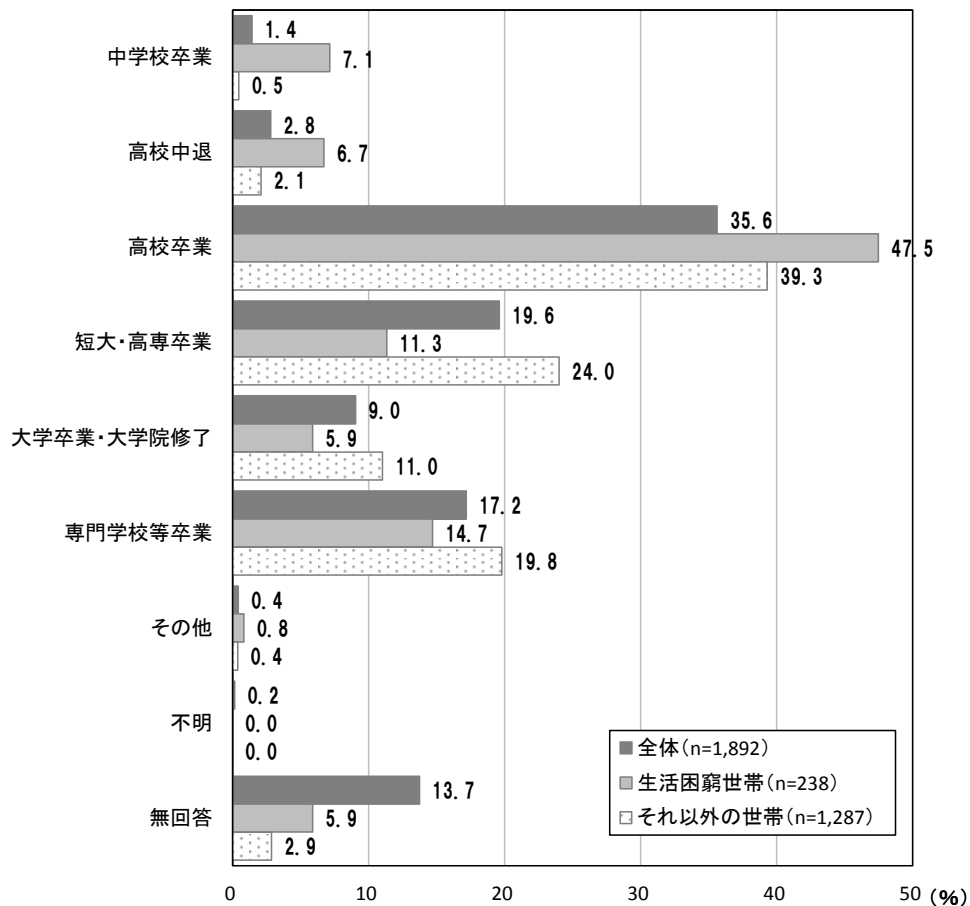
また、父親が “50～59 歳” である世帯が、“それ以外の世帯” の 11.6%に対し、“生活困窮世帯” では 4.2%と少なくなっているのが目を引きます。



(10) 親の最終学歴（母親・父親）（SA）

母親の最終学歴については、“高校卒業”が“それ以外の世帯”では39.3%に対し、“生活困窮世帯”では47.5%と多く、一方、“大学卒業・大学院卒業”は“それ以外の世帯”の11.0%に対し、“生活困窮世帯”では5.9%と少なくなっています。

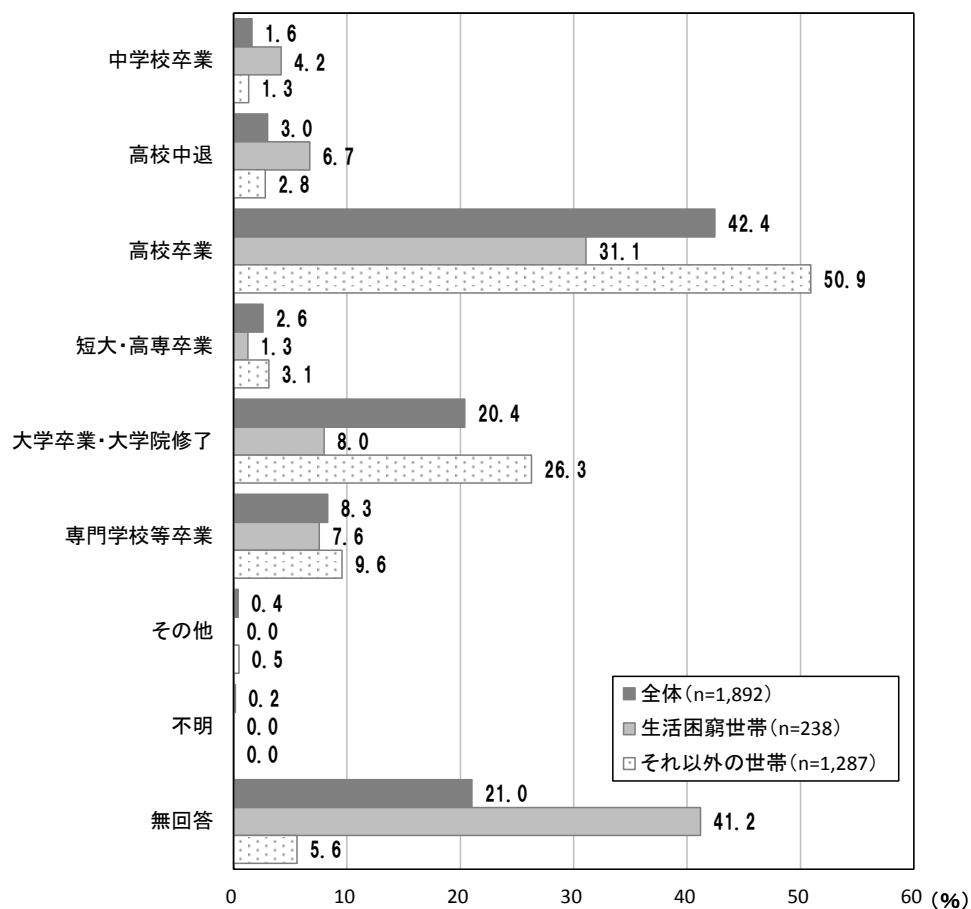
母親の最終学歴



父親の学歴について、“生活困窮世帯”では“無回答”が最も多くなっています。これは、本設問については母親・父親それぞれの有無に関わらずわかる範囲でその最終学歴を回答いただくこととしていたため、父親のいない世帯でその最終学歴がわからない場合等、“無回答”となっています。

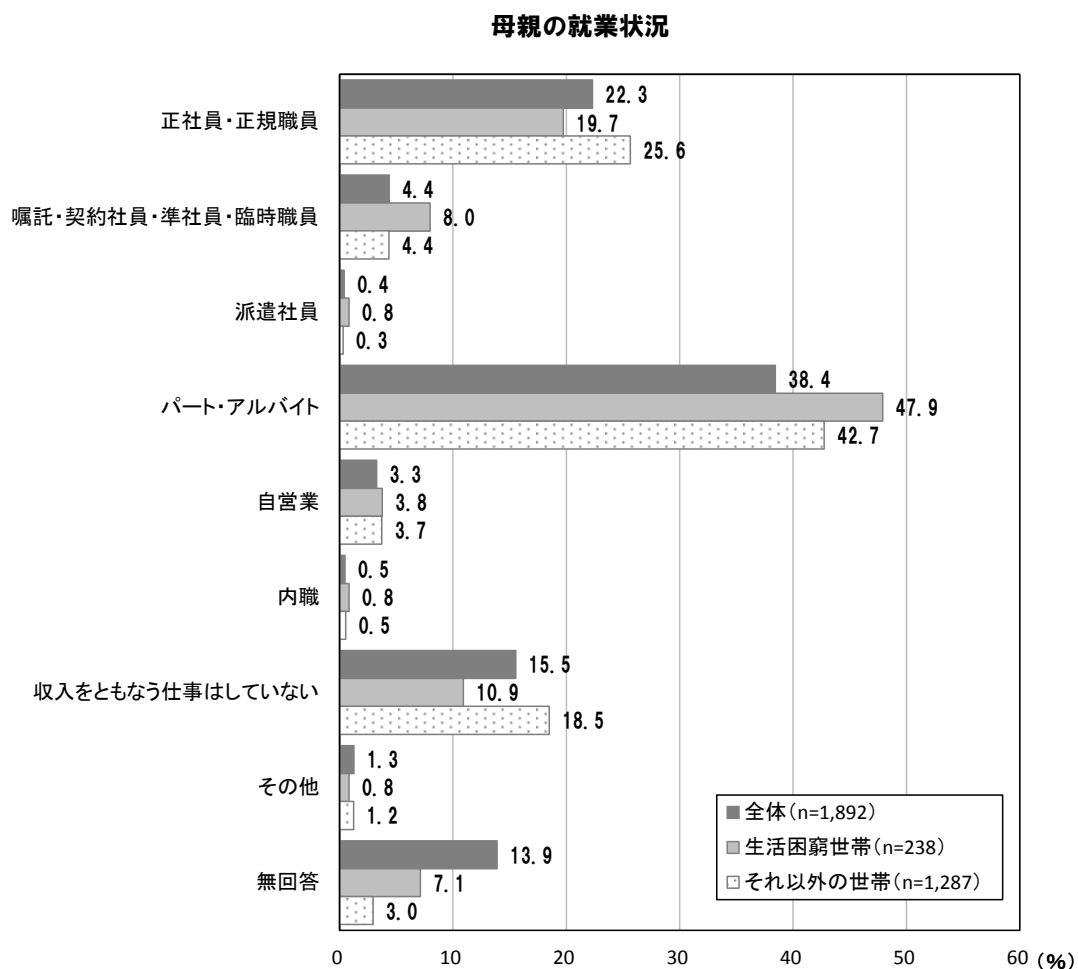
“高校卒業”について“それ以外の世帯”の50.9%に対し、“生活困窮世帯”では31.1%と少なく、一方、“大学卒業・大学院卒業”は“それ以外の世帯”の26.3%に対し、“生活困窮世帯”では8.0%と少なくなっています。

父親の最終学歴



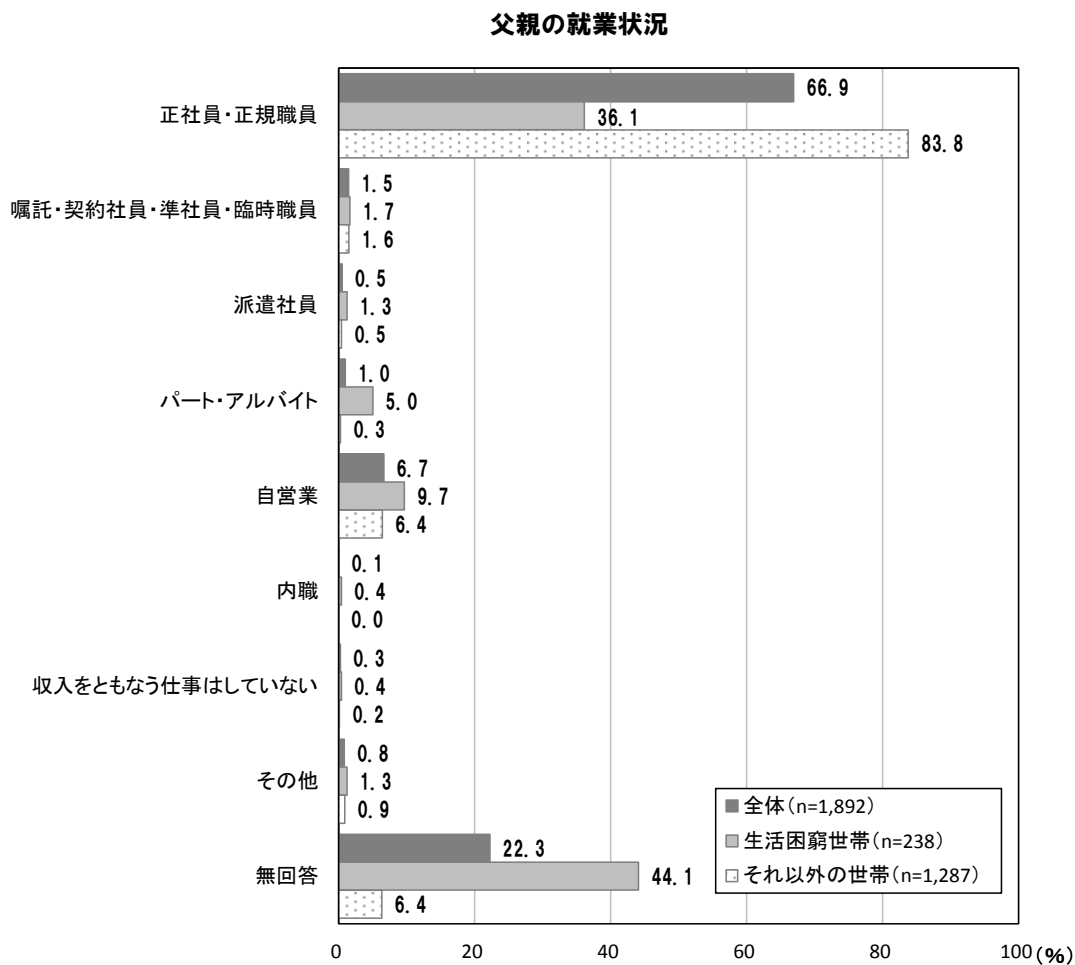
(11) 親の就業状況（母親・父親）（SA）

母親の就業状況については、“パート・アルバイト”が“それ以外の世帯”では42.7%に対し、“生活困窮世帯”では47.9%と多く、一方、“正社員・正規社職員”は“それ以外の世帯”の25.6%に対し、“生活困窮世帯”では19.7%と少なくなっています。



父親の就業状況について、“生活困窮世帯”では“無回答”が最も多くなっています。これは最終学歴同様、本設問については母親・父親それぞれの有無に関わらずわかる範囲でその就業状況を回答いただくこととしていたため、父親のいない世帯でその就業状況がわからない場合等、“無回答”となっています。

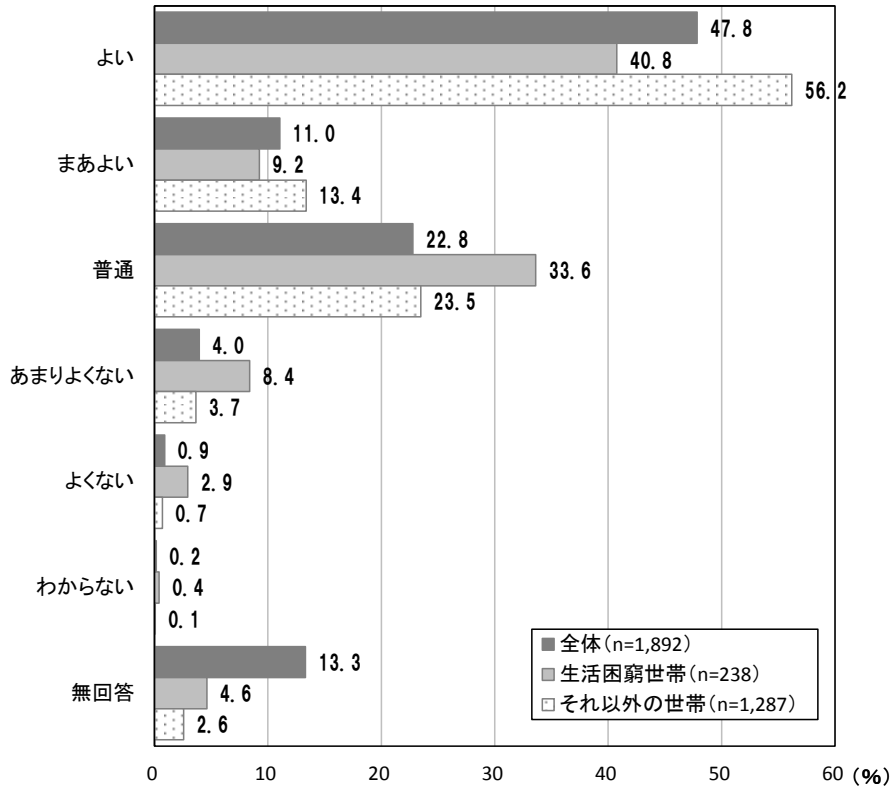
“正社員・正規社職員”について、“それ以外の世帯”の83.8%に対し、“生活困窮世帯”では36.1%とかなりの差異があります。



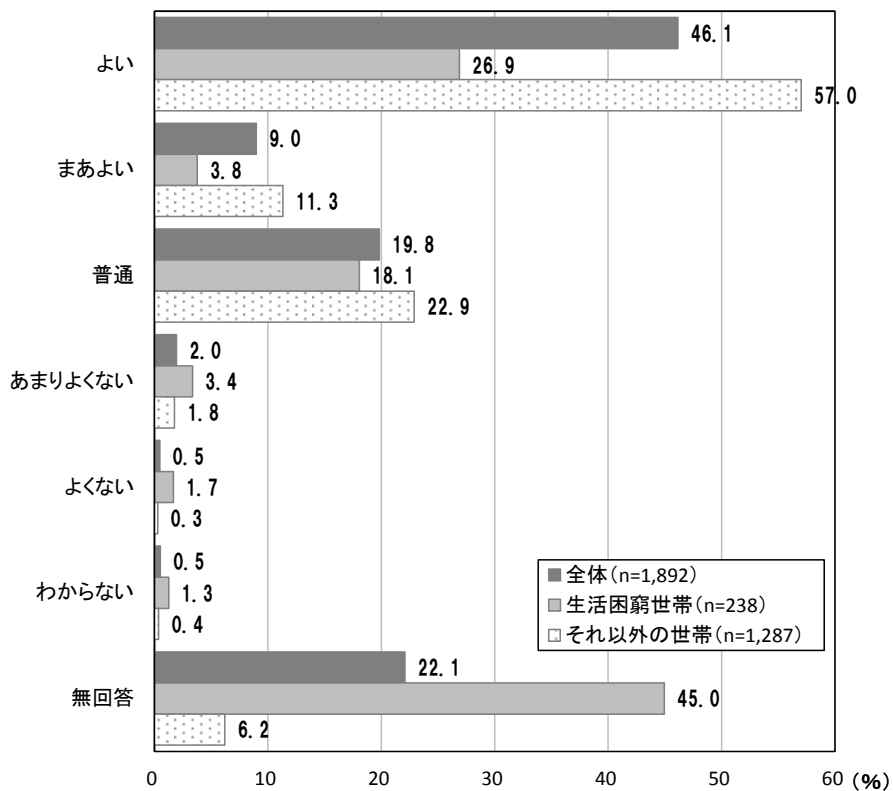
(12) 親の健康状態（母親・父親）（SA）

健康状態については、母親・父親ともに、“それ以外の世帯” に比べて “生活困窮世帯” では “よい” “まあよい” が少なく、“あまりよくない” “よくない” が多くなっています。

母親の健康状態

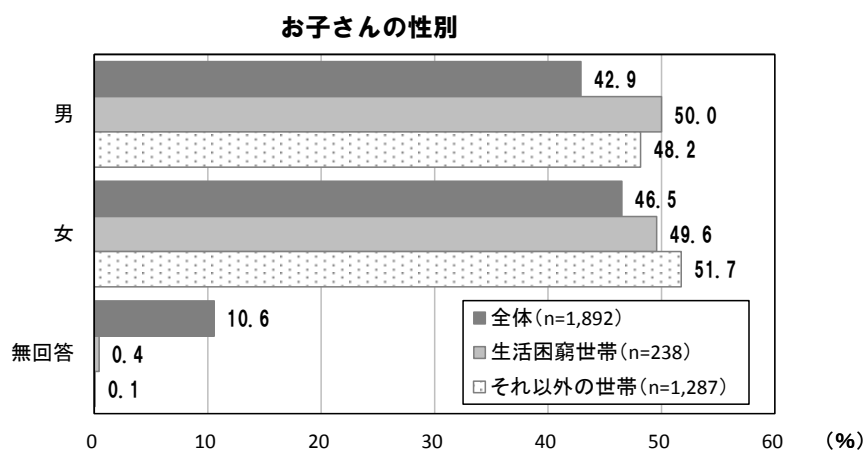


父親の健康状態



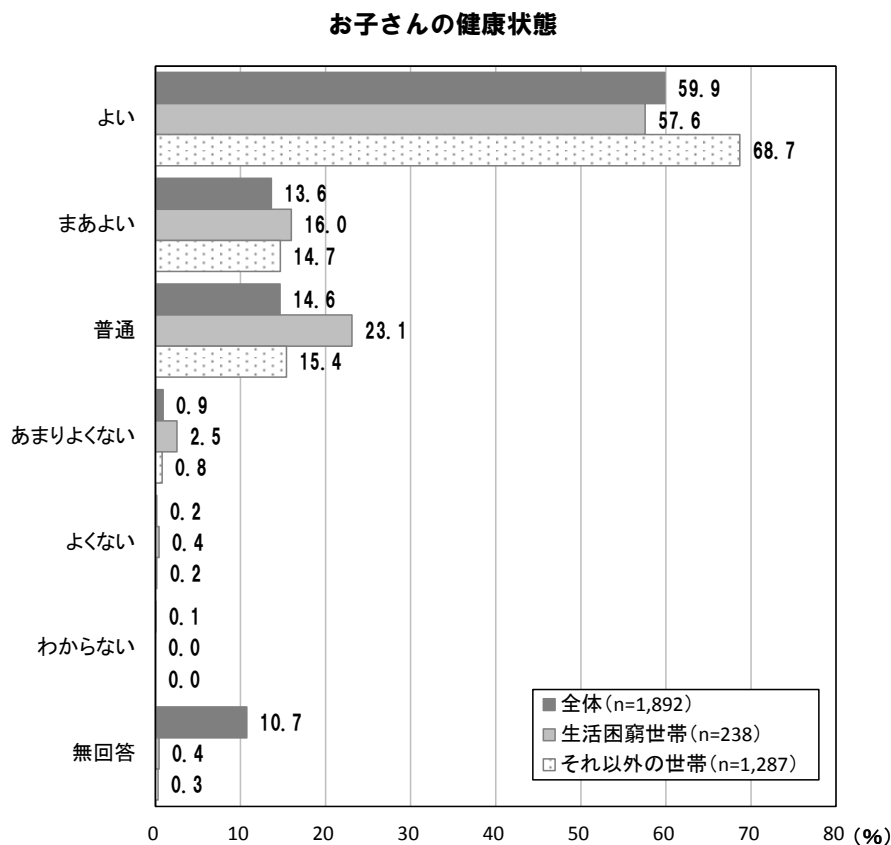
(13) お子さんの性別 (SA)

お子さんの性別については、“生活困窮世帯”では“男”、“それ以外の世帯”では“女”が多くなっています。



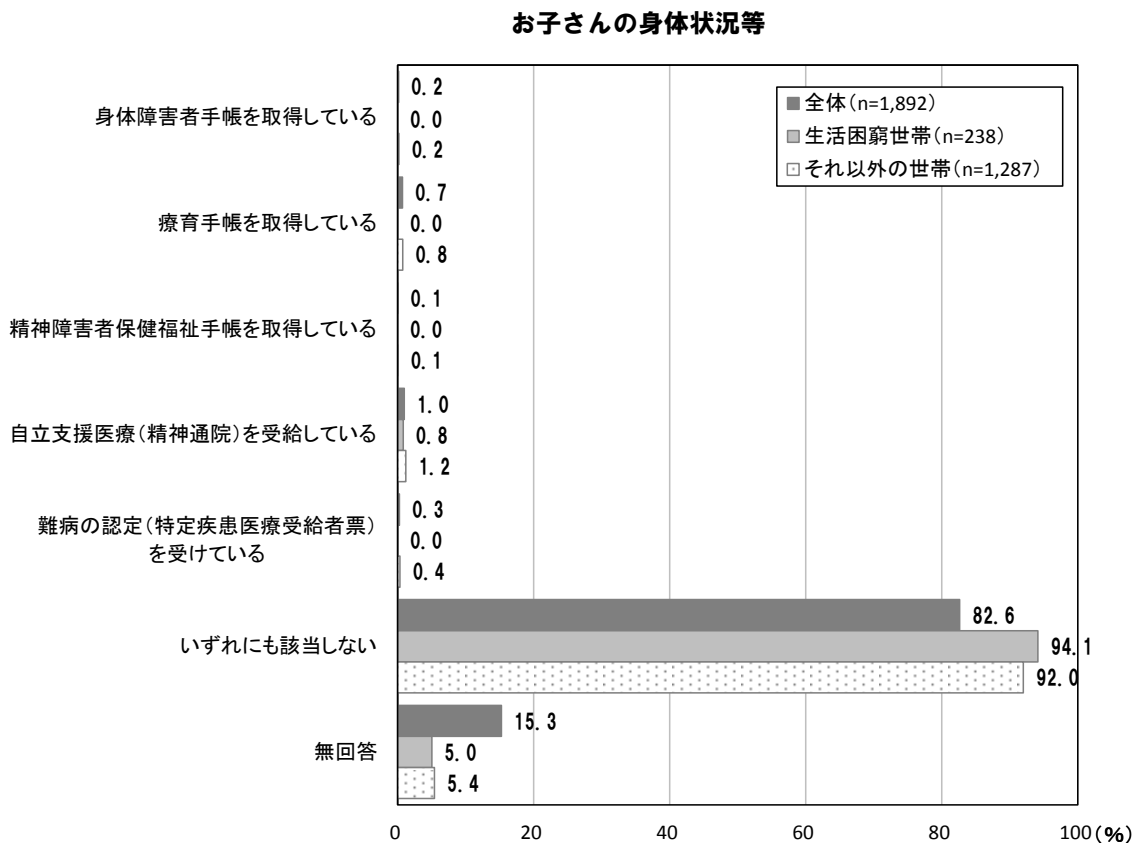
(14) お子さんの健康状態 (SA)

お子さんの健康状態については、“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”ともに“よい”が最も多くなっていますが、“それ以外の世帯”では68.7%を占めるのに対し、“生活困窮世帯”では57.6%と低い状況です。



(15) お子さんの身体状況等 (SA)

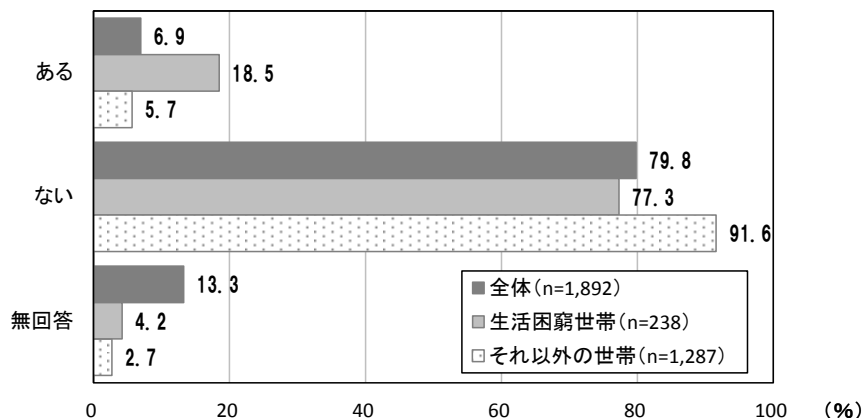
お子さんの身体状況等については、“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”ともに“いずれにも該当しない”が最も多く、それぞれ94.1%、92.0%となっています。



(16) 受診が必要であるのに受診しなかった経験 (SA)

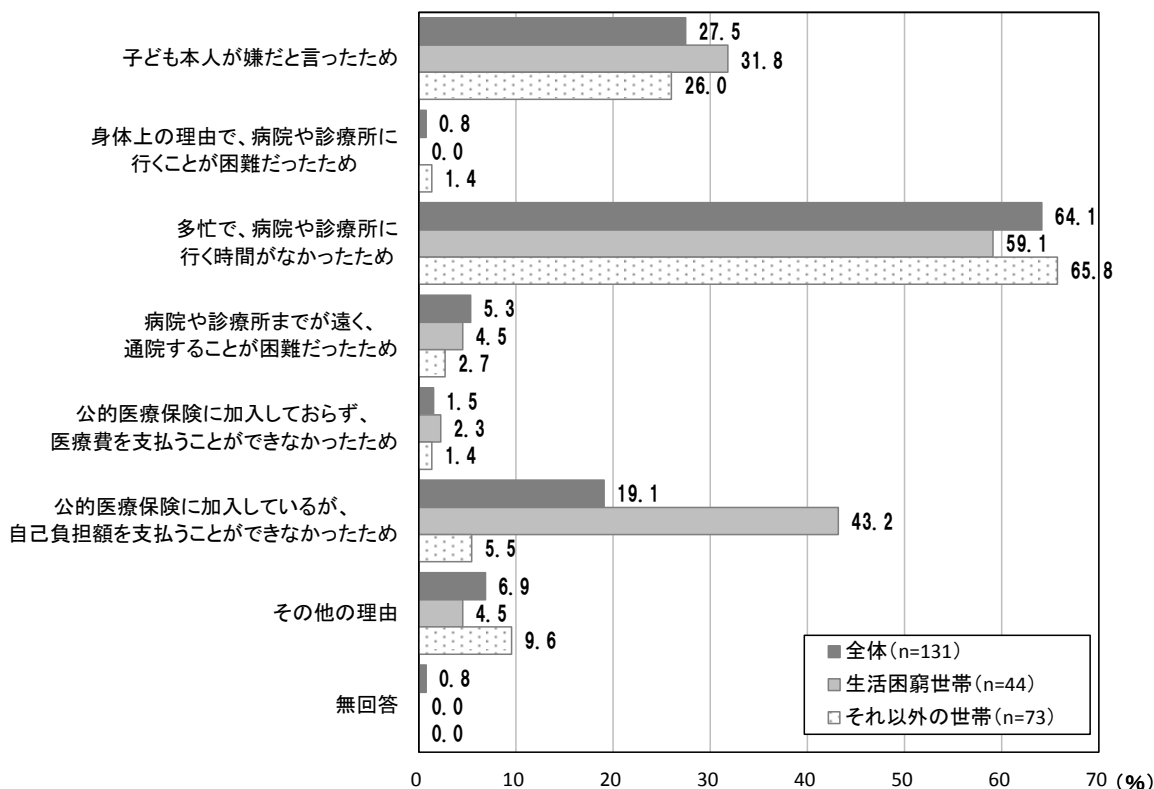
受診が必要であるのに受診しなかった経験について、“ある”が“それ以外の世帯”の5.7%に対し、“生活困窮世帯”では18.5%と3倍以上になっています。

過去1年間に受診が必要であるのに受診しなかった経験



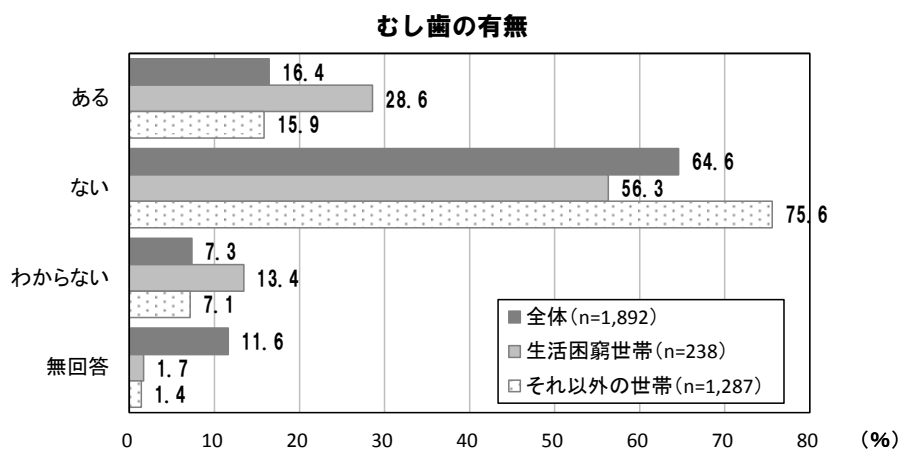
受診しなかった理由 (MA) としては、“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”ともに“多忙で、病院や診療所に行く時間がなかったため”が最も多くなっていますが、次いで多いのは“それ以外の世帯”では“子ども本人が嫌だと言ったため”26.0%であるのに対し、“生活困窮世帯”では“公的医療保険に加入しているが、自己負担額を支払うことができなかったため”が43.2%とかなり多くなっています。

受診しなかった理由

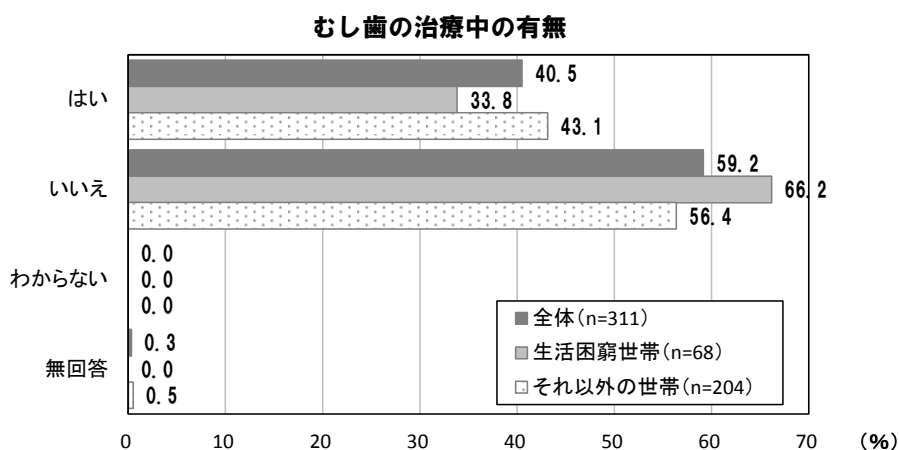


(17) むし歯の有無（SA）とむし歯の治療中の有無（SA）

お子さんのむし歯の有無については、“ある”が“それ以外の世帯”では15.9%に対し、“生活困窮世帯”では28.6%と多くなっています。



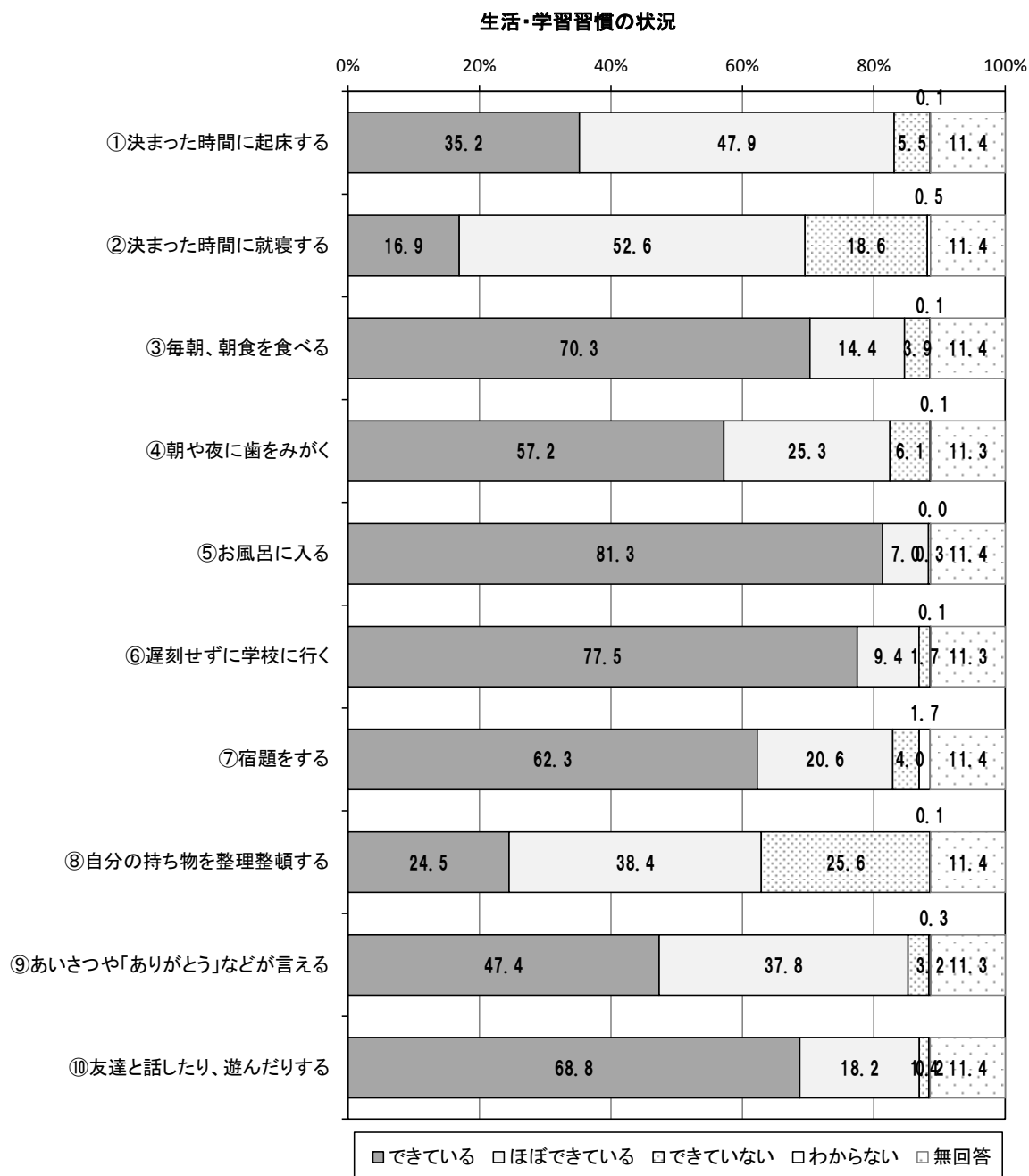
むし歯が“ある”お子さんの治療中の有無については、“はい（治療中）”が“それ以外の世帯”では43.1%に対し、“生活困窮世帯”では33.8%と少なくなっています。



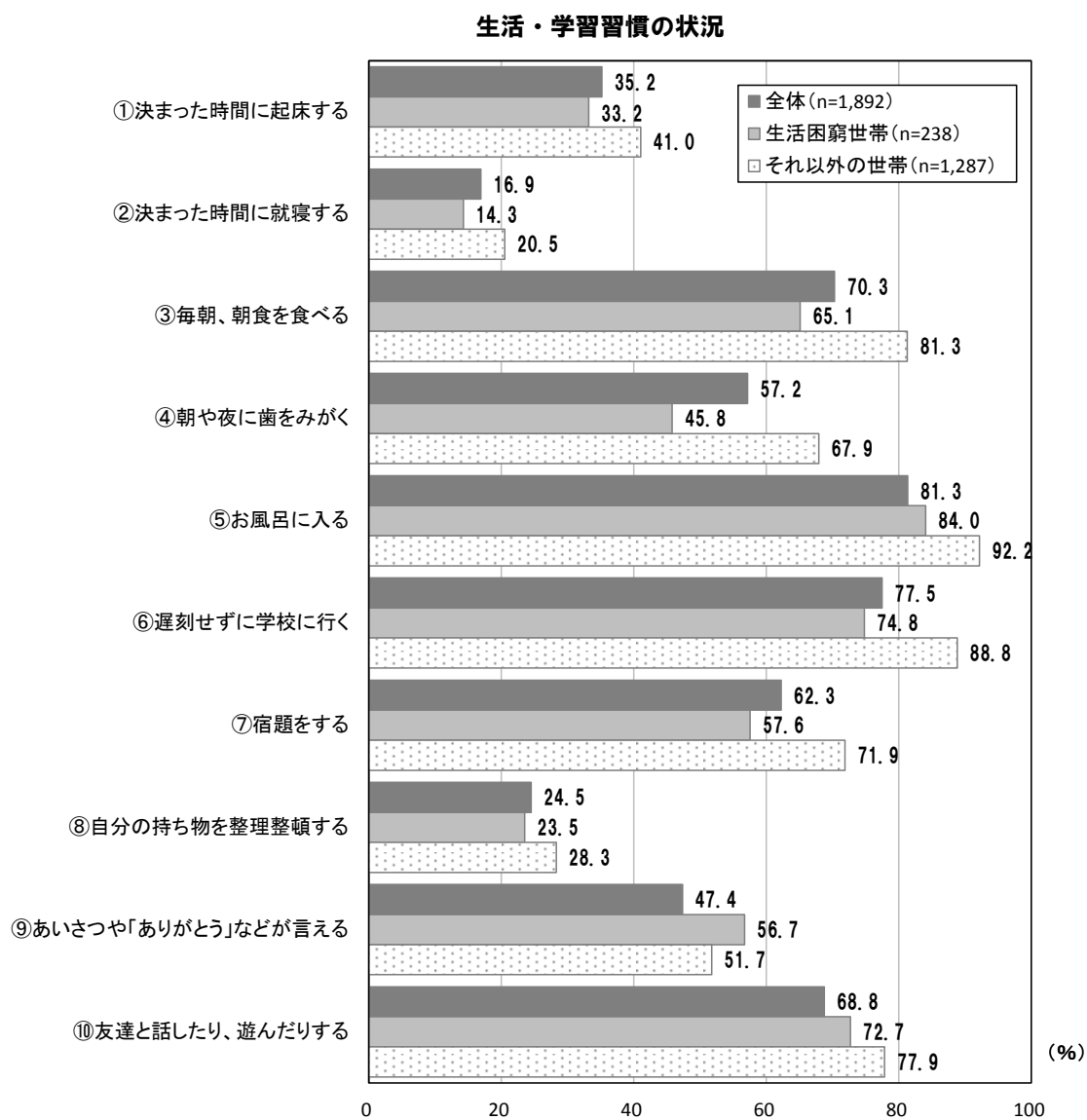
(18) 生活・学習習慣の状況 (SA)

生活・学習習慣の状況についてみると、“できている”が多いのは“⑤お風呂に入る”81.3%、“⑥遅刻せずに学校へ行く”77.5%等で、これらを含め、10項目中の6項目で“できている”が50%以上となっています。

“できている”が50%未満の項目は、“①決まった時間に起床する”35.2%、“②決まった時間に就寝する”16.9%、“⑧自分の持ち物を整理整頓する”24.5%、“⑨あいさつや「ありがとう」等が言える”47.4%の4項目となっています。

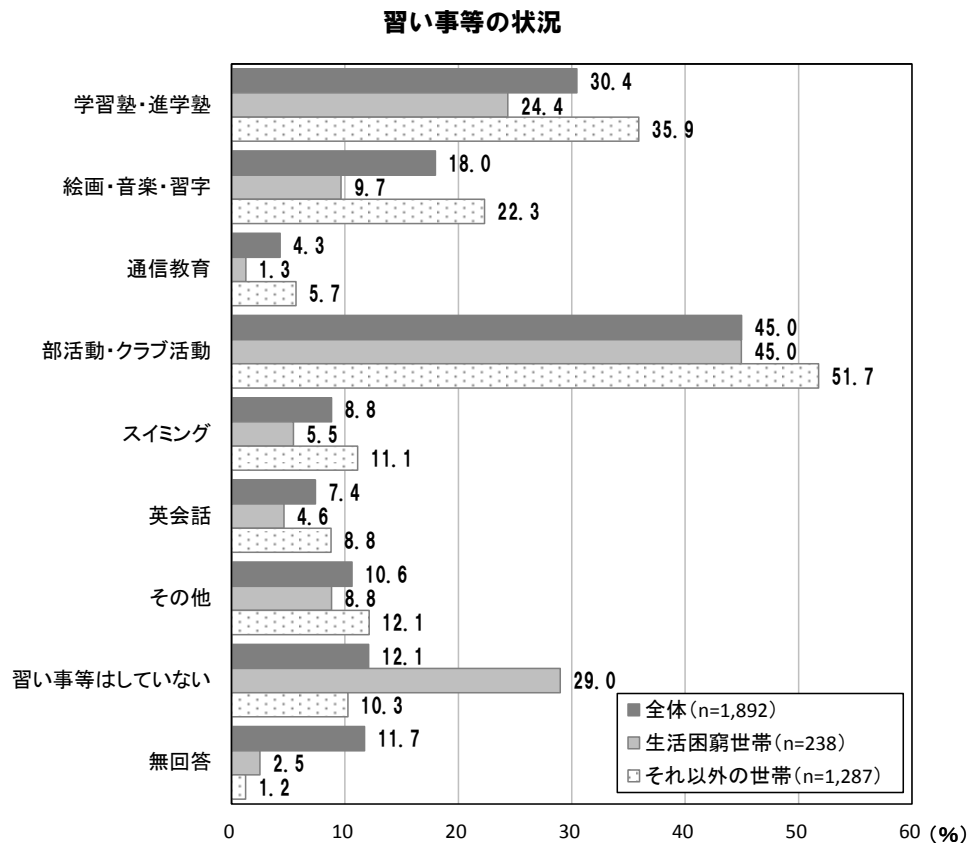


“毎朝朝食を食べる”が“それ以外の世帯”では81.3%で“できている”のに対し、“生活困窮世帯”では65.1%と少ないのを始め、多くの項目で“生活困窮世帯”の方が“できている”割合が少ない状況です。



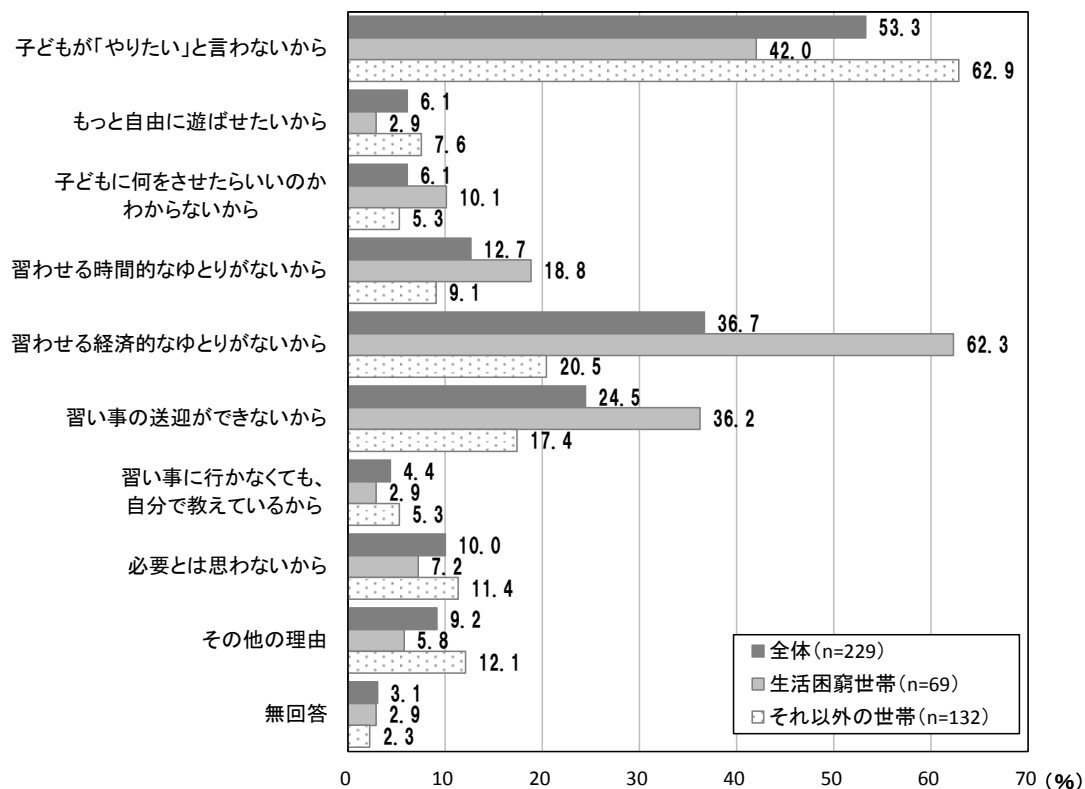
(19) 習い事等の状況 (SA)

習い事等の状況についてみると、“習い事等はしていない”は、“それ以外の世帯”では10.3%であるのに対し、“生活困窮世帯”では29.0%と多くなっています。



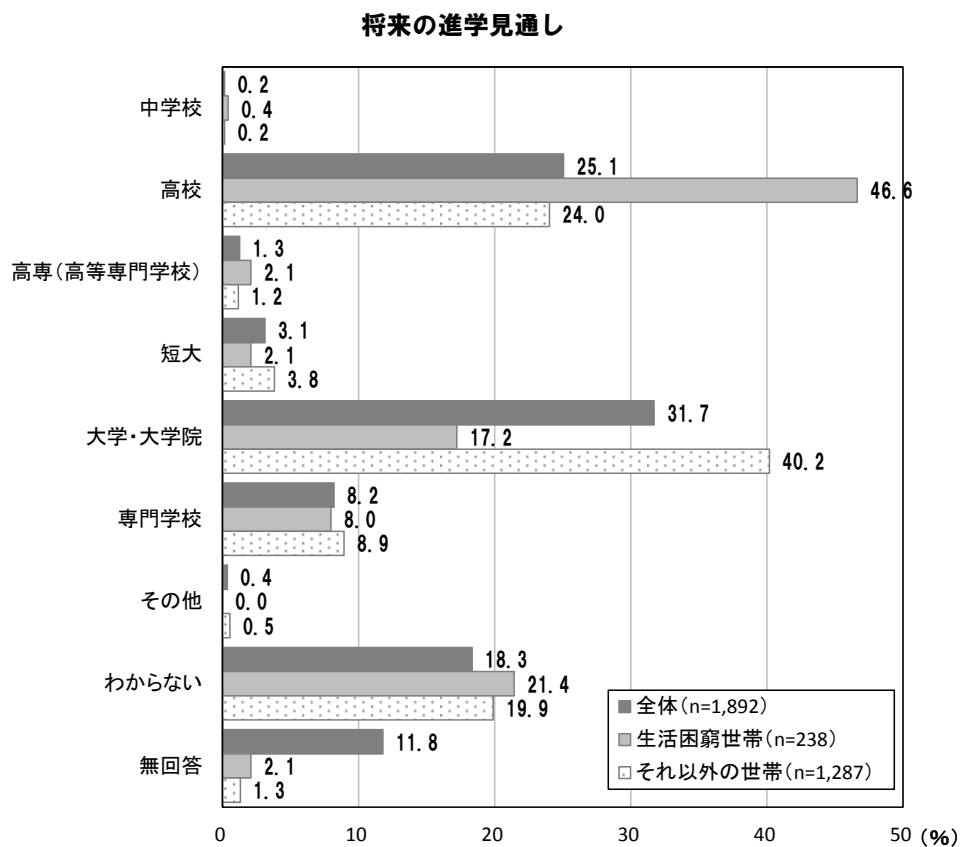
習い事等をしていない理由（MA）としては、“それ以外の世帯”では“子どもが「やりたい」と言わないから”が62.9%で最も多いのに対し、“生活困窮世帯”では“習わせる経済的なゆとりがないから”が62.3%で最も多くなっています。

習い事等をしていない理由

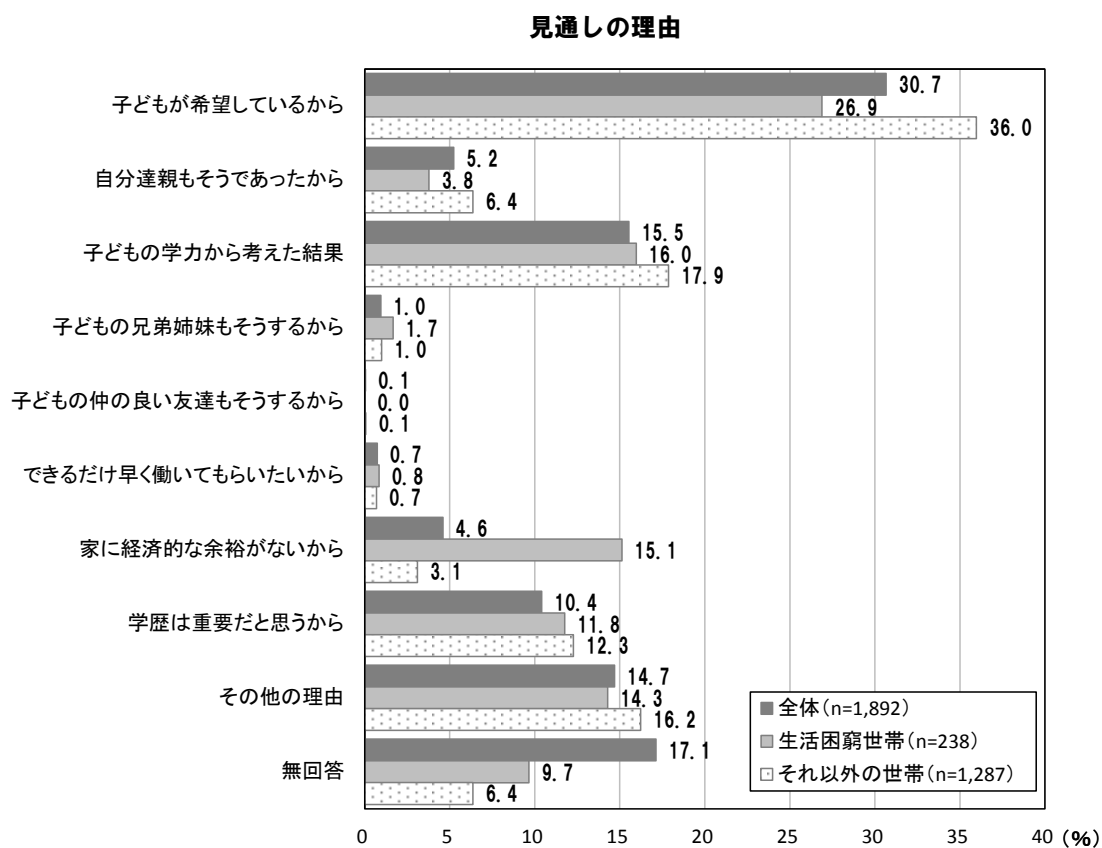


(20) 将来の進学見通し (SA)

お子さんの将来の進学見通しについては、“それ以外の世帯”では“大学・大学院”が最も多く40.2%であるのに対し、“生活困窮世帯”では“高校”が46.6%で最も多くなっています。

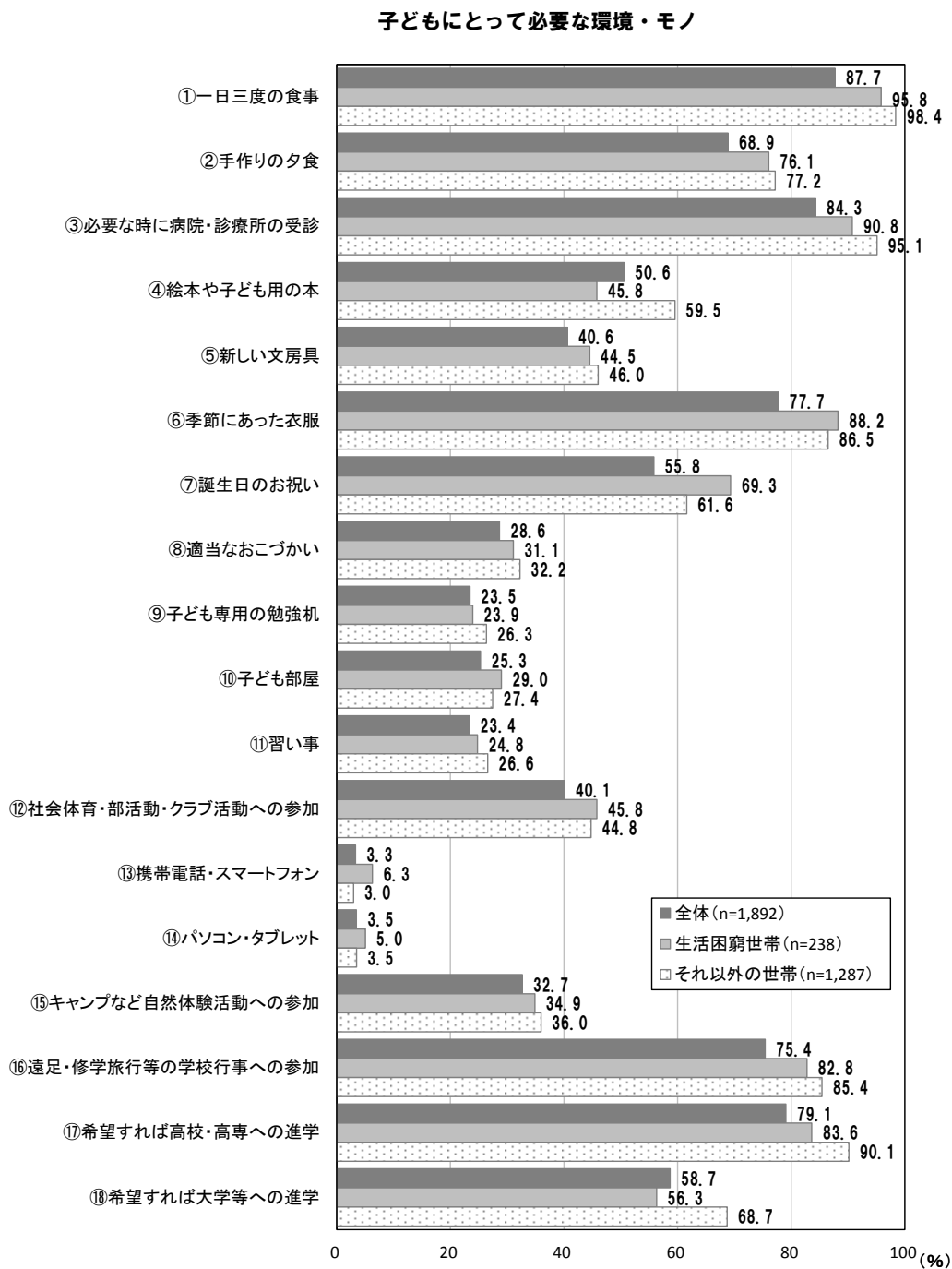


見通しの理由（SA）として、“生活困窮世帯”では“家に経済的な余裕がないから”が15.1%と“それ以外の世帯”と比べ多いのが目を引きます。



(21) 子どもにとって必要な環境・モノ (SA)

子どもにとって必要な環境・モノについて、“必要である”と考える割合をみると、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”の方が総じて低いことがわかります。

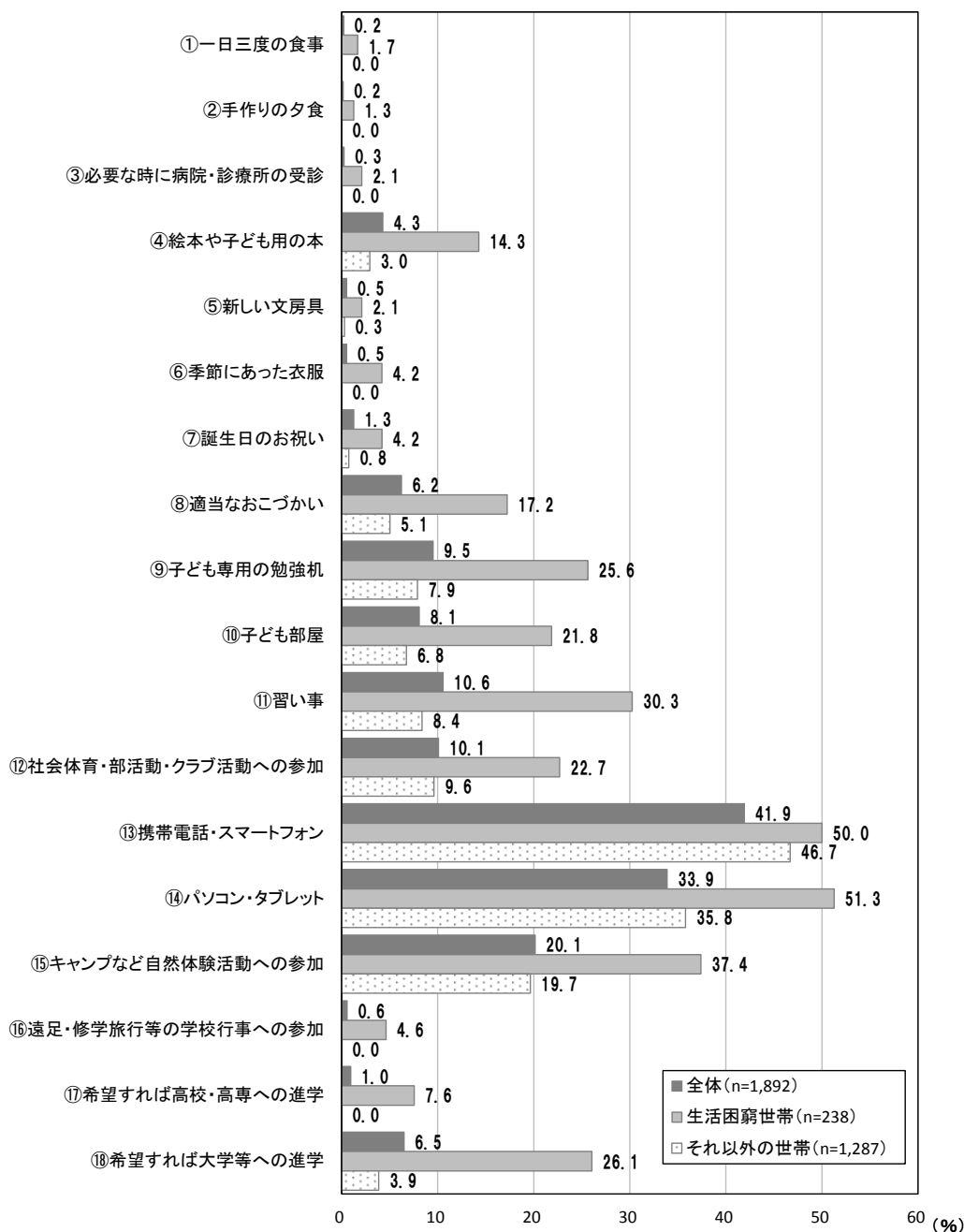


(22) お子さんに与えられている環境・モノ (SA)

お子さんに与えられている環境・モノについて、“与えられていない”割合をみると、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”の方が総じて高いことがわかります。

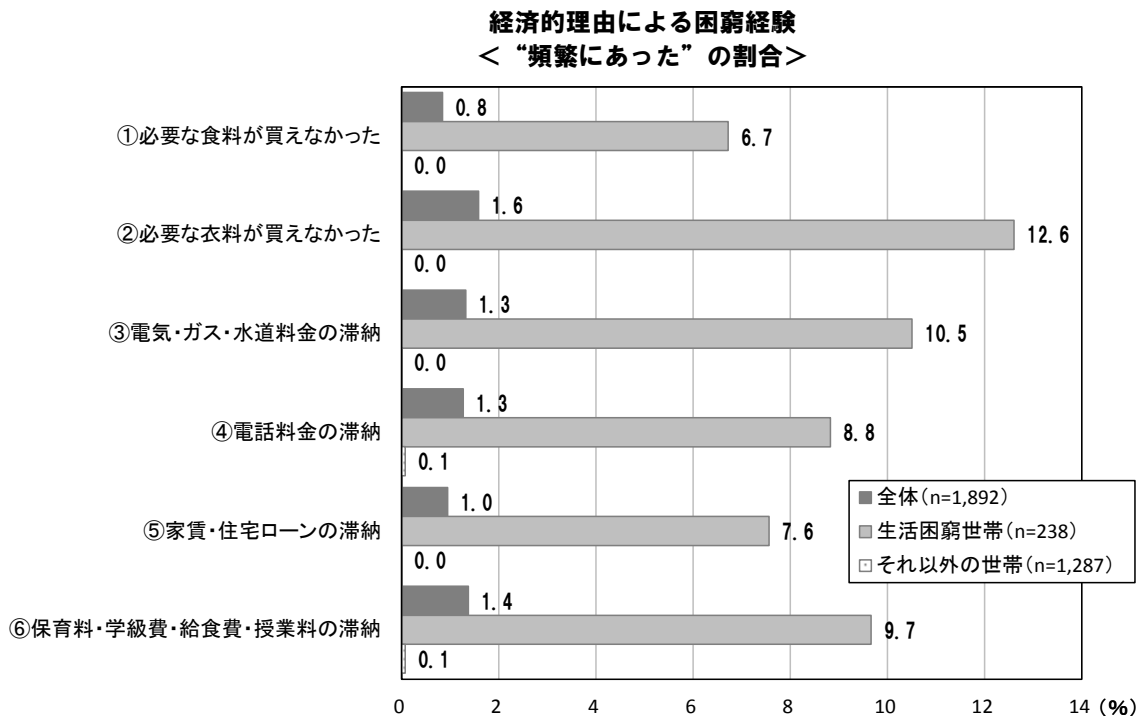
特に、“生活困窮世帯”における“大学等への進学”の26.1%、“自然体験活動への参加”の37.4%等が目立ちます。

お子さんに与えられている環境・モノ
 < “与えられていない”の割合 >



(23) 経済的理由による困窮経験 (SA)

経済的理由による困窮経験について、“頻繁にあった”割合をみると、“生活困窮世帯”では、特に“②必要な衣料が買えなかった”の12.6%、“③電気・ガス・水道料金の滞納”の10.5%が目を引きまます。

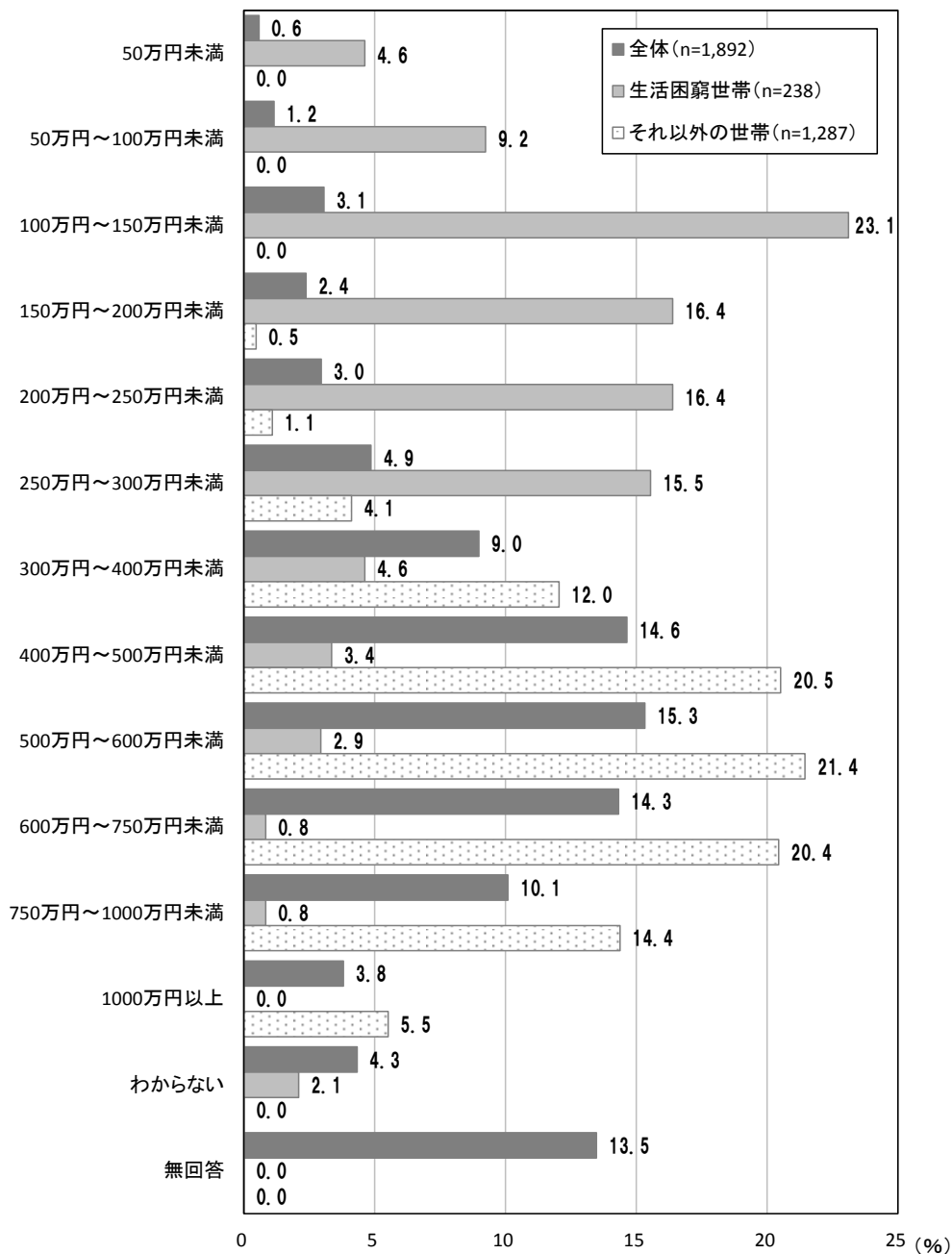


※ “それ以外の世帯”では“④電話料金の滞納”“⑥保育料・学級費・給食費・授業料の滞納”以外の4項目で0.0%（経験なし）となっていますが、これは“④電話料金の滞納”“⑥保育料・学級費・給食費・授業料の滞納”を除く4項目いずれかが“頻繁にあった”場合、“生活困窮世帯”としているためです。

(24) 世帯の年間収入（SA）

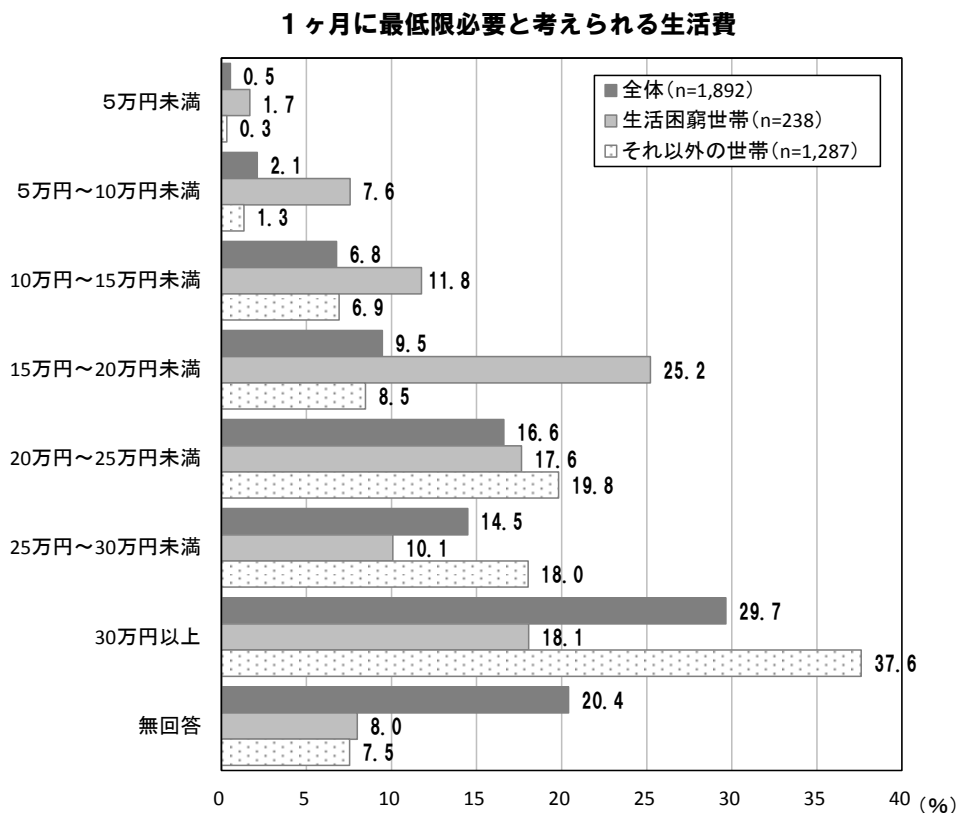
世帯の年間収入については、“それ以外の世帯”では“500万円～600万円未満”が最も多く21.4%、“生活困窮世帯”では“100万円～150万円未満”が最も多く23.1%となっています。

世帯の年間収入



(25) 1ヶ月に最低限必要と考えられる生活費（SA）

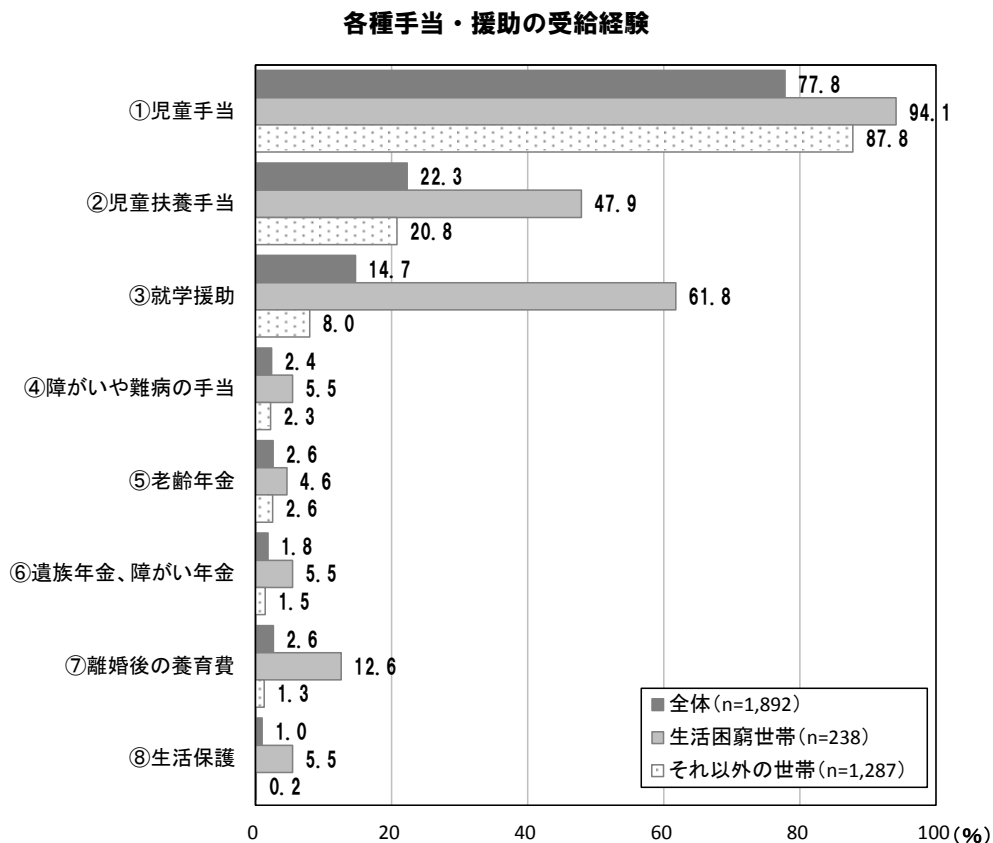
1ヶ月に最低限必要と考えられる生活費については、“それ以外の世帯”では“30万円以上”が最も多く37.6%、“生活困窮世帯”では“15万円～20万円未満”が最も多く25.2%となっています。



(26) 各種手当・援助の受給経験 (SA)

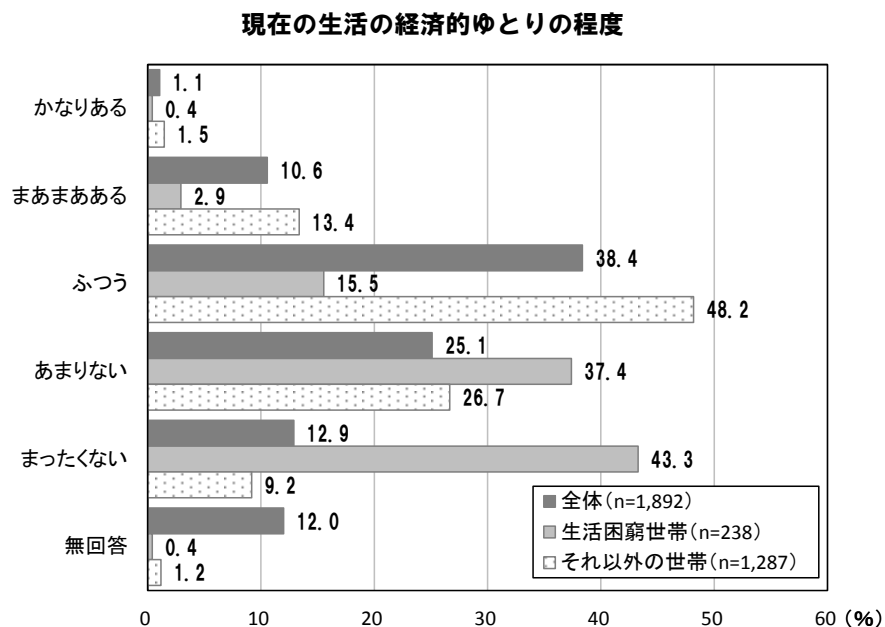
各種手当・援助の受給経験について“現在も受けている”割合をみると、“①児童手当”が“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”ともに最も多く、それぞれ94.1%、87.8%となっています。

“生活困窮世帯”ではこのほかに、“③就学援助”61.8%、“②児童扶養手当”47.9%が多くなっています。



(27) 現在の生活の経済的ゆとりの程度 (SA)

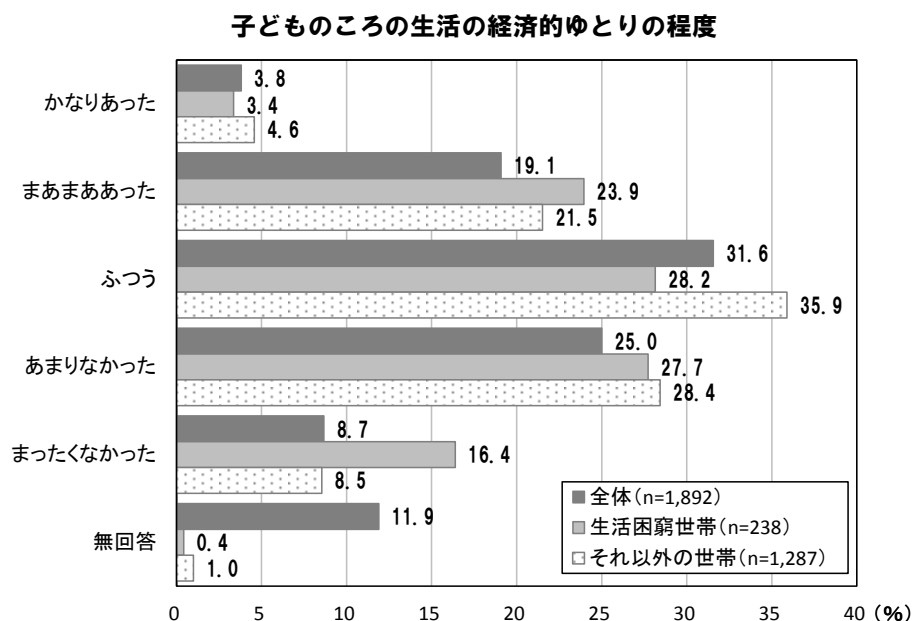
現在の生活の経済的ゆとりの程度については、“それ以外の世帯”では“ふつう”が最も多く48.2%であるのに対し、“生活困窮世帯”では“まったくない”が43.3%で最も多くなっています。



(28) 子どものころの生活の経済的ゆとりの程度 (SA)

子どものころの生活の経済的ゆとりの程度については、“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”ともに“ふつう”が最も多く、それぞれ28.2%、35.9%となっています。

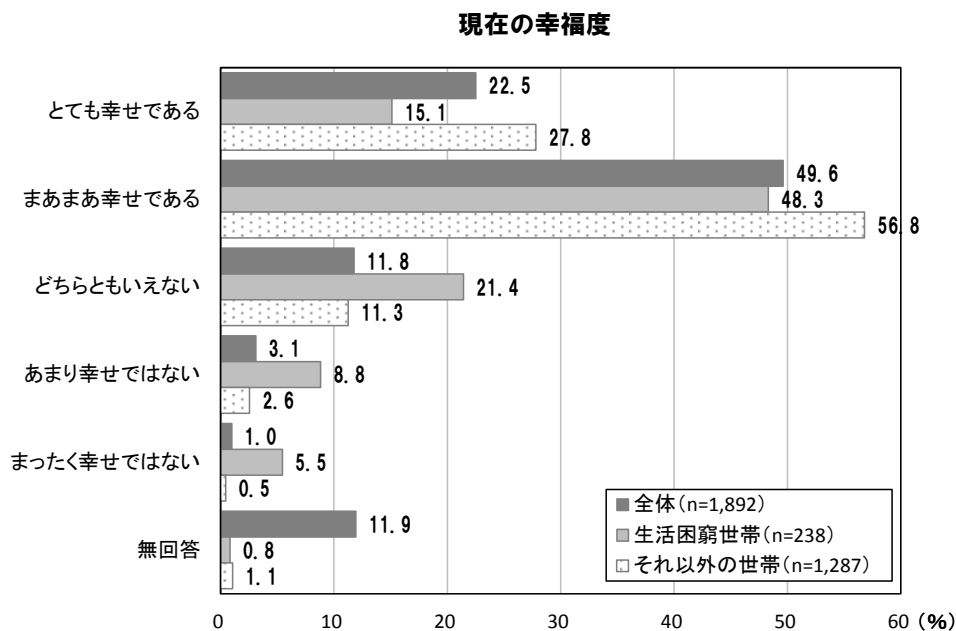
“まったくなかった”“あまりなかった”の合計で見ると、“それ以外の世帯”では36.9%であるのに対し、“生活困窮世帯”では44.1%となっています。



(29) 現在の幸福度 (SA)

現在の幸福度については、“まあまあ幸せである”が最も多く、“生活困窮世帯”では48.3%、“それ以外の世帯”では56.8%となっています。

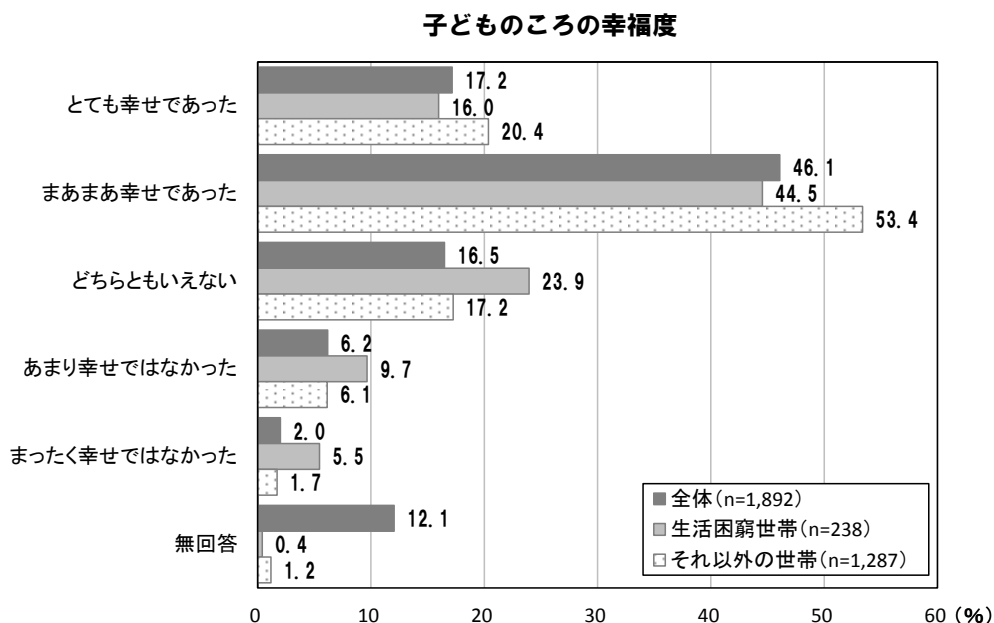
これと“とても幸せである”との合計でみると、“生活困窮世帯”では63.4%、“それ以外の世帯”では84.6%となっています。



(30) 子どものころの幸福度 (SA)

子どものころの幸福度については、“まあまあ幸せであった”が最も多く、“生活困窮世帯”では44.5%、“それ以外の世帯”では53.4%となっています。

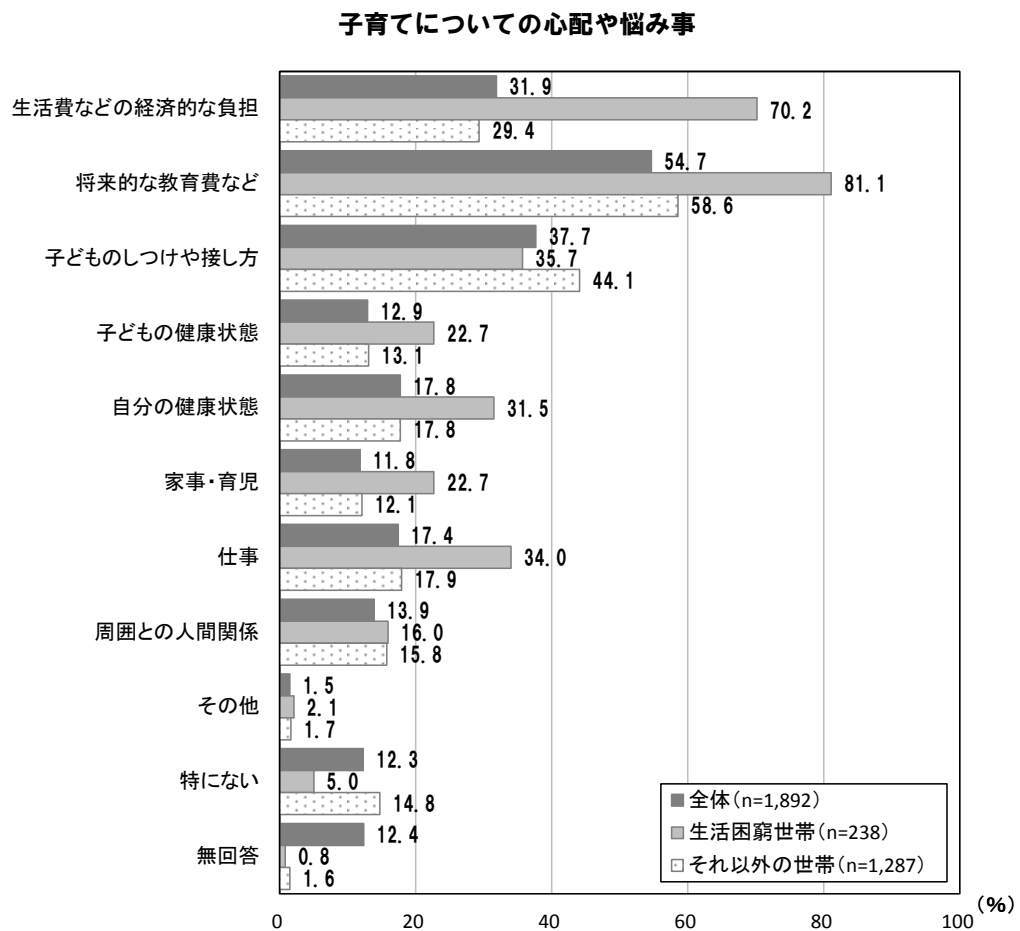
これと“とても幸せであった”との合計でみると、“生活困窮世帯”では60.5%、“それ以外の世帯”では73.8%となっています。



(31) 子育てについての心配や悩み事 (MA)

子育てについての心配や悩み事について、“それ以外の世帯”では“将来的な教育費等”が最も多く 58.6%ですが、“生活困窮世帯”では“将来的な教育費等”の 81.1%、“生活費等の経済的な負担”の 70.2%が7割を超える心配や悩み事として挙げられています。

“子どものしつけや接し方”等一部の項目を除けば、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”の方が総じて心配・悩み事の割合が多くなっています。

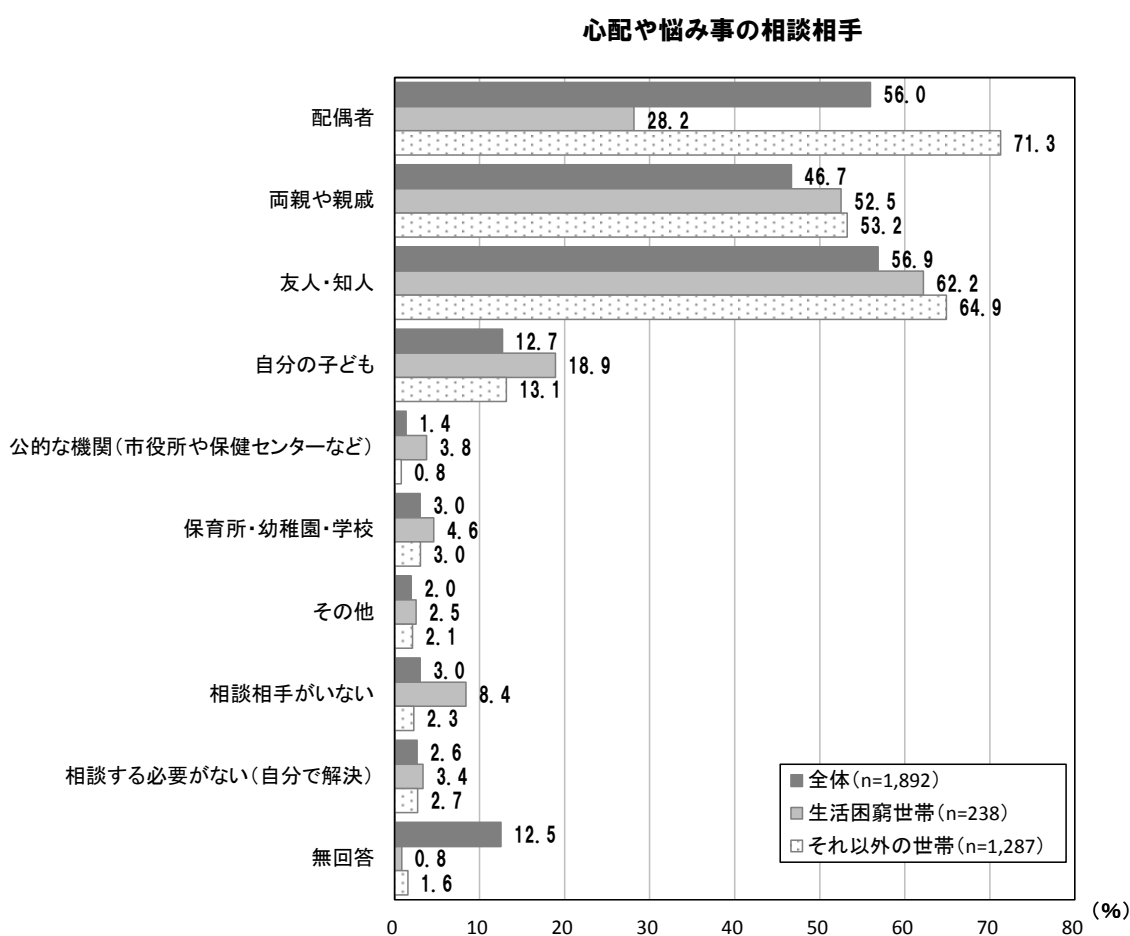


(32) 心配や悩み事の相談相手 (MA)

心配や悩み事の相談相手としては、“それ以外の世帯”では“配偶者”が最も多く71.3%、次いで“友人・知人”64.9%、“両親や親戚”53.2%の順となっていますが、“生活困窮世帯”では“友人・知人”が最も多く62.2%、次いで“両親や親戚”52.5%、“配偶者”28.2%の順となっています。

“生活困窮世帯”について、相談相手として“配偶者”の割合が“それ以外の世帯”に比べて少ない理由として、“生活困窮世帯”では“子どもの父親”のいる世帯が50.4%と約半数であることが考えられます。

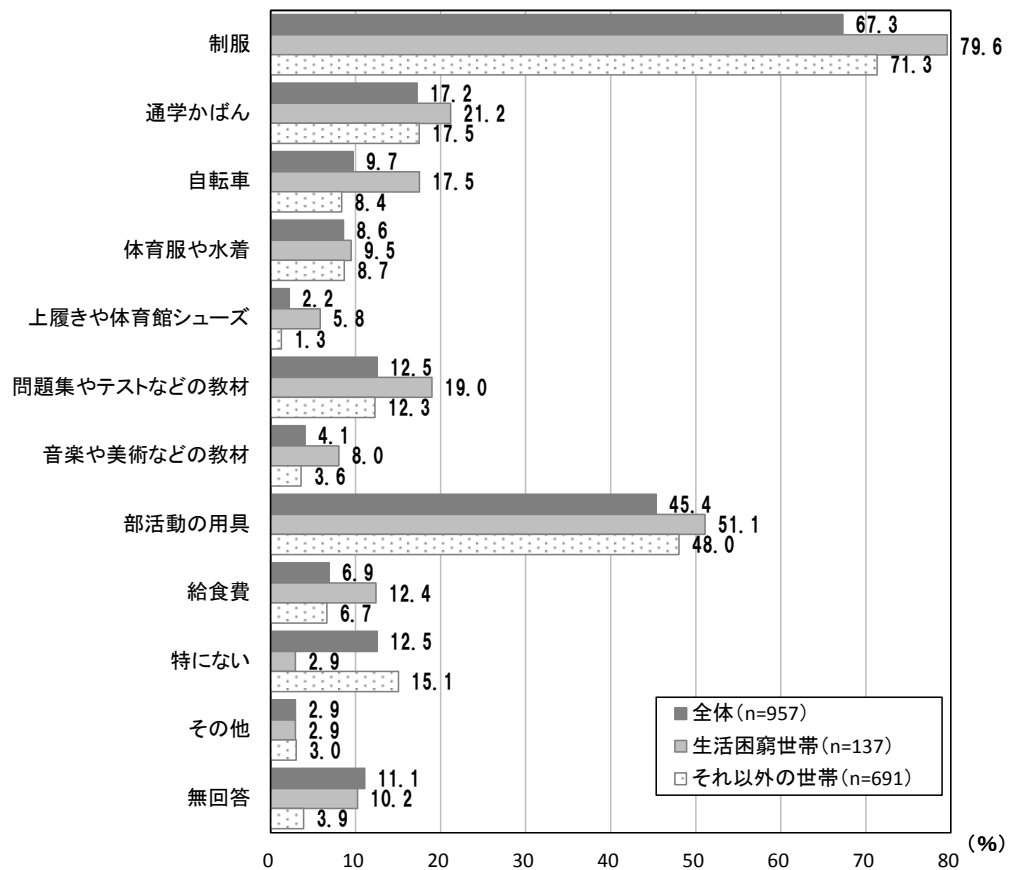
また、“相談相手がない”割合をみると、“それ以外の世帯”の2.3%に対して“生活困窮世帯”では8.4%と多くなっています。



(33)【小学校5年生の保護者】中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの(MA)

中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うものとしては、“制服”が最も多く、“生活困窮世帯”79.6%、“それ以外の世帯”71.3%、次いで多いのは“部活動の用具”で“生活困窮世帯”51.1%、“それ以外の世帯”48.0%となっています。

【小学校5年生の保護者】中学校進学にあたり経済的負担が大きいと思うもの

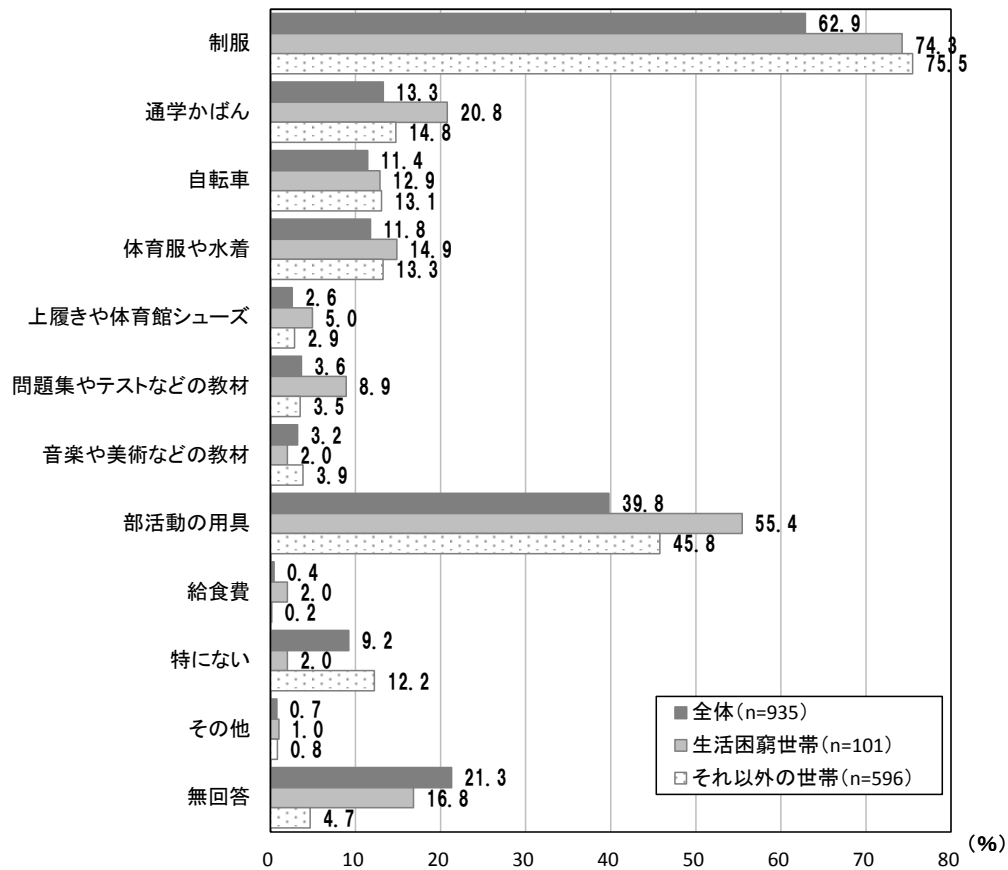


(34)【中学校2年生の保護者】中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの(MA)

中学校入学の際に経済的負担が大きかったものとしては、“制服”が最も多く、“生活困窮世帯”では74.3%、“それ以外の世帯”では75.5%となっています。

次いで“部活動の用具”が“生活困窮世帯”では55.4%、“それ以外の世帯”では45.8%、“通学かばん”が“生活困窮世帯”では20.8%、“それ以外の世帯”では14.8%の順となっています。

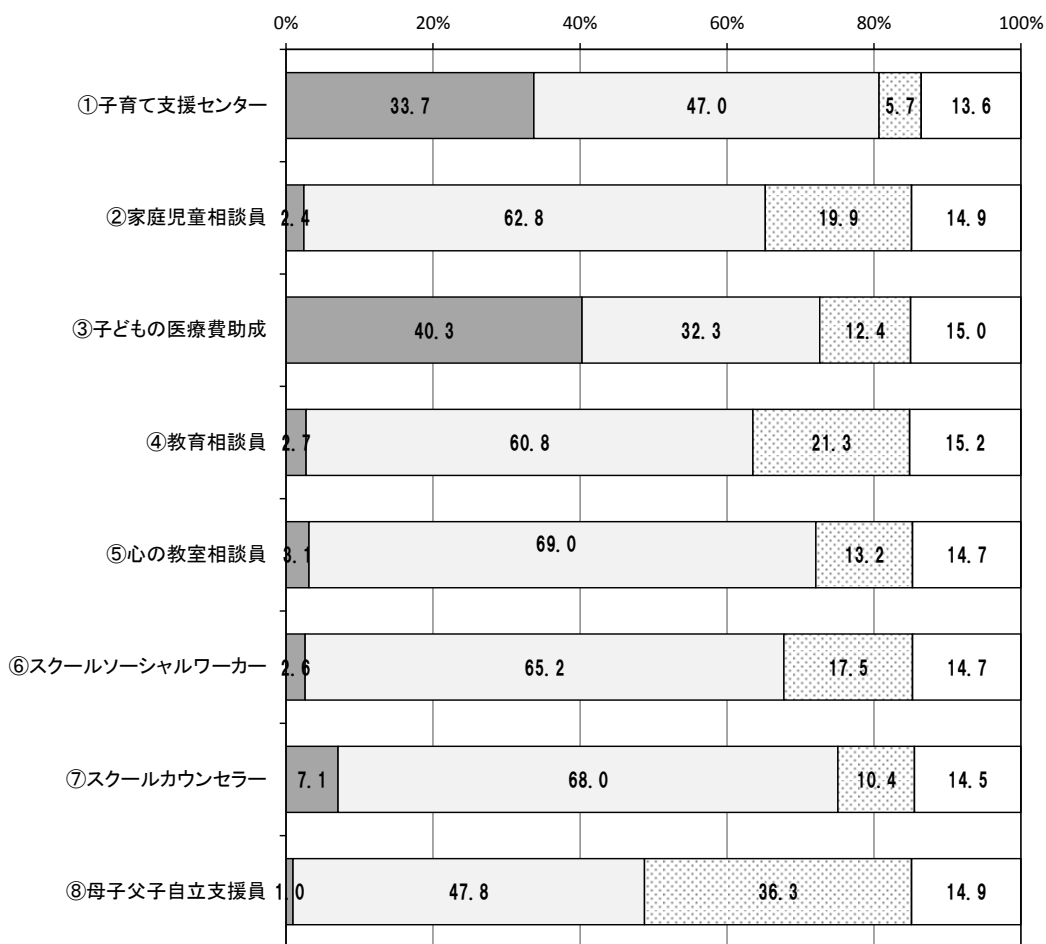
【中学校2年生の保護者】中学校入学の際に経済的負担が大きかったもの



(35) 各種支援サービスの利用経験（SA）

各種支援サービス（8項目）の利用経験については、“利用している、利用したことがある”が最も多いのは、“子どもの医療費助成”で40.3%、次いで“子育て支援総合センター”33.7%となっています。

各種支援サービスの利用経験

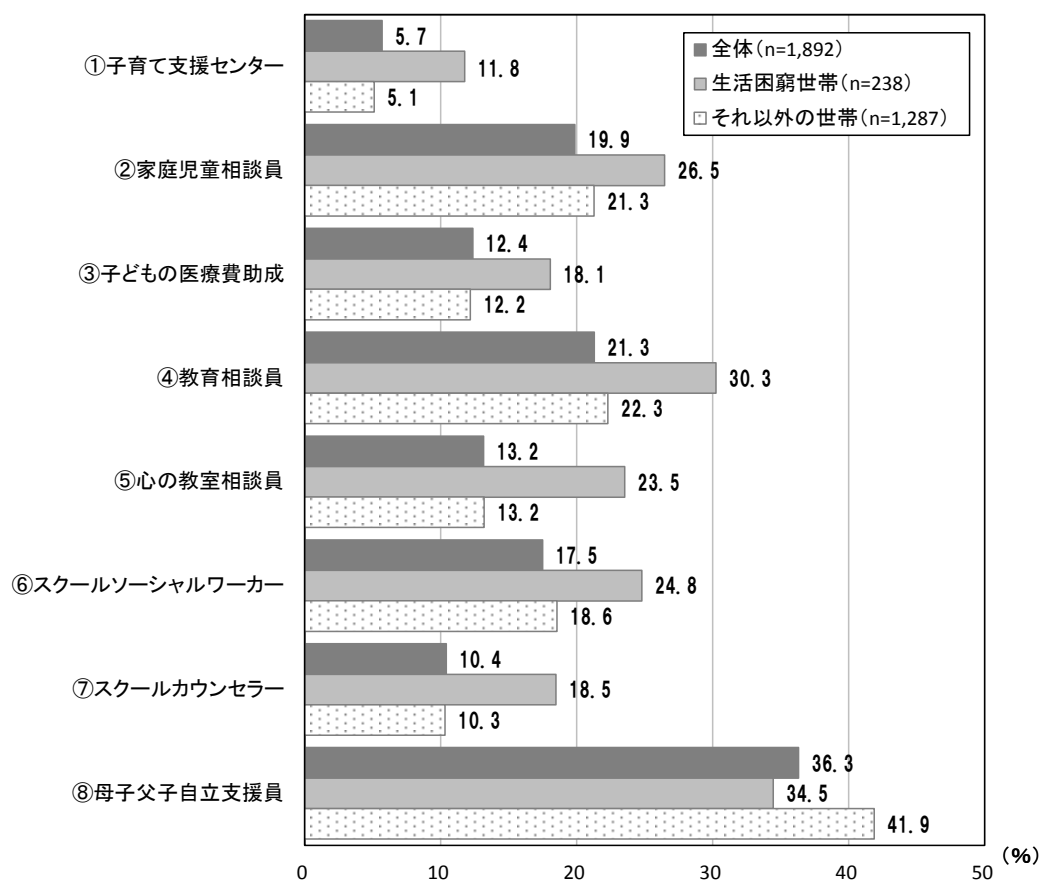


■ 利用している、利用したことがある □ 知っているが利用したことはない □ 知らない □ 無回答

各種支援サービスについて“知らない”割合をみると、“⑧母子父子自立支援員”が最も多く、“生活困窮世帯”34.5%、“それ以外の世帯”41.9%となっています。

“⑧母子父子自立支援員”以外の項目で“それ以外の世帯”よりも“生活困窮世帯”の方が“知らない”割合が多くなっています。

各種支援サービスの利用経験
 < “知らない” の割合 >

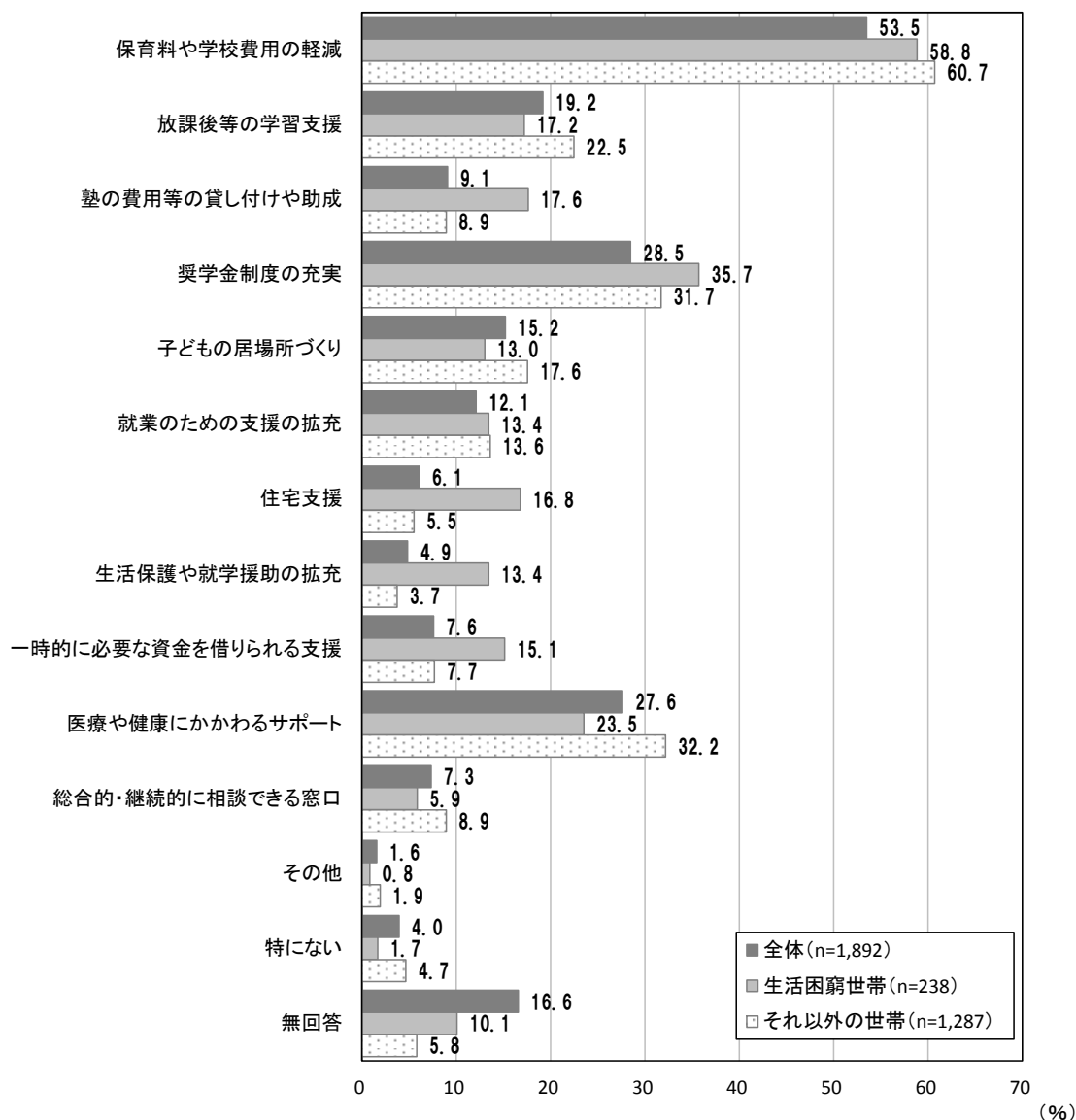


(36) 必要と思う支援 (MA)

必要と思う支援については、“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”ともに“保育や学校費用の軽減”が最も多く、それぞれ58.8%、60.7%となっています。

次いで多いのは、“それ以外の世帯”では“医療や健康にかかわるサポート”32.2%であるのに対し、“生活困窮世帯”では“奨学金制度の充実”35.7%となっています。

必要と思う支援



(37) 自由意見 (F A)

234人(12.4%)から309件のご意見をいただきました。主なご意見と件数は下表のとおりです。

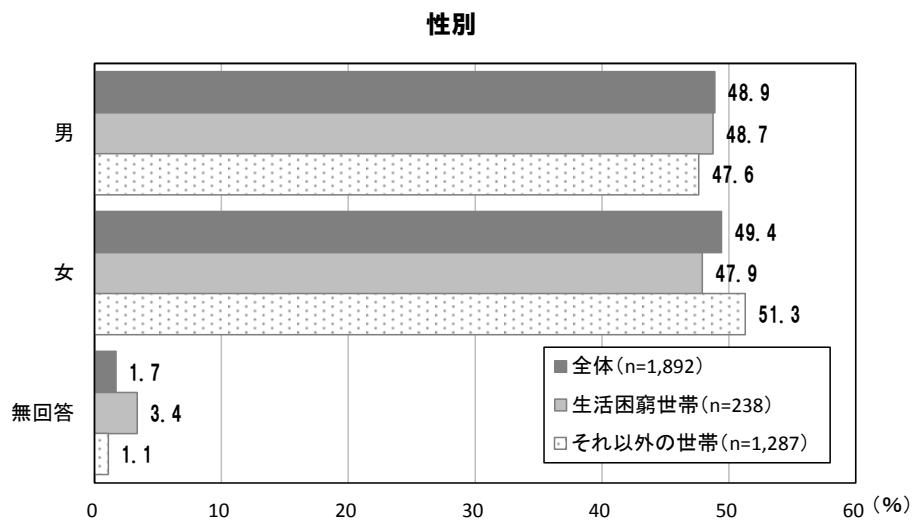
全体と小学5年生の保護者の方では給食についてのご意見が最も多く、中学2年生の保護者の方では学校や教員へのご意見が最も多くなっていました。

主な記述内容	小学5年生	中学2年生	全体
給食(アレルギー、給食費等含む)	16	9	25
医療費	14	6	20
アンケート	12	8	20
授業(2学期制含む)	10	9	19
制服や学用品等	6	9	15
学校、教員へのご意見	4	10	14
子どもの遊び場や集える場	11	2	13
学力	9	3	12
部活動	7	5	12
経済的支援	5	7	12
一時預かり、学童等	7	3	10
市政、職員へのご意見	8	2	10
教育費	1	8	9
就学前の支援等	5	3	8
バスの運行	5	3	8
学校の設備整備	5	2	7
ひとり親家庭への支援	6	1	7
体育館、シーハット等の施設	3	4	7
将来の不安	5	1	6
安全(道路整備等)	4	2	6
情報提供	5		5
子ども手当	5		5
教育体制の充実	4	1	5
教育格差	2	2	4
PTAや子ども会	1	3	4
相談体制	3	1	4
奨学金、貸付制度等	2	1	3
学校区	3		3
土曜日授業	1	1	2
生活保護	2		2
公衆電話設置	2		2
その他	19	11	30
合 計	192	117	309

4 子ども向け調査の集計・分析

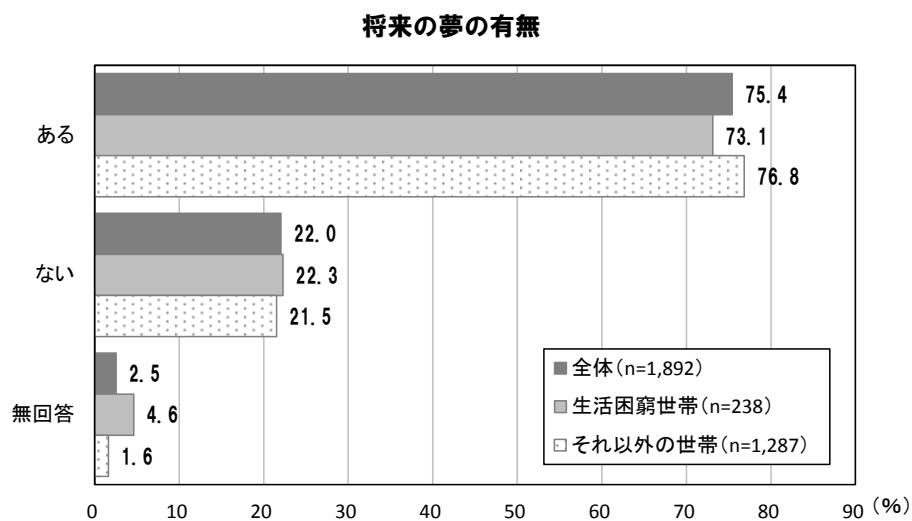
(1) 性別(SA)

性別については、全体で“男”48.9%、“女”49.4%となっています。

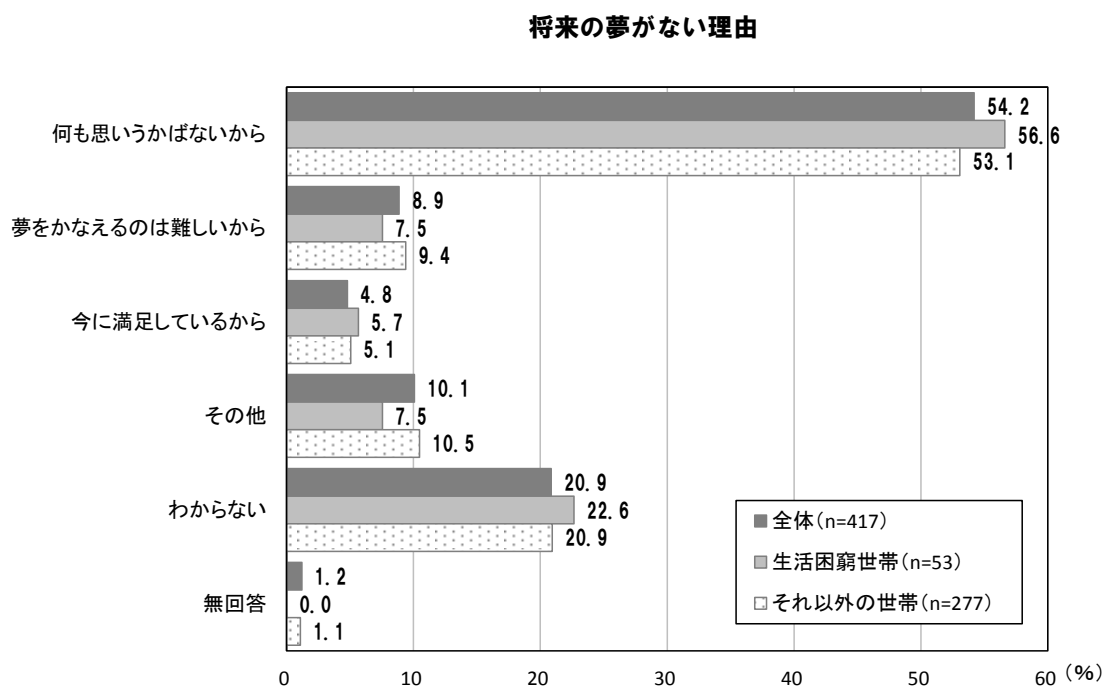


(2) 将来の夢の有無 (SA)

将来の夢については、“ある”が75.4%、“ない”が22.0%となっています。

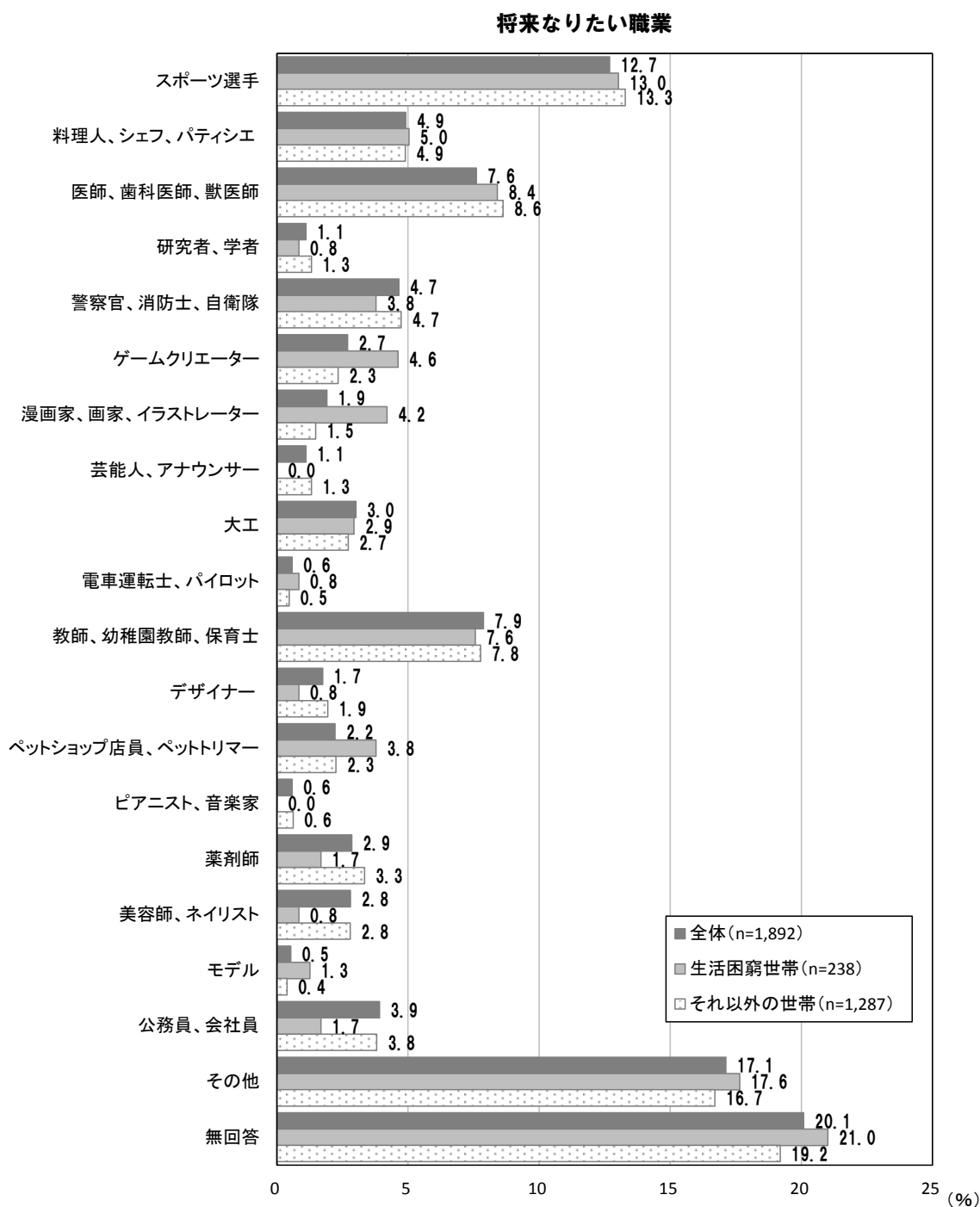


将来の夢がない理由 (SA) としては、“何も思いうかばないから”が54.2%で最も多くなっています。



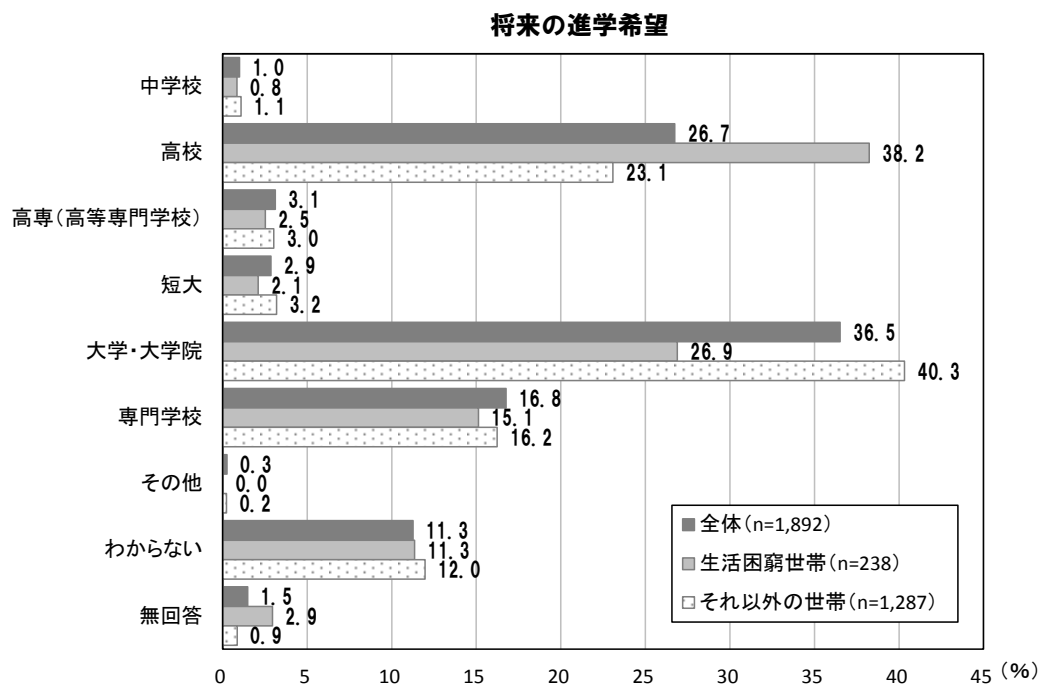
(3) 将来なりたい職業 (SA)

将来なりたい職業については、“無回答”や“その他”を除くと、“スポーツ選手”が最も多く、“生活困窮世帯”では13.0%、“それ以外の世帯”では13.3%、次いで多いのは“医師、歯科医師、獣医師”で“生活困窮世帯”では8.4%、“それ以外の世帯”では8.6%となっています。



(4) 将来の進学希望 (SA)

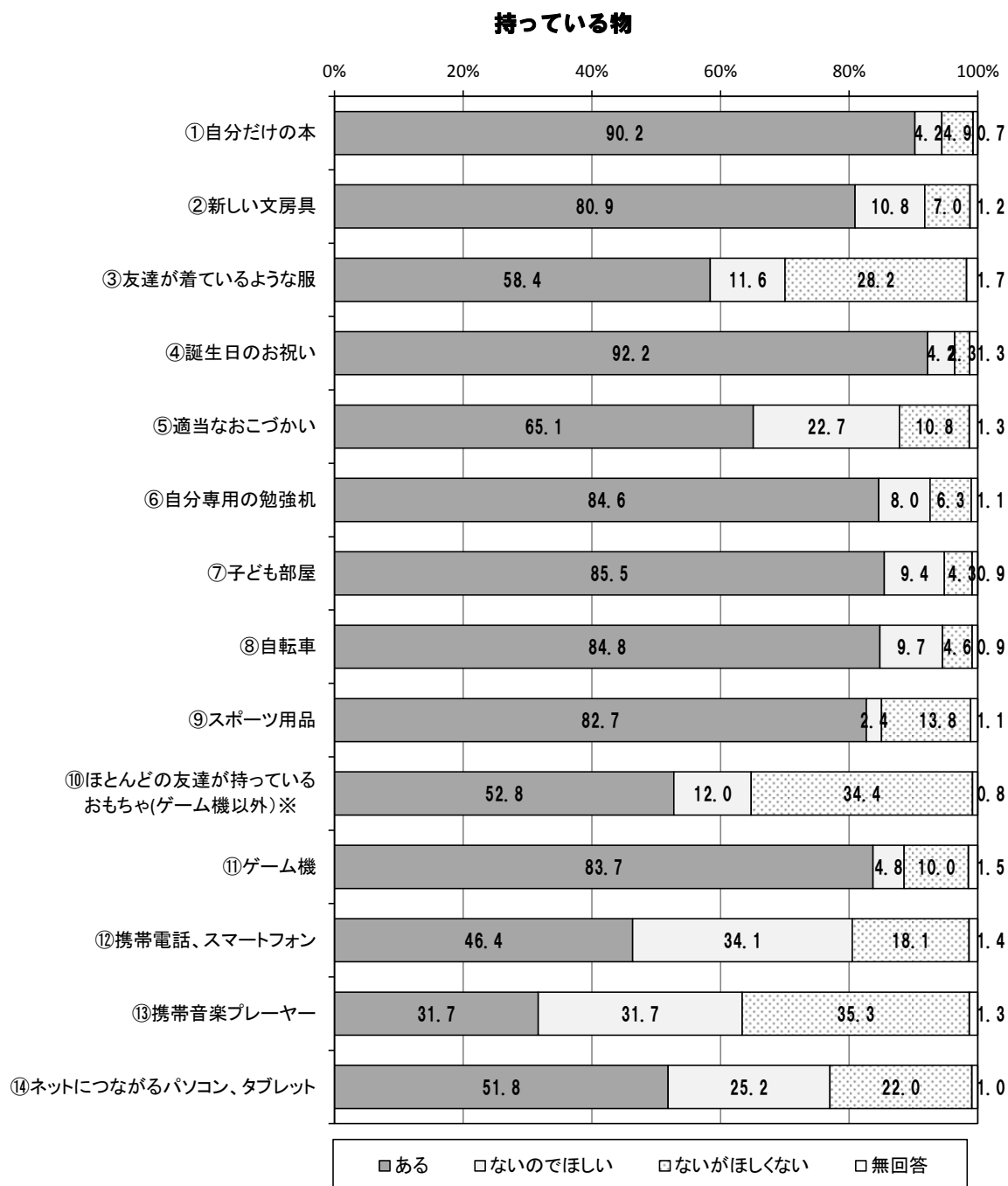
将来の進学希望について、“それ以外の世帯”では“大学・大学院”が40.3%で最も多く、次いで“高校”23.1%となっているのに対し、“生活困窮世帯”では“高校”が38.2%で最も多く、次いで“大学・大学院”26.9%となっています。



(5) 持っている物 (SA)

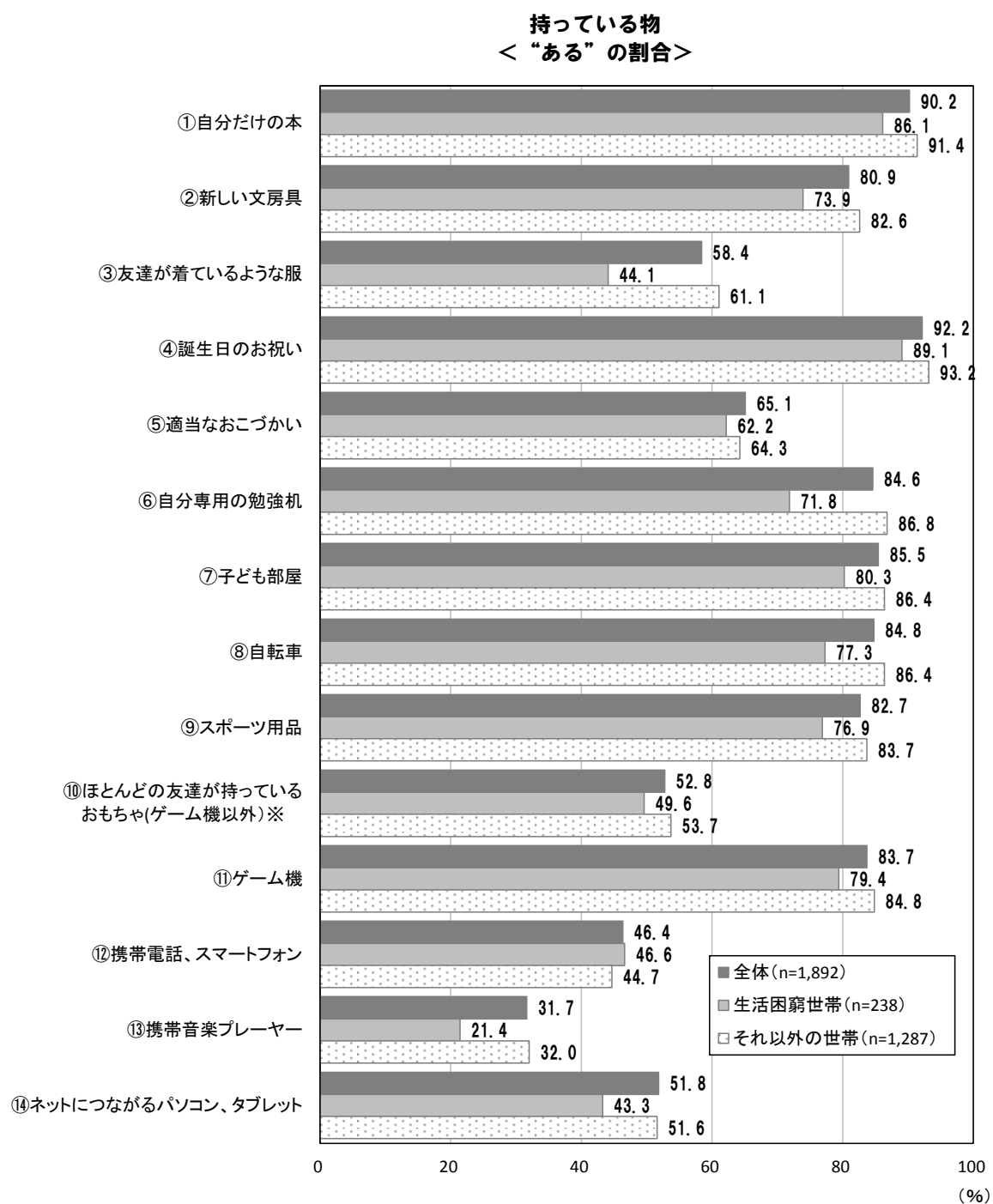
持っている物について“ある”の割合が最も多いのは“④誕生日のお祝い”で92.2%、次いで“①自分だけの本”90.2%となっています。

逆に少ないのは、“⑬携帯音楽プレーヤー”31.7%、“⑫携帯電話、スマートフォン”46.4%等となっています。



※⑩ほとんどの友達が持っているおもちゃ(ゲーム機以外)は小学5年生のみの項目

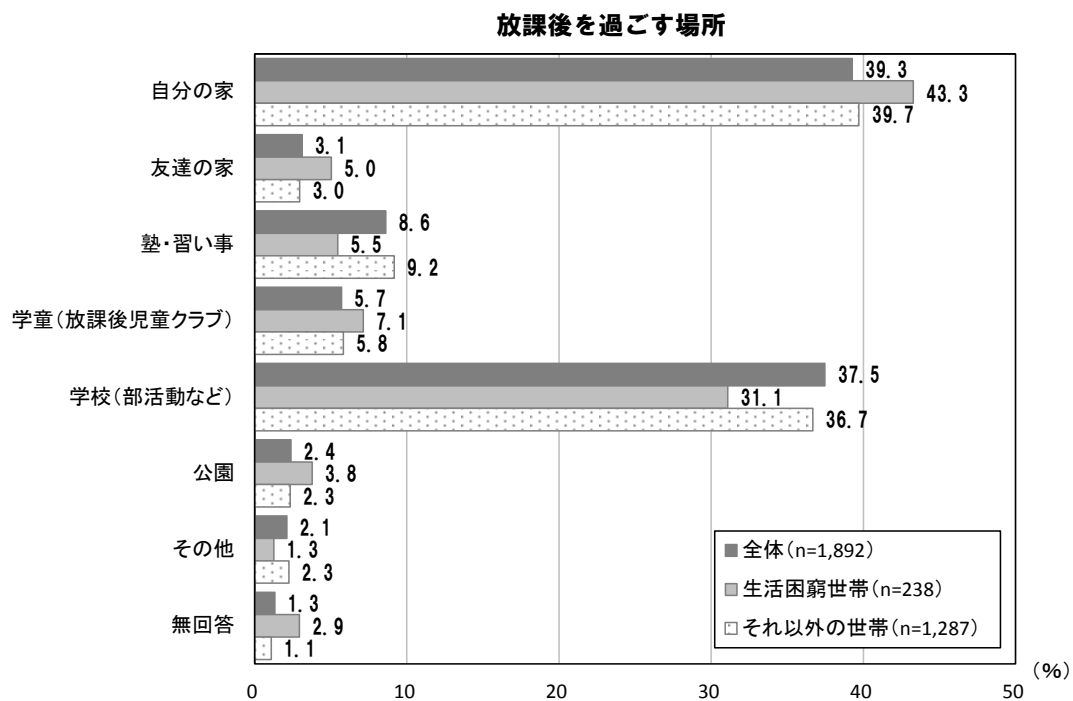
“ある”の割合について、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”の方が全ての項目で低い状況ですが、“⑫携帯電話・スマートフォン”については“それ以外の世帯”の44.7%に対して“生活困窮世帯”では46.6%と若干多くなっています。



※⑩ほとんどの友達が持っているおもちゃ(ゲーム機以外)は小学5年生のみの項目

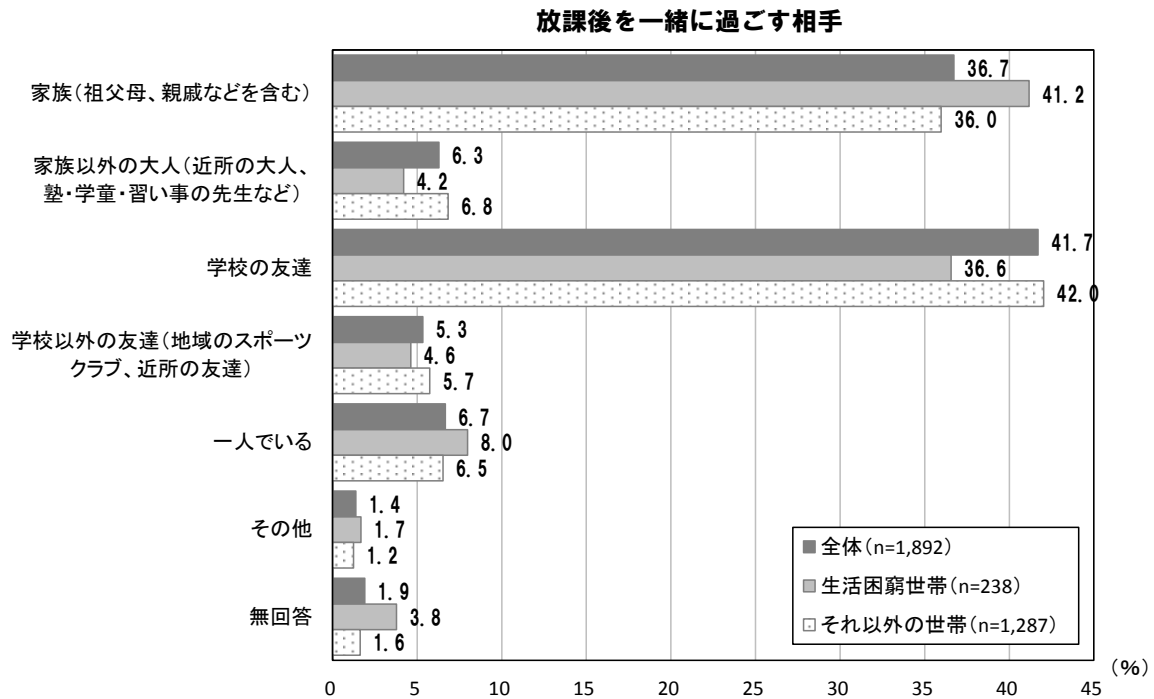
(6) 放課後を過ごす場所 (SA)

放課後を過ごす場所については、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”では“自分の家”が多く、“学校”が少ない状況です。



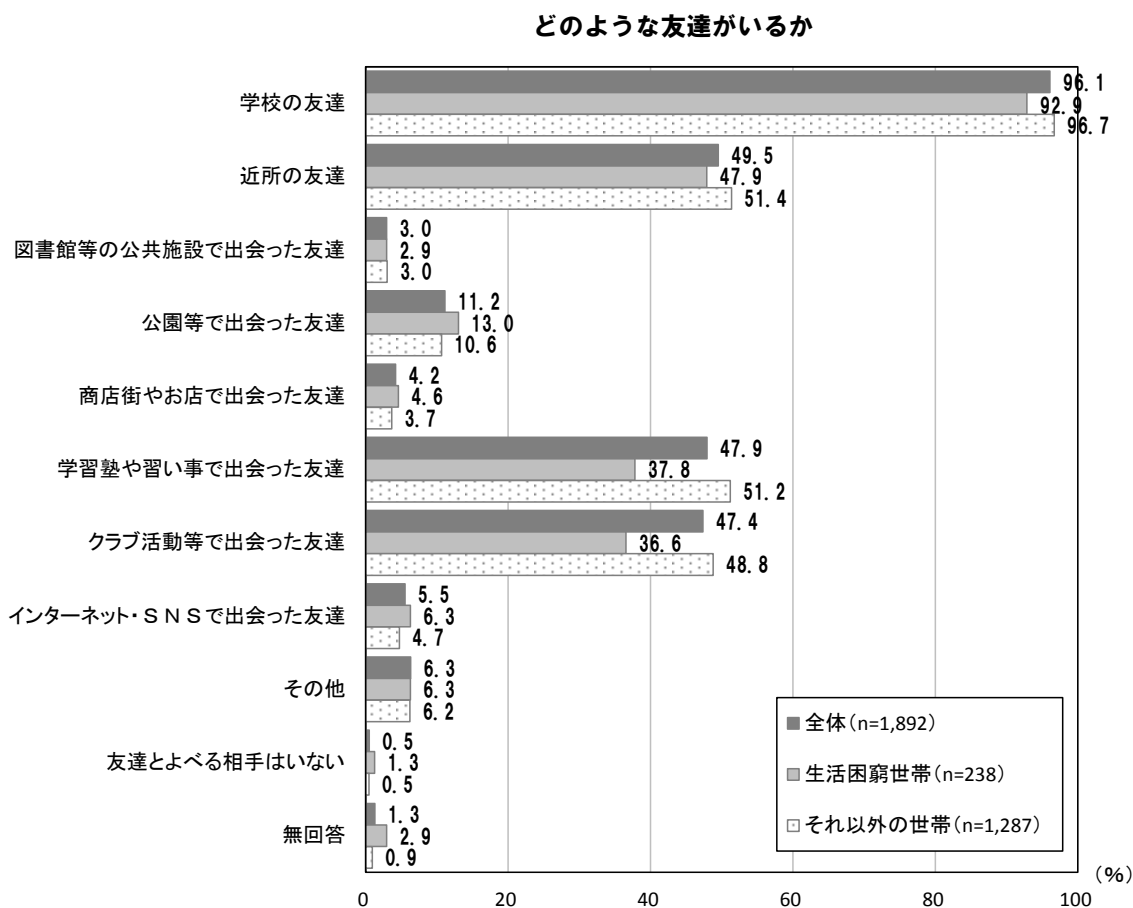
(7) 放課後を一緒に過ごす相手 (SA)

放課後を一緒に過ごす相手については、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”では“家族”や“一人である”が多く、“学校の友達”が少ない状況です。



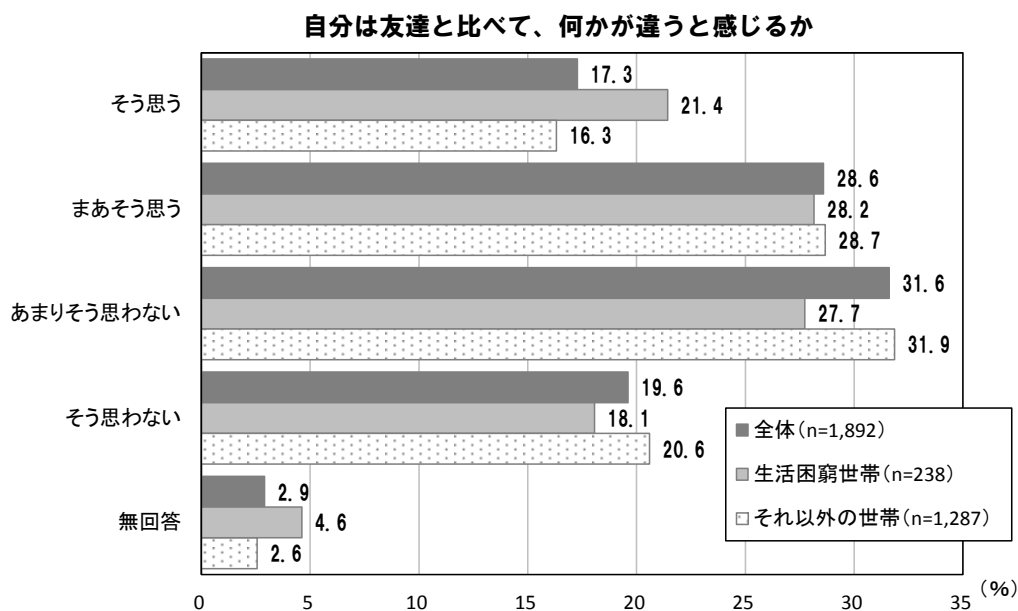
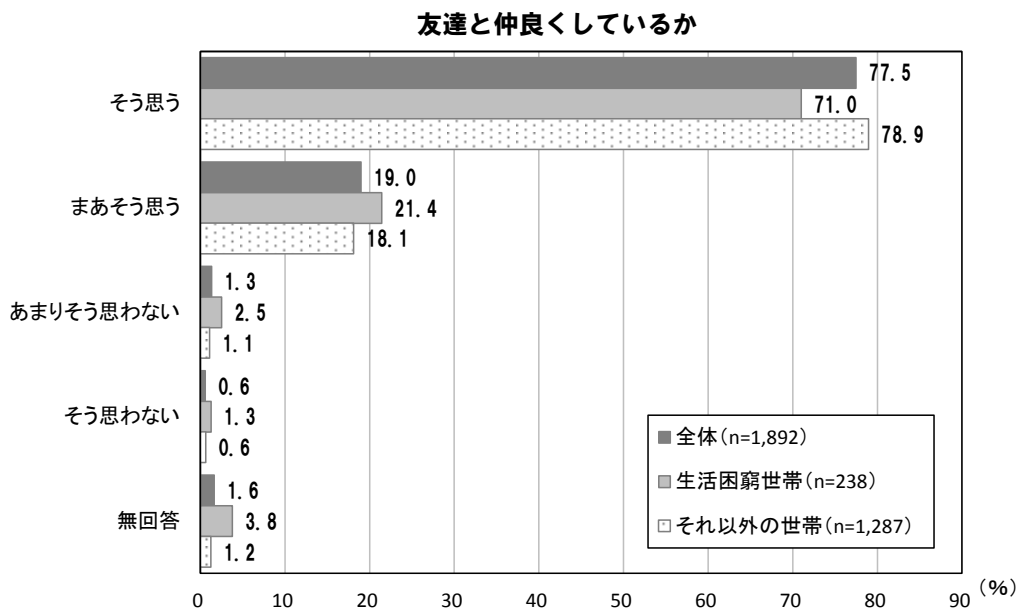
(8) どのような友達がいるか (MA)

放課後を一緒に過ごす相手については、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”では“学習塾や習い事では出会った友達”や“クラブ活動等では出会った友達”が少なく、“公園等で出会った友達”や“商店街やお店で出会った友達”、“インターネット・SNSでは出会った友達”が若干ですが多い状況です。



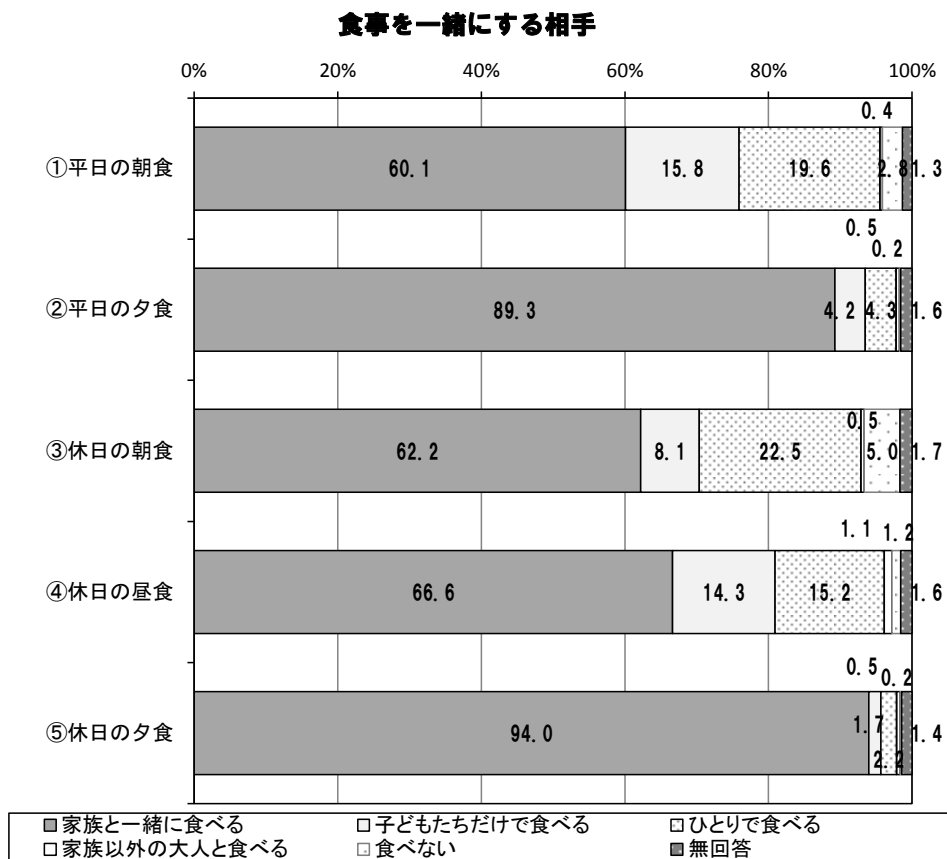
(9) 友達との関係 (SA)

友達と仲良くしているかについては、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”では“思わない(“あまりそう思わない”+“そう思わない”)”が多く、自分は友達と比べて、何かが違うと感じるかについては、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”では“思う(“そう思う”+“まあそう思う”)”が多くなっています。

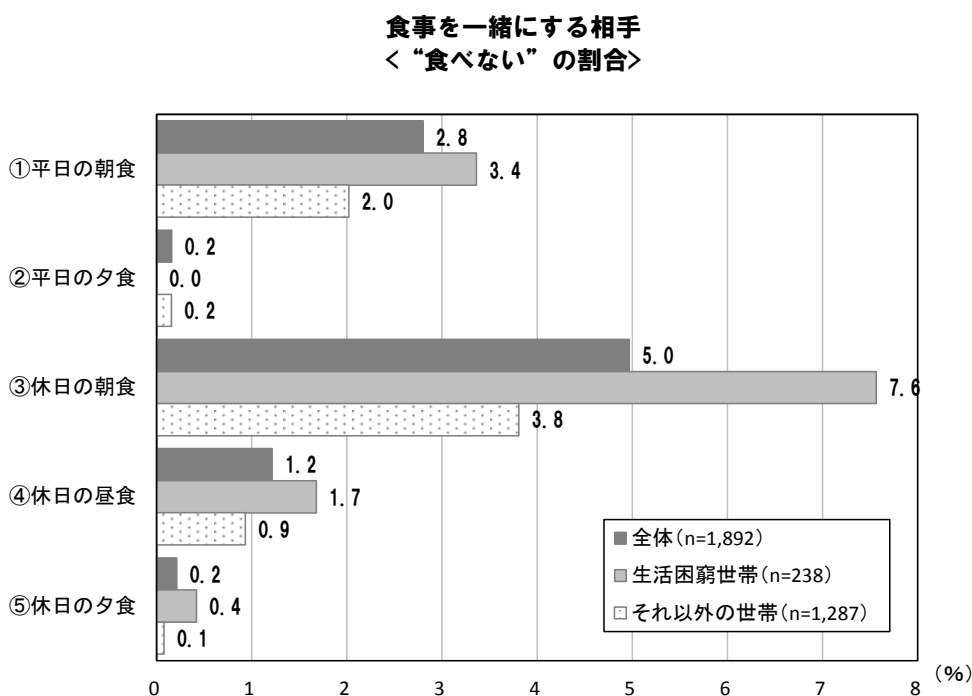


(10) 食事を一緒にする相手 (SA)

食事を一緒に食べる相手について“家族と一緒に食べる”が最も多い機会は“⑤休日の夕食”で94.0%、次いで“②平日の夕食”89.3%となっています。

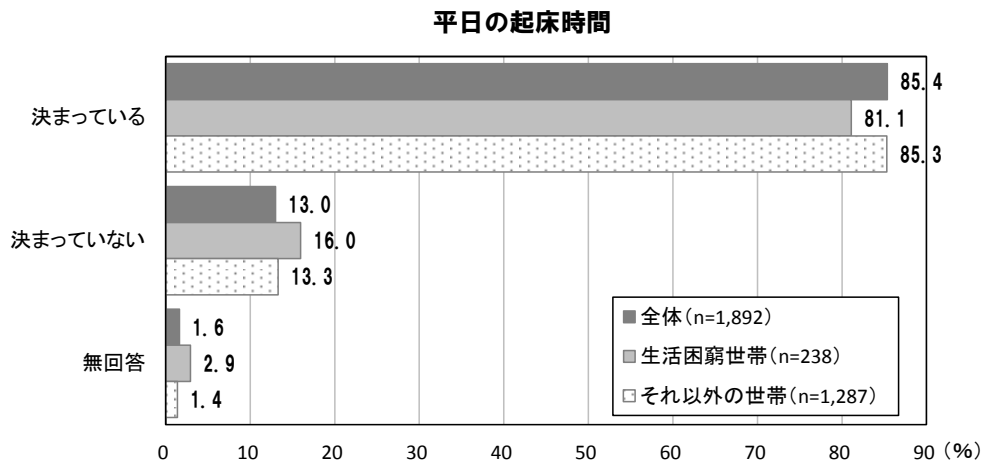


“食べない”の割合に着目してみると、“生活困窮世帯”では“休日朝食”が7.6%、“平日朝食”が3.4%となっています。

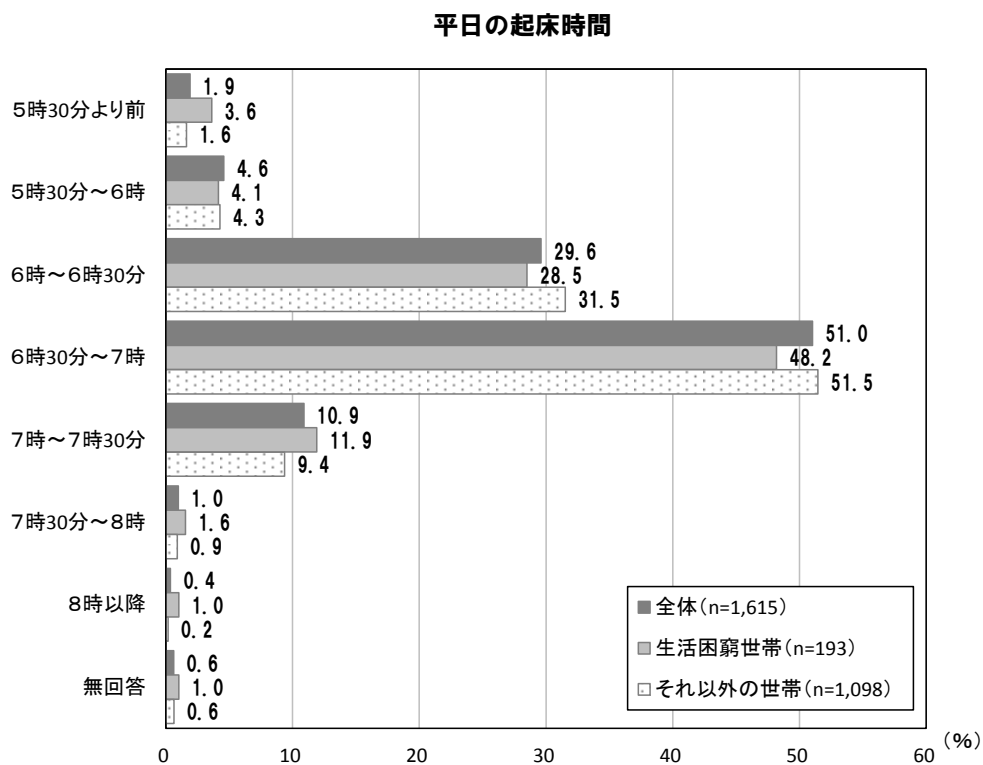


(11) 平日の起床時間・就寝時間（SA）

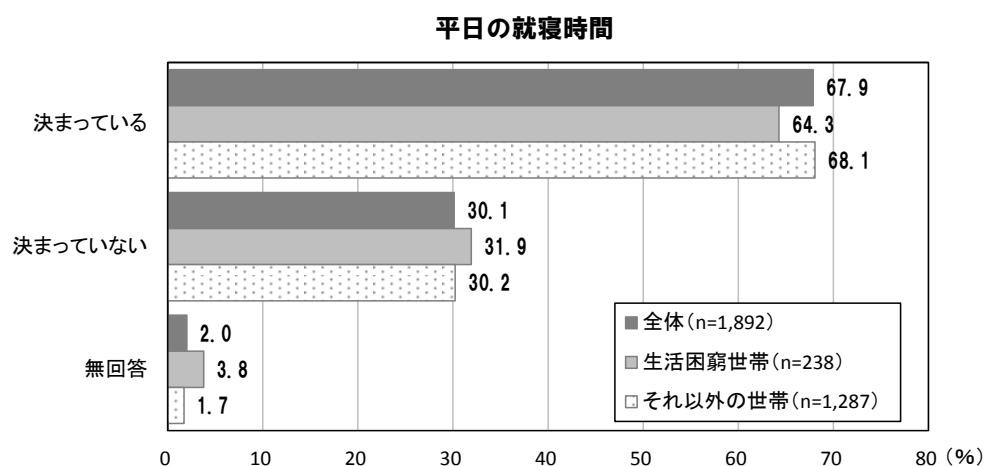
平日の起床時間について、“決まっている”が“生活困窮世帯”では81.1%、“それ以外の世帯”では85.3%となっています。



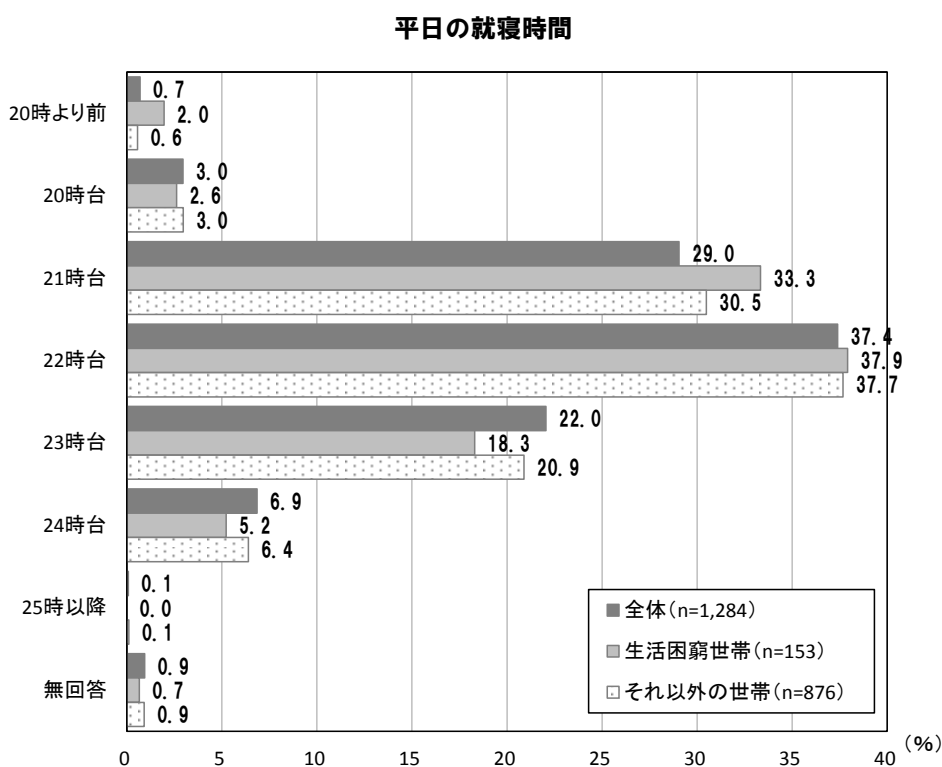
“決まっている”起床時間について、“6時30分～7時”が最も多いのは“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”共通ですが、“それ以外の世帯”の51.5%に対し“生活困窮世帯”では48.2%とやや少なく、その分、“7時～7時30分”が“それ以外の世帯”の9.4%に対し“生活困窮世帯”では11.9%とやや多くなっています。



平日の就寝時間について、“決まっている”が“生活困窮世帯”では64.3%、“それ以外の世帯”では68.1%となっており、起床時間に比べると“決まっている”割合がいずれも少なくなっています。

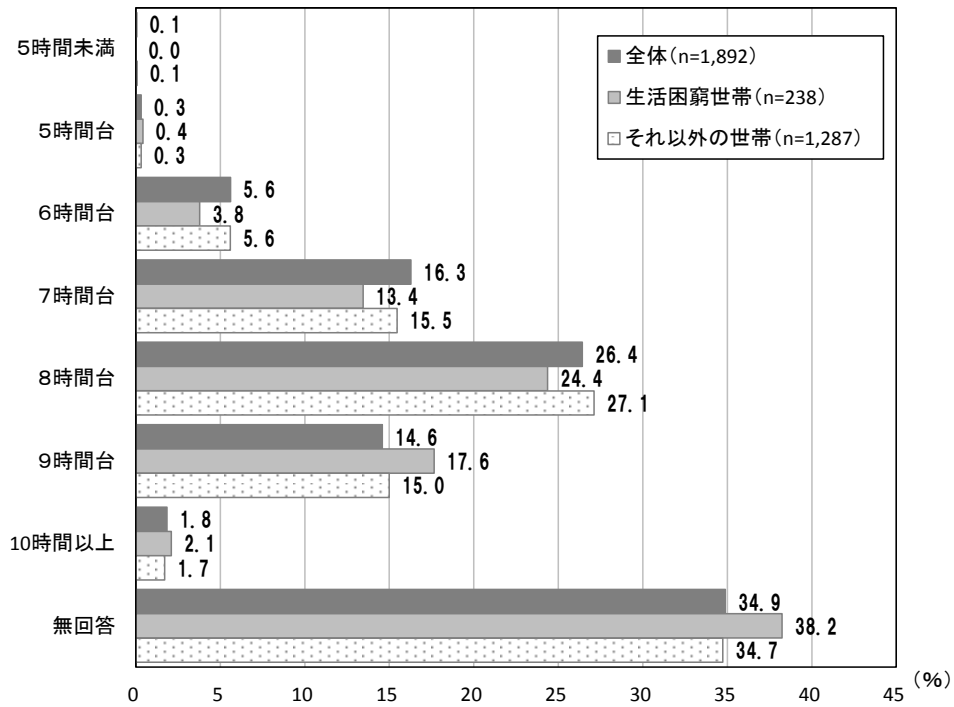


“決まっている”就寝時間については、“22時台”が最も多く、“生活困窮世帯”では37.9%、“それ以外の世帯”では37.7%となっています。



平日の起床時間・就寝時間の回答に基づき、平日の睡眠時間としてみると、“8時間台”が最も多いのは“生活困窮世帯”“それ以外の世帯”共通ですが、“それ以外の世帯”の27.1%に対し“生活困窮世帯”では24.4%とやや少なく、その分、“9時間台”が“それ以外の世帯”の15.0%に対し“生活困窮世帯”では17.6%とやや多くなっています。

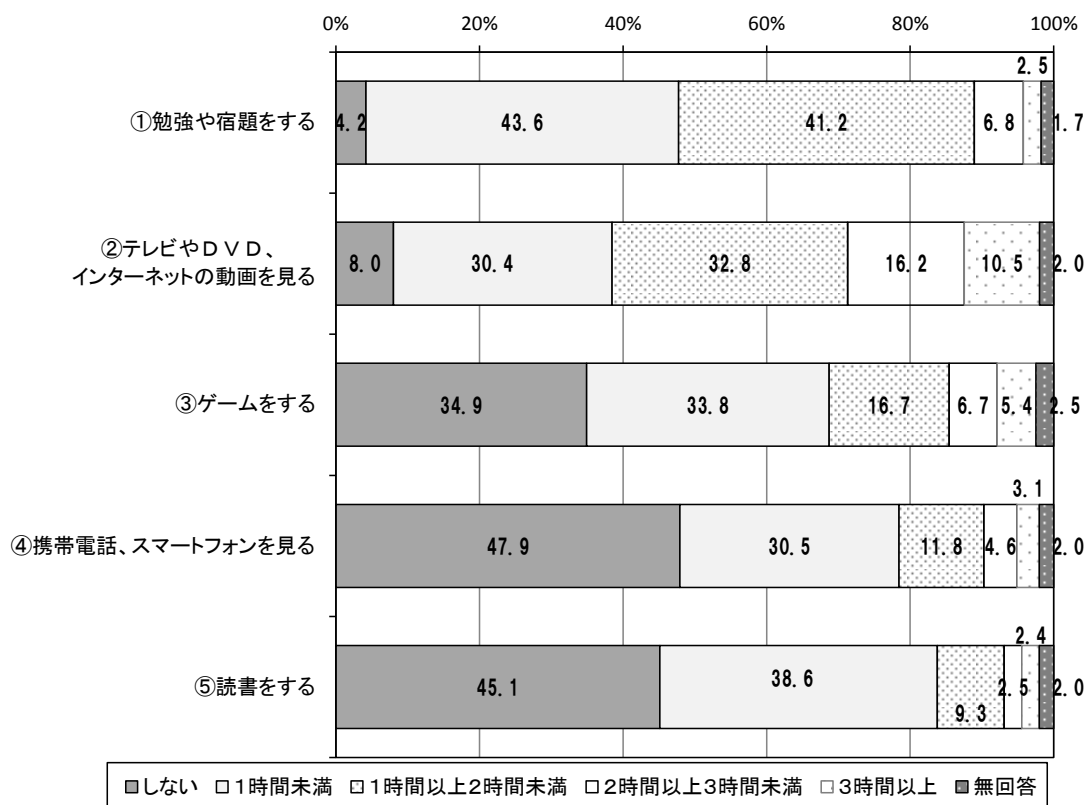
平日の睡眠時間



(12) 平日の時間の過ごし方 (SA)

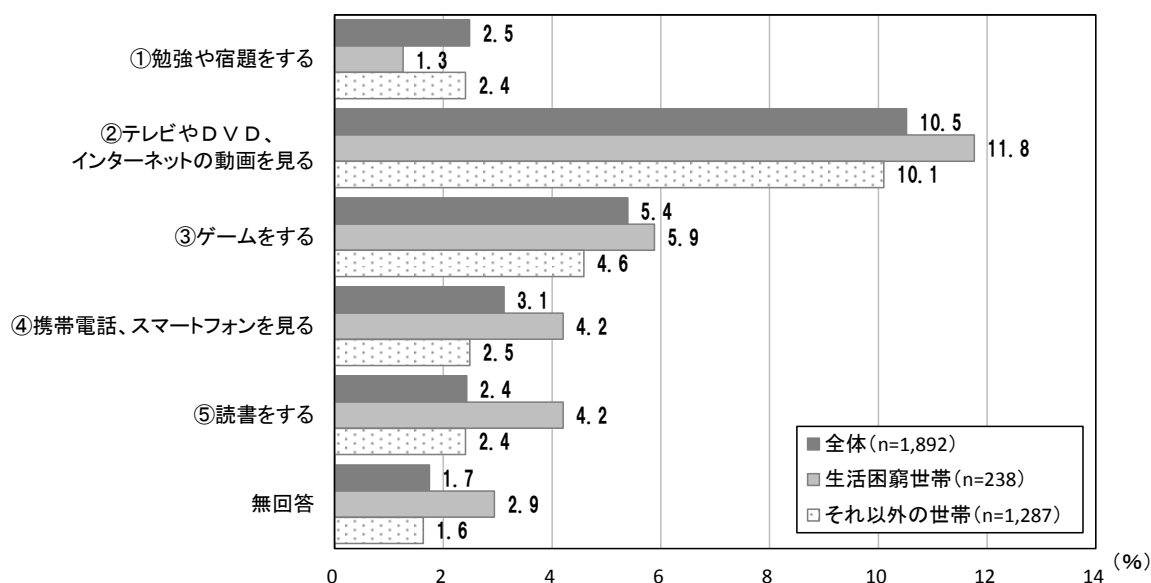
平日の時間の過ごし方として“しない”が最も多いのは“④携帯電話・スマートフォンを見る”で47.9%、次いで“⑤読書をする”45.1%となっています。

平日の時間の過ごし方



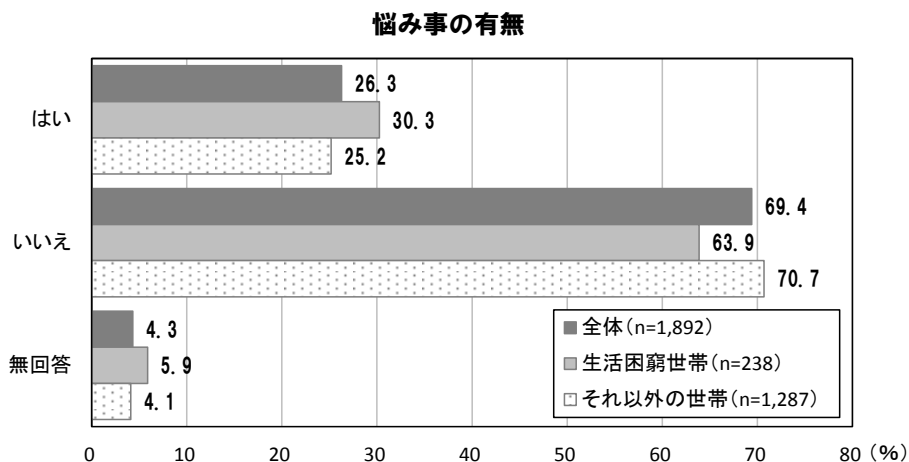
“3時間以上”に着目してみると、“生活困窮世帯”では“①勉強や宿題をする”が1.3%、で、“それ以外の世帯”の2.4%に比べ少なくなっています。

平日の時間の過ごし方
< “3時間以上”の割合 >

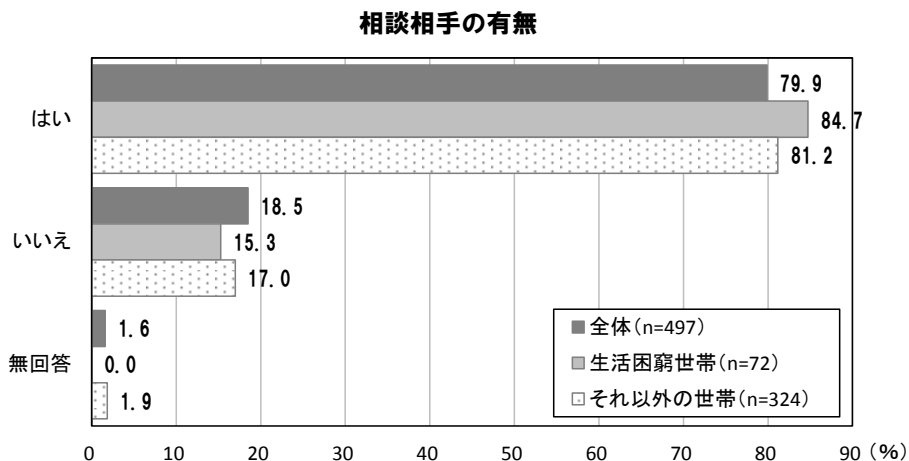


(13) 悩み事の有無 (SA) と相談相手の有無 (SA)、相談相手 (MA)

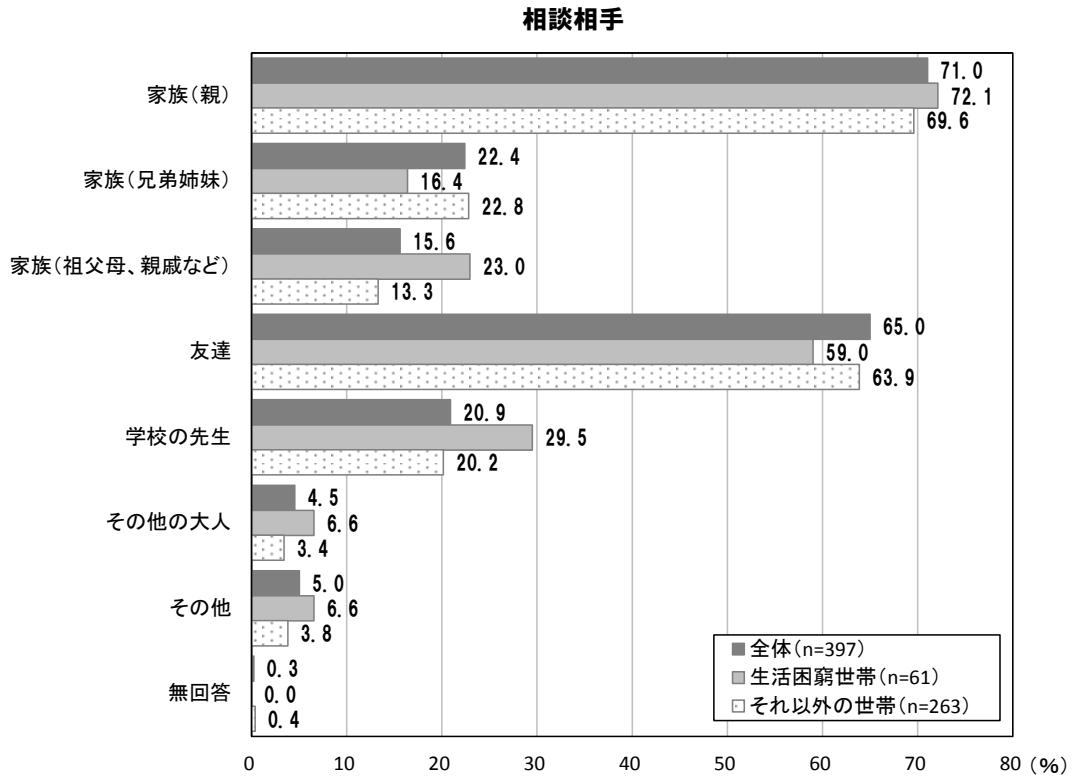
悩み事の有無については、“生活困窮世帯”では“はい(悩み事がある)”が30.3%で、“それ以外の世帯”の25.2%に比べ多くなっています。



悩み事の有無で“はい”と答えた子どもに、悩み事を相談できる相手の有無を聞いたところ、“はい”が“生活困窮世帯”で84.7%、“それ以外の世帯”で81.2%と多い状況ですが、逆に相談相手がない子どもが“生活困窮世帯”では15.3%、“それ以外の世帯”では17.0%となっています。



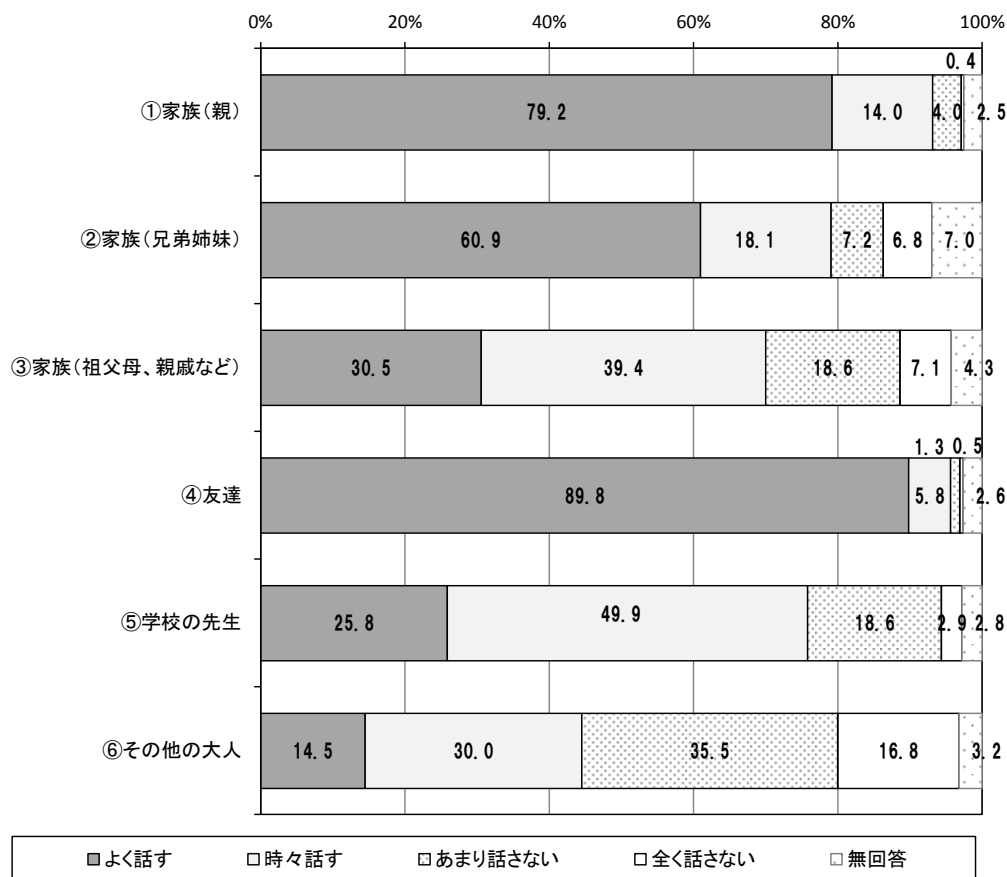
相談できる相手の有無について“はい”と答えた子どもに相談相手は誰かを聞いたところ、“家族（親）”が最も多く、“生活困窮世帯”では72.1%、“それ以外の世帯”では69.6%、次いで“友達”が“生活困窮世帯”では59.0%、“それ以外の世帯”では63.9%となっています。



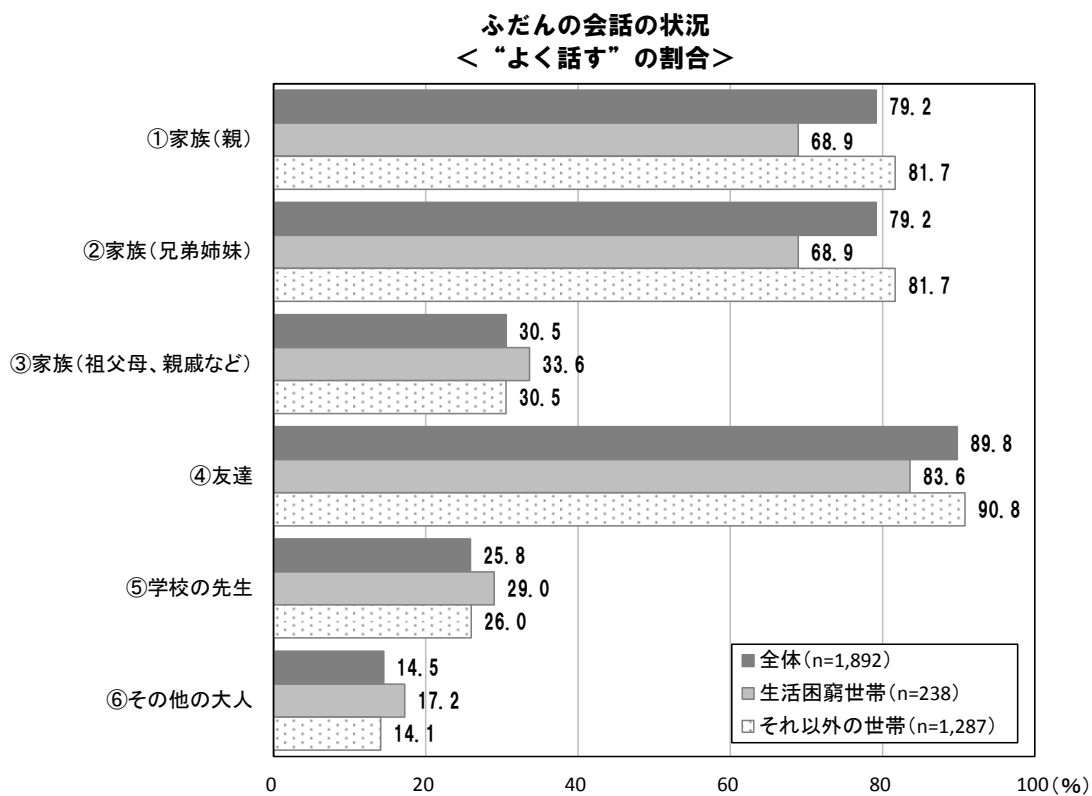
(14) ふだんの会話の状況 (SA)

ふだんの会話の状況については、“よく話す”が最も多いのは“④友達”で89.8%、次いで“①家族(親)”79.2%、“②家族(兄弟姉妹)”60.9%の順となっています。

ふだんの会話の状況

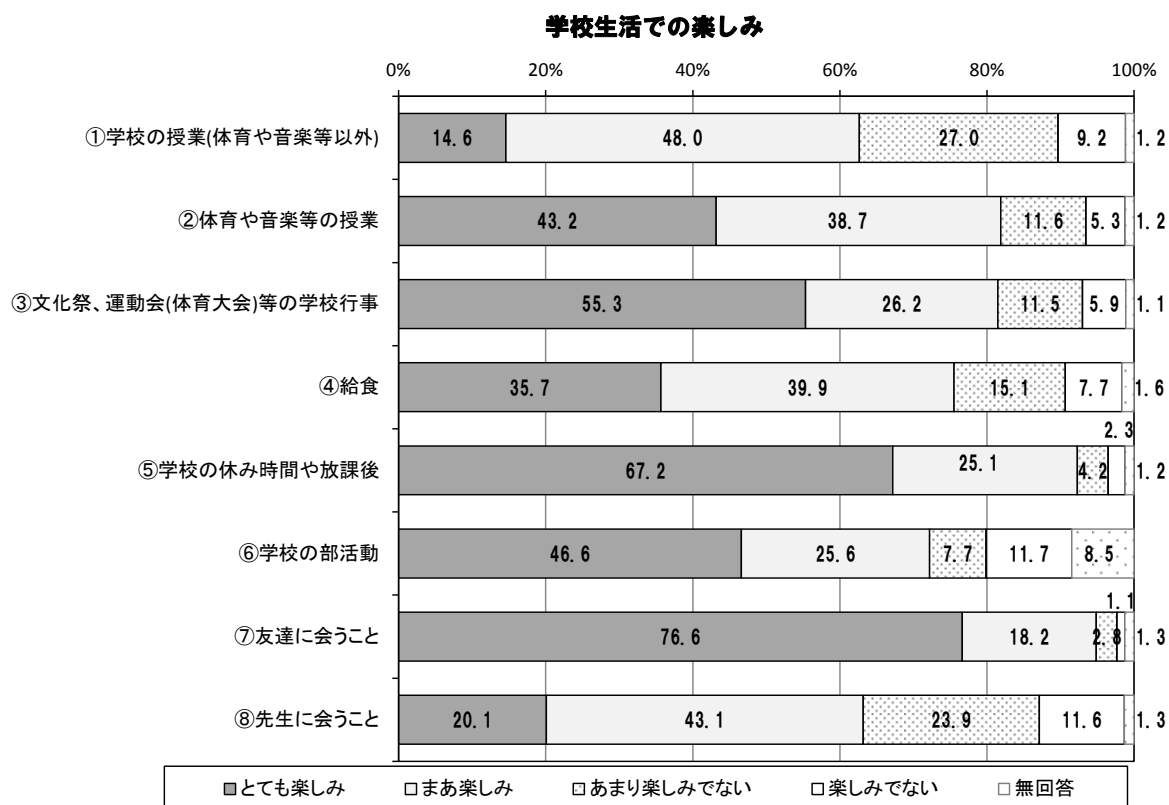


“よく話す”の割合について、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”では“①家族（親）”“②家族（兄弟姉妹）”“④友達”が少ない状況です。



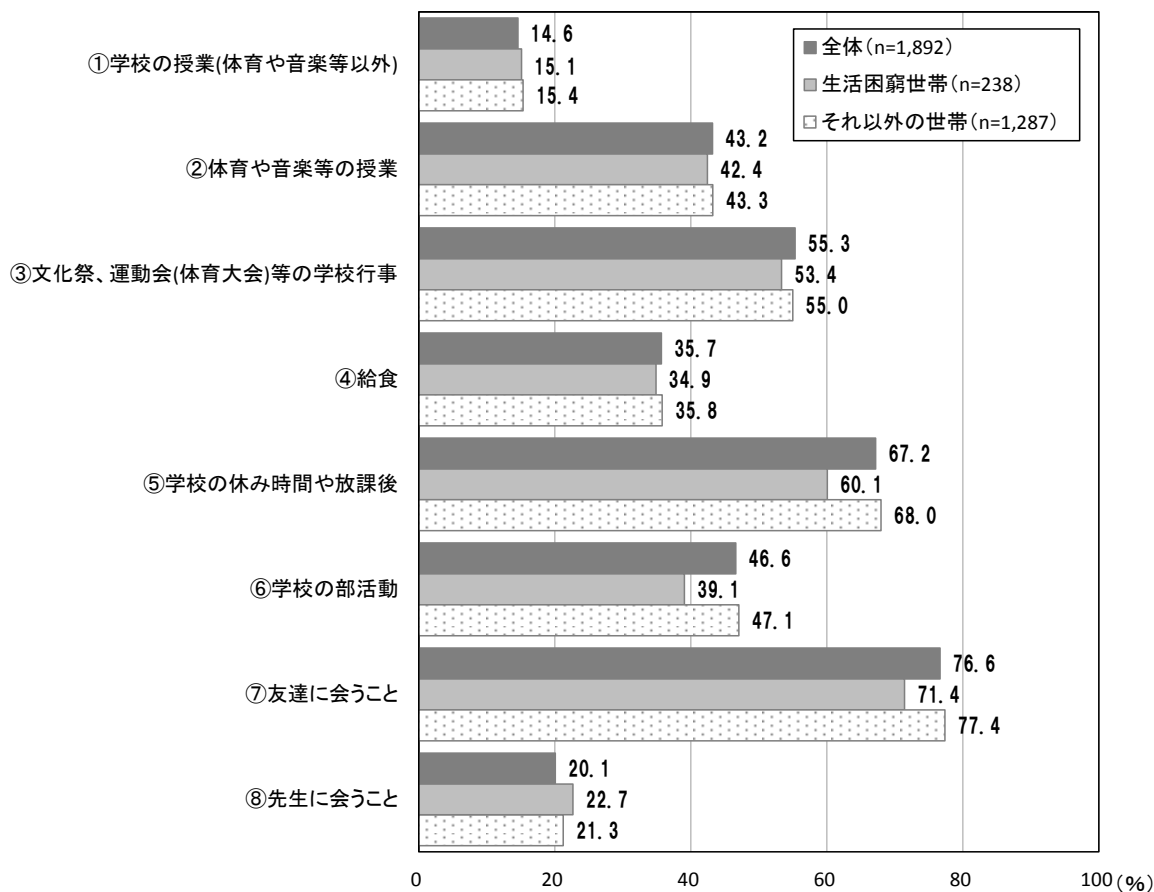
(15) 学校生活での楽しみ (SA)

学校生活での楽しみについて、“とても楽しみ”が最も多いのは“⑦友達に会うこと”で76.6%、次いで“⑤学校の休み時間や放課後”67.2%、“③文化祭、運動会(体育大会)等の学校行事”55.3%となっています。



“とても楽しみ”の割合について、“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”の方が総じて少なくなっていますが、中でも“⑤学校の休み時間や放課後”“⑥学校の部活動”“⑦友達に会うこと”に関しては5ポイント以上低くなっています。

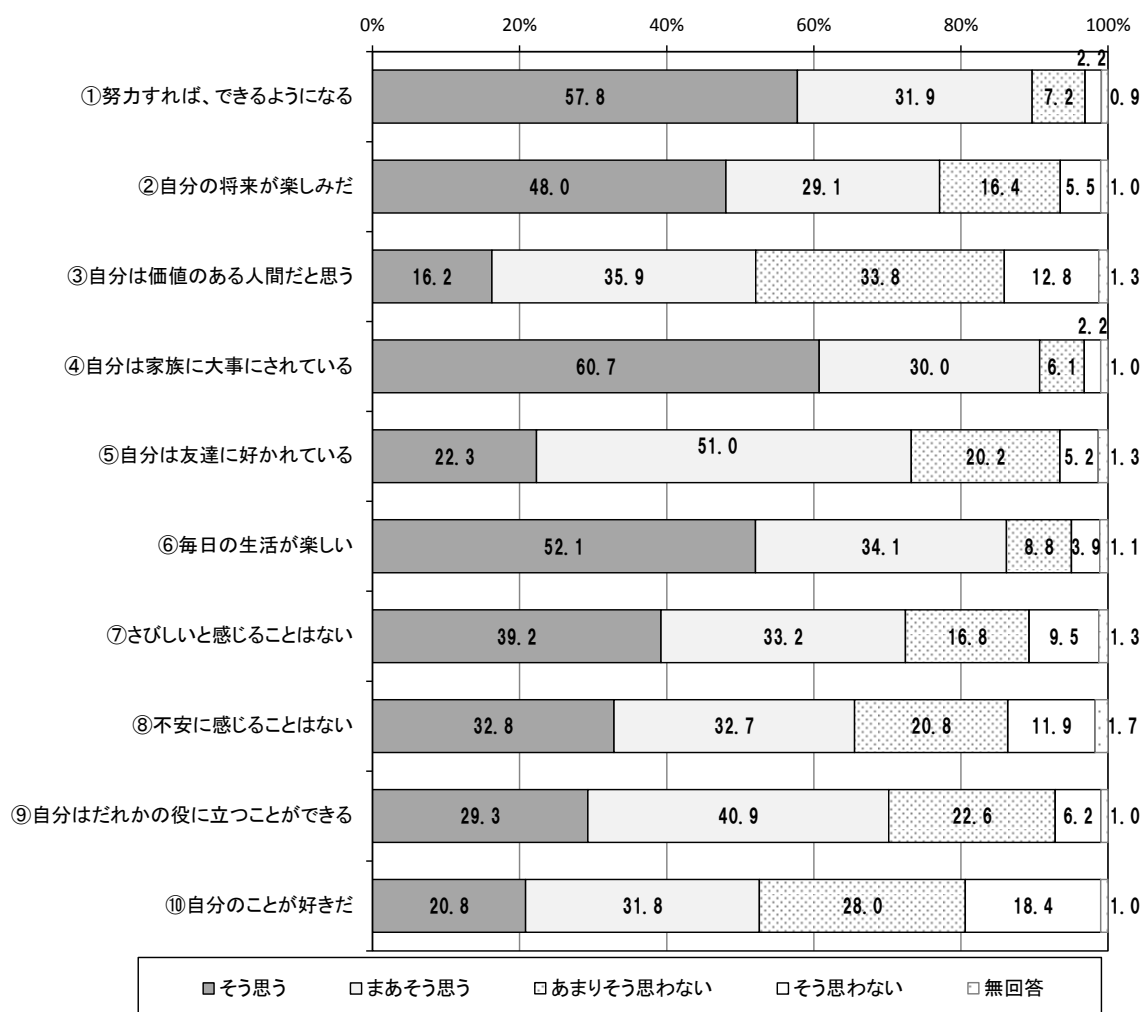
学校生活での楽しみ
 < “とても楽しみ”の割合 >



(16) 日常生活の中で感じていること (SA)

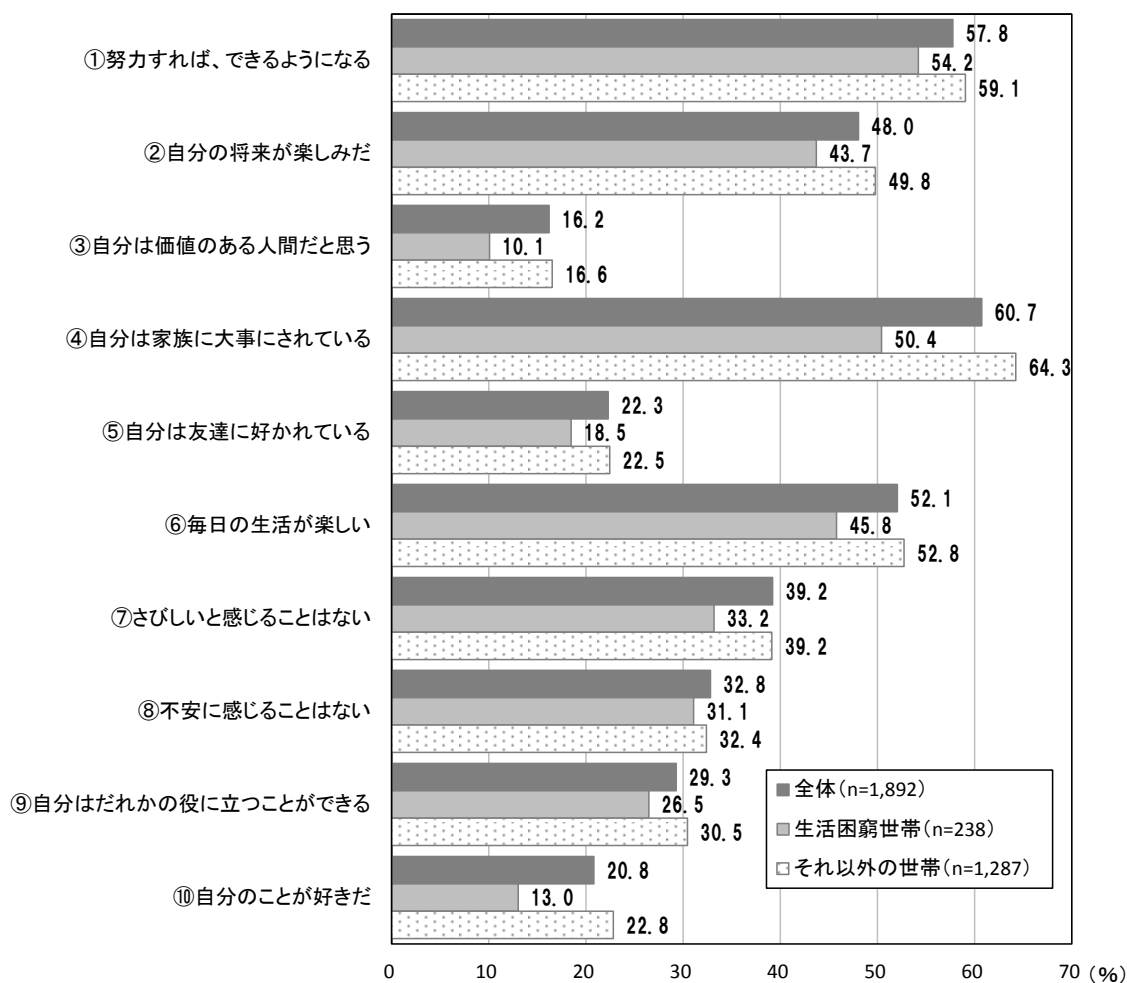
日常生活の中で感じていることについて、“そう思う”という肯定的感想が多かったのは“④自分は家族に大事にされている”60.7%、“①努力すれば、できるようになる”57.8%、“⑥毎日の生活が楽しい”52.1%等となっています。

日常生活の中で感じていること (自己肯定感)



“そう思う”の割合について“それ以外の世帯”に比べて“生活困窮世帯”の方が全ての項目で少なくなっていますが、中でも“②自分の将来が楽しみだ”“③自分は価値のある人間だと思う”“④自分は家族に大切にされている”“⑥毎日の生活が楽しい”“⑦さびしいと感じることはない”“⑩自分のことが好きだ”の6項目については“それ以外の世帯”よりも5ポイント以上低くなっています。

日常生活の中で感じていること（自己肯定感）
 <“そう思う”の割合>



(17) 自由意見 (FA)

278人(14.7%)から295件のご意見をいただきました。主なご意見と件数は下表のとおりです。

全体と中学2年生ではアンケートについてのご意見が最も多く、小学5年生では自分自身や生活を見直すことができたといったご意見が最も多くなっていました。

主な記述内容	小学5年生	中学2年生	全体
アンケートについて	48	47	95
自分自身や生活を見直すことができた等	59	18	77
正直になれた、スッキリした等	34	3	37
将来が楽しみ等	13	5	18
相談等	3	5	8
もっと人と仲良くしたい等	4	2	6
学校や先生に対する意見	2	1	3
将来が不安、心配		3	3
給食		2	2
学校設備の整備(体育館、トイレ等)		2	2
その他	32	12	44
合計	195	100	295

5 両親の学歴と「親の進学見通し」、 「子どもの進学希望」について

(1) 分析に用いた設問と選択肢の読み替え・分類

ここでは、保護者向け調査における3設問（親の最終学歴、将来の進学見通し、見通しの理由）と子ども向け調査における1設問（将来の進学希望）を用いた分析を行っています。

[設問選択肢の読み替え・分類]

分析にあたっては、次のような設問選択肢の読み替え・分類を行っています。

親の最終学歴については、母親・父親それぞれの学歴を“大卒”“大卒以外”に分類した上で、両親の学歴による組み合わせによって、“両親大卒”“いずれかのみ大卒”“いずれも大卒以外”の3タイプに読み替え・分類しています。

親の学歴	分類	両親の学歴による分類		父親	
中学校卒業	大卒以外	母親	大卒	大卒	両親大卒
高校中退				その他	いずれかのみ大卒
高校卒業		大卒	大卒	大卒	両親大卒
短大・高専卒業				その他	いずれかのみ大卒
大学卒業・大学院修了	大卒以外	母親	その他	大卒	両親大卒
専門学校等卒業				その他	いずれかのみ大卒
その他		大卒	大卒	大卒	両親大卒
不明				その他	いずれかのみ大卒
無回答					

将来の進学見通し及び将来の進学希望については、“高校まで”“大学以外”“大学”“その他・不明”の4タイプに読み替え・分類しています。

進路見通し・進路希望	分類
中学校	高校まで
高校	
高専（高等専門学校）	
短大	大学以外
大学・大学院	大学
専門学校	大学以外
その他	その他・不明
わからない	
無回答	

(2) 両親の学歴と進学の見通し・希望

[両親の学歴と子どもの進学見通し]

両親の学歴と進学見通しの関係についてみると、“両親大卒”“いずれかのみ大卒”では“大学”が最も多く、それぞれ72.4%、53.1%、また、“いずれも大卒以外”では“その他・不明”が最も多く33.6%、次いで“高校まで”が30.6%となっています。

子どもの進学見通しについて、その両親の学歴（大卒か否か）が大きく影響している状況がうかがえます。

		親の進学見通し				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
両親の学歴	計 (n=1,892)	100.0%	26.5%	11.3%	31.7%	30.5%
	両親大卒 (n=98)	100.0%	2.0%	5.1%	72.4%	20.4%
	いずれかのみ大卒 (n=354)	100.0%	16.7%	9.6%	53.1%	20.6%
	いずれも大卒以外 (n=1,440)	100.0%	30.6%	12.2%	23.7%	33.6%

[両親の学歴と子どもの進学希望]

両親の学歴と子どもの進学希望の関係についても、同様に、“両親大卒”“いずれかのみ大卒”では“大学”が最も多くなっていますが、それぞれ63.3%、46.9%と、進学見通しでの値と比べると少なくなっています。“いずれも大卒以外”でも“高校まで”が最も多い状況は同じですが、進学見通しと比べると多く、34.0%となっています。

子どもの進学希望についても、その両親の学歴（大卒か否か）の影響がうかがえますが、影響の度合いは親の考える進学見通しに比べると小さいようです。

		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
両親の学歴	計 (n=1,892)	100.0%	30.9%	19.6%	36.5%	13.0%
	両親大卒 (n=98)	100.0%	11.2%	12.2%	63.3%	13.3%
	いずれかのみ大卒 (n=354)	100.0%	23.4%	17.2%	46.9%	12.4%
	いずれも大卒以外 (n=1,440)	100.0%	34.0%	20.7%	32.2%	13.1%

(3) 進学見通しと進学希望のマッチング状況

親の考える進学見通しとその子どもの進学希望の関係についてみると、進学見通しが“高校まで”では進学希望も“高校まで”が最も多く14.2%、“大学以外”“大学”についても同様にこのような進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられます。“高校まで”“大学以外”“大学”それぞれの一致率の合計は40.4%となっています。

全体		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=1,892)	100.0%	30.9%	19.6%	36.5%	13.0%
	高校まで	26.5%	14.2%	3.3%	5.0%	4.0%
	大学以外	11.3%	2.3%	5.5%	2.3%	1.2%
	大学	31.7%	4.4%	3.9%	20.7%	2.7%
	その他・不明	30.5%	9.9%	6.9%	8.6%	5.1%

ここでは、便宜上、次のように考えることとします。

高校まで < 大学以外 < 大学

見通し=希望 (一致)	見通し<希望	
	見通し=希望 (一致)	
見通し>希望		見通し=希望 (一致)

一方で、進学見通し以上の進学を子どもが希望しているケース“見通し<希望”が10.6%、逆に進学見通しほどの進学を希望していないケース“見通し>希望”が10.6%となっています。

こうした状況について、両親の学歴別にみると次のようになっています。

【“両親大卒”の場合】

“両親大卒”の場合でも、進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられ、その一致率は53.0%、また、“見通し<希望”は3.0%、“見通し>希望”は14.2%となっています。

両親大卒		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=98)	100.0%	11.2%	12.2%	63.3%	13.3%
	高校まで	2.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%
	大学以外	5.1%	1.0%	2.0%	2.0%	0.0%
	大学	72.4%	6.1%	7.1%	50.0%	9.2%
	その他・不明	20.4%	3.1%	3.1%	10.2%	4.1%

【“いずれかのみ大卒”の場合】

“いずれかのみ大卒”の場合も、進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられ、その一致率は45.7%、また、“見通し<希望”は8.2%、“見通し>希望”は17.5%となっています。

いずれかのみ大卒		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=354)	100.0%	23.4%	17.2%	46.9%	12.4%
	高校まで	16.7%	7.6%	1.4%	4.8%	2.8%
	大学以外	9.6%	2.3%	4.5%	2.0%	0.8%
	大学	53.1%	7.9%	7.3%	33.6%	4.2%
	その他・不明	20.6%	5.6%	4.0%	6.5%	4.5%

【“いずれも大卒以外”の場合】

“いずれかも大卒以外”の場合も、進学見通しと進学希望の一致の傾向がみられ、その一致率は38.2%、また、“見通し<希望”は11.7%、“見通し>希望”は8.7%となっています。

進学見通し以上の進学を子どもが希望しているケース“見通し<希望”の11.7%は、両親の学歴別3タイプの中で最も多くなっています。

いずれも大卒以外		子どもの進学希望				
		計	高校まで	大学以外	大学	その他・不明
親の進学見通し	計 (n=1,440)	100.0%	34.0%	20.7%	32.2%	13.1%
	高校まで	30.6%	16.7%	4.0%	5.3%	4.5%
	大学以外	12.2%	2.4%	6.0%	2.4%	1.3%
	大学	23.7%	3.5%	2.8%	15.5%	1.9%
	その他・不明	33.6%	11.4%	7.9%	9.0%	5.3%

(4) 進学の見通しと見通し理由

親の考える進学の見通しと見通しの理由について、進学見通し別に10%以上の理由を挙げると、“高校まで”では“子どもの学力から考えた結果”が最も多く29.1%、次いで“子どもが希望しているから”28.5%、“家に経済的な余裕がないから”12.4%となっています。

“大学以外”では“子どもが希望しているから”が最も多く54.2%、次いで“子どもの学力から考えた結果”16.4%、“その他”11.2%、“大学”では“子どもが希望しているから”47.8%、“学歴は重要だと思うから”26.2%となっています。

進学見通しの理由	計 (n=1,892)	親の進学見通し			
		高校まで (n=584)	大学以外 (n=371)	大学 (n=691)	その他・不明 (n=246)
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子どもが希望しているから	30.7%	28.5%	54.2%	47.8%	5.9%
自分達親もそうであったから	5.2%	8.8%	5.6%	4.7%	2.6%
子どもの学力から考えた結果	15.5%	29.1%	16.4%	10.0%	9.2%
子どもの兄弟姉妹もそうするから	1.0%	1.6%	0.5%	1.3%	0.2%
子どもの仲の良い友達もそうするから	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
できるだけ早く働いてもらいたいから	0.7%	2.2%	0.9%	0.0%	0.2%
家に経済的な余裕がないから	4.6%	12.4%	2.8%	0.0%	3.3%
学歴は重要だと思うから	10.4%	4.4%	6.1%	26.2%	0.9%
その他	14.7%	7.6%	11.2%	6.3%	30.8%
無回答	17.1%	5.4%	2.3%	3.5%	47.0%

(5) 進学の見通し理由と見通し・希望のマッチング状況

進学見通しの理由と見通し・希望のマッチング状況の関係について、見通し理由別にみると、本来は見通しと希望が一致するはずの“子どもが希望しているから”において、一致しているのは64.8%であることがわかります。親は一致しているはずと考えているものの、進学見通しほどの進学を希望していないケース“見通し>希望”が12.1%、逆に、進学見通し以上の進学を子どもが希望しているケース“見通し<希望”が10.0%となっています。

また、“子どもが希望しているから”以外についても、その理由を問わず、全てにおいて一致が最も多くなっています。

進学見通しの理由 (理由別)	計	進学の見通し・希望のマッチング状況			
		見通し>希望 (不一致)	見通し=希望 (一致)	見通し<希望 (不一致)	不明
計 (n=1,892)	100.0%	10.6%	40.4%	10.6%	38.4%
子どもが希望しているから (n=580)	100.0%	12.1%	64.8%	10.0%	13.1%
自分達親もそうであったから (n=99)	100.0%	15.2%	41.4%	15.2%	28.3%
子どもの学力から考えた結果 (n=294)	100.0%	10.5%	40.8%	19.7%	28.9%
子どもの兄弟姉妹もそうするから (n=18)	100.0%	5.6%	61.1%	11.1%	22.2%
子どもの仲の良い友達もそうするから (n=1)	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
できるだけ早く働いてもらいたいから (n=14)	100.0%	7.1%	57.1%	14.3%	21.4%
家に経済的な余裕がないから (n=87)	100.0%	2.3%	43.7%	21.8%	32.2%
学歴は重要だと思うから (n=197)	100.0%	31.5%	50.8%	5.1%	12.7%
その他 (n=278)	100.0%	5.4%	12.6%	10.1%	71.9%
無回答 (n=324)	100.0%	1.2%	10.5%	2.8%	85.5%

マッチング状況別にみると、“見通し>希望”と“見通し=希望”で、“子どもが希望しているから”という理由が最も多くなっています。“見通し<希望”では、“子どもが希望しているから”と“子どもの学力から考えた結果”という理由が最も多くなっています。

進学見通しの理由 (マッチング状況別)	計 (n=1,892)	進学の見通し・希望のマッチング状況			
		見通し>希望 (n=201)	見通し=希望 (n=764)	見通し<希望 (n=201)	不明 (n=726)
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
子どもが希望しているから	30.7%	34.8%	49.2%	28.9%	10.5%
自分達親もそうであったから	5.2%	7.5%	5.4%	7.5%	3.9%
子どもの学力から考えた結果	15.5%	15.4%	15.7%	28.9%	11.7%
子どもの兄弟姉妹もそうするから	1.0%	0.5%	1.4%	1.0%	0.6%
子どもの仲の良い友達もそうするから	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
できるだけ早く働いてもらいたいから	0.7%	0.5%	1.0%	1.0%	0.4%
家に経済的な余裕がないから	4.6%	1.0%	5.0%	9.5%	3.9%
学歴は重要だと思うから	10.4%	30.8%	13.1%	5.0%	3.4%
その他	14.7%	7.5%	4.6%	13.9%	27.5%
無回答	17.1%	2.0%	4.5%	4.5%	38.2%

【参考】全国学力・学習状況調査との比較

平成 28 年度に行われた全国学力・学習状況調査と類似の設問について、比較を行いました。（調査対象、設問項目等が同一でないため、参考値となります。）

[全国学力・学習状況調査の概要]

実施日	平成 28 年 4 月 19 日	
調査対象	小学 6 年生	1,041 人
	中学 3 年生	1,002 人

[学習状況調査]

全国学力・学習状況調査における生活習慣や学習環境などに関する設問と本調査の類似設問項目は下表のとおりです。

全国学力・学習状況調査の設問		本調査設問項目
1	人の役に立つ人間になりたい。	該当設問なし
2	いじめはどんな理由があってもいけない。	該当設問なし
3	毎日朝食を食べている。	問 10 の“平日の朝食”と“休日の朝食”で「食べない」以外を選択
4	テレビゲームを 2 時間以上使用する。(月～金)	問 12 の“ゲームをする”で 2 時間以上を選択
5	授業以外に 1 時間以上学習している。(月～金)	問 12 の“勉強や宿題をする”で 1 時間以上を選択
6	家で計画を立てて勉強していますか。	該当設問なし
7	今住んでいる地域の行事に参加する。	該当設問なし
8	将来の夢や目標をもっている。	問 1 で「ある」を選択

[調査結果の比較]

「毎日朝食を食べている。」について、小学生、中学生ともに本調査が少なくなっています。

「テレビゲームを2時間以上使用する。(月～金)」について、小学生、中学生ともに本調査が10ポイント以上少なくなっています。

「授業以外に1時間以上学習している。(月～金)」について、中学生では、全国学力・学習状況調査(中学3年生)より本調査(中学2年生)が約20ポイント少なくなっています。

「将来の夢や目標をもっている。」について、小学生、中学生ともに本調査が少なくなっています。

(単位：%)

設問項目	全国学力・学習状況調査 小学6年生		本調査 小学 5年生	全国学力・学習状況調査 中学3年生		本調査 中学 2年生
	大村市	全国		大村市	全国	
毎日朝食を食べている。	95.0	95.5	94.3	94.8	93.3	90.5
テレビゲームを2時間以上使用する。(月～金)	25.1	29.7	13.4	28.4	34.9	10.8
授業以外に1時間以上学習している。(月～金)	58.4	62.5	50.9	70.1	67.9	50.2
将来の夢や目標をもっている。	84.6	85.3	82.3	73.1	71.1	68.3